泉大津文化財調査報告16

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報 6

1988・3

泉大津市教育委員会

泉大津文化財調査報告16

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報6

1988・3

泉大津市教育委員会

例　　言

1．本調査概報は、泉大津市教育委員会が、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地内において、開発行為に先立って実施した発掘調査記録である。

2．本調査は、泉大津市が国庫補助事業及び、大阪府補助事業（総額 3,000,000円、国補助率50％、府補助率25％、市負担率25％）として、計画・実施したものである。

3．本調査は下記の構成で実施した。

調査主体者　泉大津市教育委員会教育長　藤原勇三

調査担当者　泉大津市教育委員会社会教育課　坂口昌男

同課嘱託　中山和之（S62.6まで）

内藤俊哉（S62.7より）

調　査　員　辻川陽一

調査補助員　小原央子・藤原昭彦・大野育子

事　務　局　泉大津市教育委員会社会教育課（課長鈴木実）

4．本事業は、昭和62年度事業として、昭和62年4月5日に着手し、昭和63年3月31日に完了した。

5．本書の作成は、坂口・中山・内藤が執筆し、実測・トレース及び図版作成は、中山・内藤・小原が行った。

目　　次

第１章　埋蔵文化財調査の状況…… 1
第２章　地理・歴史的環境 …… 6
　第１節　地理的環境…… 6
　第２節　歴史的環境…… 8
第３章　発掘調査報告 ……11
　第１節　池上・曽根遺跡……11
　第２節　豊中遺跡……14
　第３節　虫取遺跡……40
　第４節　板原遺跡……42
　第５節　池浦遺跡……47
　第６節　七ノ坪遺跡……53
　第７節　東雲遺跡……55
　第８節　穴田遺跡……58

挿　　図

第１図　遺跡分布図…… 7
第２図　池上・曽根遺跡調査地点図……11
第３図　池上・曽根遺跡第１地点掘削位置図……12
第４図　池上・曽根遺跡第１地点調査坑断面図……12
第５図　池上・曽根遺跡第２地点掘削位置図……13
第６図　池上・曽根遺跡第２地点調査坑断面図……13
第７図　豊中遺跡調査地点図……14
第８図　豊中遺跡第１地点掘削位置図……15
第９図　豊中遺跡第１地点調査坑断面図……16
第10図　豊中遺跡第２地点掘削位置図……17
第11図　豊中遺跡第２地点調査坑断面図……17

第12図　豊中遺跡第３地点掘削位置図……18
第13図　豊中遺跡第３地点調査坑断面図……18
第14図　豊中遺跡第４地点掘削位置図……19
第15図　豊中遺跡第４地点調査坑断面図……19
第16図　豊中遺跡第５・６地点掘削位置図……20
第17図　東壁断面図……21
第18図　西壁断面図……22
第19図　南壁断面図……23
第20図　北壁断面図……24
第21図　第５地点遺構図……25
第22図　竪穴住居址１……26
第23図　竪穴住居址１貯蔵穴……27
第24図　竪穴住居址２……27
第25図　ピット２……28
第26図　井戸……28
第27図　出土遺物……29
第28図　豊中遺跡南壁断面図……31
第29図　豊中遺跡西壁断面図……32
第30図　豊中遺跡遺構図……33～34
第31図　豊中遺跡１号竪穴住居址……35
第32図　豊中遺跡２号竪穴住居址カマド状遺構……36
第33図　豊中遺跡掘立柱建物……37
第34図　豊中遺跡出土遺物……38
第35図　虫取遺跡調査地点図……40
第36図　虫取遺跡掘削位置図……41
第37図　虫取遺跡調査坑断面図……42
第38図　板原遺跡調査地点図……43
第39図　板原遺跡第１地点掘削位置図……44

第40図　板原遺跡第１地点調査坑断面図……45
第41図　板原遺跡第２地点掘削位置図……46
第42図　板原遺跡第２地点調査坑断面図……46
第43図　池浦遺跡調査地点図……47
第44図　池浦遺跡第１地点掘削位置図……48
第45図　池浦遺跡第１地点調査坑断面図……49
第46図　池浦遺跡第２地点掘削位置図……50
第47図　池浦遺跡第２地点調査坑断面図……51
第48図　池浦遺跡第３地点掘削位置図……51
第49図　池浦遺跡第３地点調査坑断面図……52
第50図　池浦遺跡第３地点出土遺物……52
第51図　七ノ坪遺跡調査地点図……53
第52図　七ノ坪遺跡掘削位置図……54
第53図　七ノ坪遺跡調査坑断面図……54
第54図　東雲遺跡調査地点図……55
第55図　東雲遺跡第１地点掘削位置図……56
第56図　東雲遺跡第１地点調査坑断面図……56
第57図　東雲遺跡第２地点掘削位置図……57
第58図　東雲遺跡第２地点調査坑断面図……57
第59図　穴田遺跡調査地点図……58
第60図　穴田遺跡掘削位置図……58
第61図　穴田遺跡調査坑断面図……59

挿　　表

表１　遺跡別届出件数…… 1
表２　遺跡別調査件数…… 2
表３　昭和62年度調査一覧表…… 2
表４　昭和61年度調査一覧表(追加分)…… 5
表５　遺物観察表……61

図　　版

1……池上・曽根遺跡第1地点調査坑・第2地点調査坑

2……豊中遺跡第1地点調査坑・第4地点調査坑

3……豊中遺跡第5地点南部遺構全景・第5地点竪穴住居址1貯蔵穴

4……豊中遺跡第5地点北部遺構全景・第5地点井戸

5……豊中遺跡第6地点遺構全景・第6地点1号竪穴住居址

6……豊中遺跡第6地点2号竪穴住居址・第6地点2号竪穴住居址カマド状遺構

7……豊中遺跡第6地点掘立柱建物跡・第6地点ピット2

8……豊中遺跡第6地点溝1・第6地点北壁河川状遺構断面

9……池浦遺跡第1地点調査坑・池浦遺跡第1地点ピット

10……東雲遺跡第1地点調査坑・東雲遺跡第2地点調査坑

第１章　埋蔵文化財調査の状況

昭和62年度における埋蔵文化財発掘届出件数及び調査件数は、表１・２のとおりである。泉大津市内においては、市街地化が進む中、住宅建設が圧倒的に多く、とりわけ個人住宅が全体の43％を占めている。又昨年に引き続き、投資の対象としての共同住宅建設が見られる。（表１（　）内数字）更に、本年度顕著に増加しているのが、ガス・水道工事で40％となっている。従来は、ガス工事による埋蔵文化財包蔵地の発掘届出書だけであったが、本年度より本市土木課で、道路占用許可申請書が提出された際、周知の遺跡内における水道・電気工事もチェックして発掘届出書を教育委員会へ提出するよう指導している為である。ただし電柱の建設は、慎重工事を意見書に明記して、発掘届出書の提出は指示していない。減少したものとしては、工場・倉庫建設工事があげられる。特に倉庫建設工事は、著じるしい。これは、投機的対象としての倉庫建設が本市において行われていない所以である。すなわち遊休地の利用方法として、倉庫建設から共同住宅建設へと移行している傾向を示している。

調査内容においても、掘削深度の浅い住宅建設や、ガス・水道管埋設による狭小な掘削面積などから本年度も立会調査が多数を占める結果となっている。（表２）

表１　遺跡別届出件数　（昭和62年４月１日～昭和63年２月29日）

遺跡名	件数	内訳				
		住宅	ガス・水道	工場・倉庫	店舗・事務所	その他
池上・曽根遺跡	16	8（1）	6	1	1	
豊中遺跡	32	10（3）	14	1	5	2
虫取遺跡	20	10	7		2	1
大園遺跡	3	1	2			
板原遺跡	2	1				
池浦遺跡	20	8	8	1	2	1
穴師遺跡	6	3	3			
七ノ坪遺跡	5	4（1）	1			
東雲遺跡	15	6（4）	7		2	
薬師寺跡	1	1				
森遺跡	1		1			
穴田遺跡	2	1			1	
助松遺跡	1					1
計	124	53（9） （43％）	49 （40％）	3 （2％）	13 （10％）	6 （5％）

※　（　）内は共同住宅

本年度も昨年と同様、発掘届出件数と調査件数との間に大きな隔りがみられ、調査率は52%と約半数である。

本年度調査の実施日・地番・遺跡名・概略等は表3に示す。但し発行期日の都合上、昭和62年2月29日までである。なお前年度報告書未記載の分を表4で報告する。

表2　遺跡別調査件数

（昭和62年4月1日～昭和63年2月29日）

遺跡名	件数	内訳	
		立会	発掘
池上・曽根遺跡	10	8	2
豊中遺跡	20	15	5
虫取遺跡	7	6	1
大園遺跡	3	3	
板原遺跡	2		2
池浦遺跡	9	6	3
穴師遺跡	3	3	
七ノ坪遺跡	3	2	1
東雲遺跡	5	3	2
薬師寺跡	1	1	
穴田遺跡	1		1
計	64	47	17

表3　昭和62年度調査一覧表

（昭和62年4月1日～昭和63年2月29日）

月日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考（調査番号）
4・6	我孫子211	虫取遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
4・6	北豊中町2丁目464－7	七ノ坪遺跡	発掘調査	住宅建設に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器片出土。(8703)
4・21	宇多1048－6	虫取遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
4・22	北豊中町2丁目15－3	豊中遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
4・24	東豊中町1丁目47	豊中遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
4・28	池園町111－5	池上・曽根遺跡	発掘調査	住宅建設に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(8704)
5・1	北豊中町2丁目984－34	豊中遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
5・8	池浦町4丁目689－4	池浦遺跡	発掘調査	住宅建設に先立つ調査で、弥生時代のピットが検出された。弥生土器・土師器・須恵器・瓦器出土。(8705)
5・11	北豊中町3丁目979－25 －26	豊中遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、遺構・遺物等は認められず。
5・12	下条町614－49	東雲遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。

月　日	調　査　地　番	遺　跡　名	調査内容	備　　考（調査番号）
5・12 〜 5・15	北豊中町2丁目987－12	豊中遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
5・15	東雲町61－1 62－2	東雲遺跡	発掘調査	住宅建設に先立つ調査で、中世の鋤痕が検出された。土師器・須恵器・瓦器出土。(8706)
5・15	北豊中町2丁目380-21、-9の一部、984-1、-37	豊中遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
5・15	北豊中町2丁目984－36	豊中遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
5・15	北豊中町2丁目984－35	豊中遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
5・19 〜 5・21	綾井9－1 10－1の一部	大園遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
5・21	池浦町5丁目1－6	池浦遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
5・28	森町2丁目63－5	池上・曽根遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
6・2	池浦町2丁目486－13 －15	虫取遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削が浅いため遺構・遺物等は認められず。
6・4	北豊中町2丁目986－10 －11 －12	豊中遺跡	発掘調査	住宅建設に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・須恵器・瓦器出土。(8707)
6・8	北豊中町2丁目1－14	七ノ坪遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
6・18	曽根町1丁目12	池上・曽根遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
6・20	宮町32－3	池浦遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、遺構・遺物等は認められず。
7・4	北豊中町3丁目979－26	豊中遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・4	宇多1051－6	虫取遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・16	下条町5－21	東雲遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・24	我孫子54－1	穴田遺跡	発掘調査	事務所建設に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(8708)
7・24	我孫子231－3	虫取遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
8・8	北豊中町2丁目984	豊中遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
8・11	北豊中町2丁目986－8	豊中遺跡	発掘調査	店舗建設に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(8709)

月　日	調　査　地　番	遺　跡　名	調査内容	備　　考（調査番号）
8・29	曽根町1丁目141	池上・曽根遺跡	発掘調査	共同住宅建設に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・須恵器・瓦出土。(8710)
9・7	東雲町63－6	東雲遺跡	発掘調査	事務所建設に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器出土。(8711)
9・9	東豊中町1丁目967－1、－2	豊中遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、遺構・遺物等は認められず。
9・10	虫取23－1	虫取遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
9・11	下条町614－19	池浦遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、遺構・遺物等は認められず。
9・11	東雲町4－14	東雲遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
9・12	下条町16－1	池浦遺跡	発掘調査	事務所建設に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(8712)
9・19	曽根町2丁目15－27	池上・曽根遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
9・21	虫取41-1、45、46-1、79、80 我孫子260、261 池浦60-1	虫取遺跡	発掘調査	宅地造成に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(8713)
9・22	豊中407-3、411、412-3	豊中遺跡	発掘調査	倉庫建設に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・須恵器・瓦器出土。(8714)
9・24	尾井千原133－15、137－21	大園遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
9・26	千原町2丁目1、2	池上・曽根遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
10・12	東豊中町1丁目111－2、112－1	豊中遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
11・9	宮町32－1	池浦遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
11・10	東豊中町1丁目64－1	豊中遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、遺構・遺物等は認められず。
11・10 ～ 12・27	東豊中町2丁目－959	豊中遺跡	発掘調査	店舗建設に先立つ調査で、古墳時代の竪穴住居址・掘立柱建物跡・溝等検出。土師器・須恵器・瓦器出土。(TO－33)
11・11	森町2丁目217－4	池上・曽根遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、遺構・遺物等は認められず。
11・14	北豊中町2丁目982－1、－2	豊中遺跡	発掘調査	駐車場造成に先立つ調査で、遺構・遺物は認められず。(8715)
11・19	北豊中町1丁目547－4	七ノ坪遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、遺構・遺物等は認められず。
11・27	池浦町4丁目169－1	池浦遺跡	発掘調査	体育館建設に先立つ調査で、遺構は認められず。弥生土器・土師器・須恵器・瓦器出土。(8716)

月　日	調　査　地　番	遺　跡　名	調査内容	備　　考（調査番号）
12・2	池園町111−1,−6	池上・曽根遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
12・9	下条町3−17	池浦遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
12・11	曽根町1丁目5−16	池上・曽根遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
12・23〜1・21	北豊中町1丁目495−1,496−1	七ノ坪遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、古墳時代の溝1条検出。土師器出土。（HI−8）
12・29	豊中699−3	穴師遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
12・29	豊中699−3	穴師遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
12・29	豊中699−3	穴師遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
1・11	東豊中町3丁目40,41-1、-2,47	豊中遺跡	立会調査	事務所建設工事によるもので、遺構・遺物等は認められず。
1・22	綾井17	大園遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
1・26	森町1丁目53−4,−5	池上・曽根遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
2・1	豊中858−5	豊中遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
2・1	我孫子525	薬師寺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、遺構・遺物等は認められず。。
2・12	下条町248−8	池浦遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、遺構・遺物等は認められず。
2・15	我孫子109−1、−3,110−1	板原遺跡	発掘調査	駐車場及び資材置場建設に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・瓦器・白磁出土(8801)
2・25	穴田205	板原遺跡	発掘調査	住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(8802)

表4　昭和61年度調査一覧表（追加分）

（昭和62年3月1日〜昭和62年3月31日）

月　日	調　査　地　番	遺　跡　名	調査内容	備　　考（調査番号）
3・3	豊中266	豊中遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物は認められず。
3・11	北豊中町2丁目984−34	豊中遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
3・17	下条町614−83	東雲遺跡	立会調査	住宅建設工事によるもので、基礎掘削は盛土内におさまっていた。

第２章　地理・歴史的環境

第１節　地理的環境

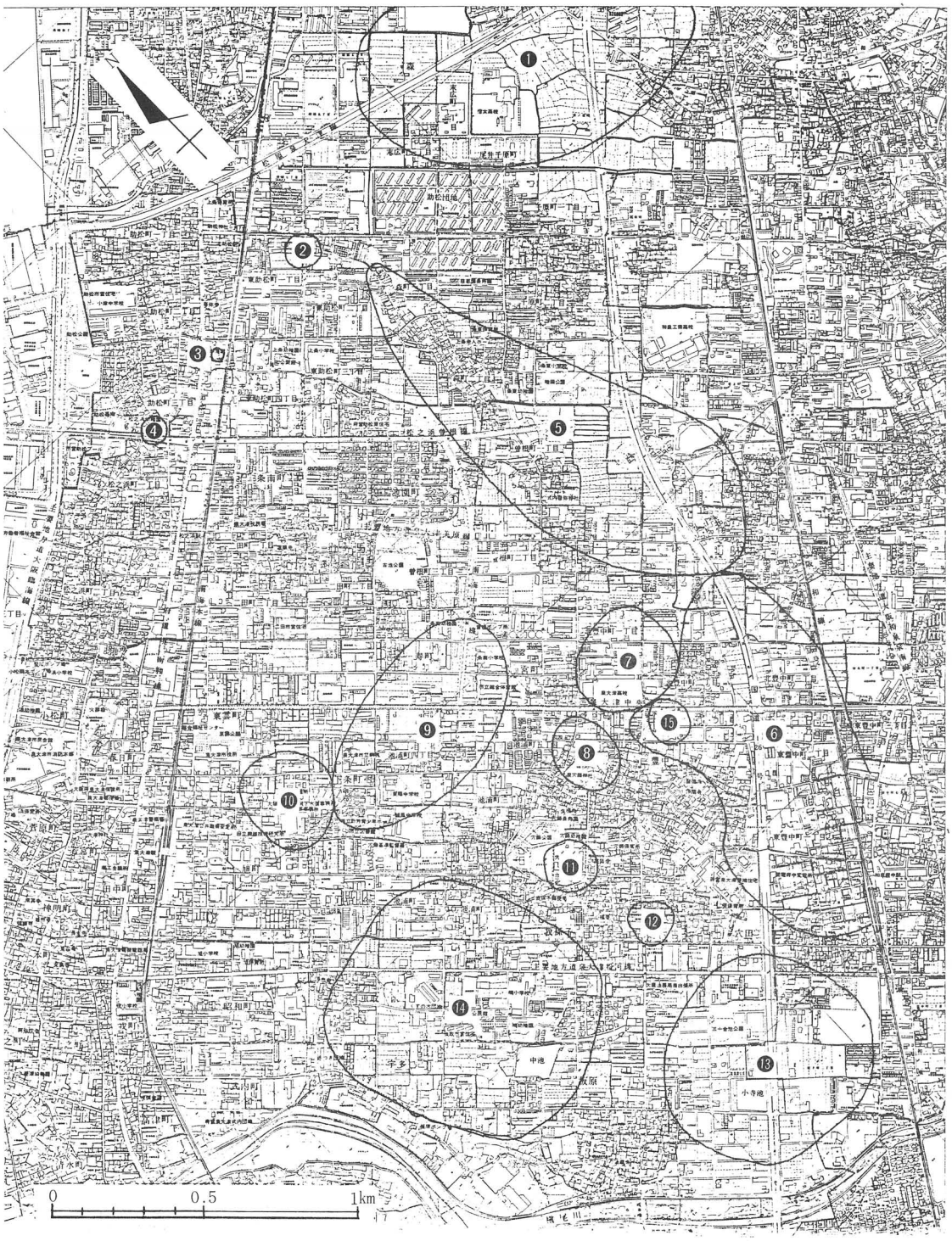
大阪府泉大津市は、大阪平野南部（泉州地域）の海岸部に位置する。市の西側は大阪湾に面し、北側は高石市、東側は和泉市、南側は大津川を挟んで泉北郡忠岡町と接している。そして、低位段丘、海岸砂礫堆及び後背低地の上に立地し、山間部を有しない。市の面積は11.68k㎡、人口は69,142人（昭和63年２月１日現在）と小規模な存在であるが、昭和17年には、府下で７番目に市制が施行され、早くから開けた地域でもある。

市を南北に横切って、私鉄南海電鉄本線とＪＲ阪和線が約２㎞離れてほぼ平行に走り、大阪と和歌山を結んでいる。南海線では北側より、北助松・松之浜・泉大津の３駅があり、急行の停車する泉大津駅は、難波駅より所用時間約20分と近距離にある。

この鉄道と平行して、市内西部の海岸沿いを、府道堺阪南線と大阪臨海線が、又、東部を国道26号線（旧第２阪和国道）の道路が延びている。さらに市内の東西を結ぶ道路として、府道松之浜曽根線・松原泉大津線・泉大津粉河線・市道泉大津中央線があり、道路網は縦横にめぐっている。泉大津市の市街地は、南海電鉄本線と府道堺阪南線に沿って、明治以降、商工業用建物と住宅とで形成されてきた。市の東部は、水田地帯が広がり、農村集落がみられたが、昭和45年に大阪で開催された日本万国博覧会を契機に、商業都市大阪のベッドタウンとして泉州地域が注目され、宅地開発の波が押し寄せた。更に、第２阪和国道の建設と、それに伴う土地区画整理事業が実施され、市街地化が進行している。こうして市域全体が市街化区域となり、市内に20数個あった溜池も、その大半が埋め立てられ、住宅・団地・工場・公園・学校・公民館などの用地に転用されている。

この地域の地場産業の一つに、毛布・ニットを中心とする織物工業があり、特に毛布の生産高は全国の96％を占めている。又、近年、海岸側が堺・泉北臨海工業地帯として埋め立てられ、工場や倉庫が建ち並び、九州小倉と結ぶカーフェリーが発着するなど、港湾の都市としても発展しつつある。

さらには、泉州沖の関西国際空港建設に伴って、空港貨物基地誘地、産業廃棄物処理のフェニックス計画や、泉大津駅東側の再開発計画など新たな発展を目指している。



第1図　遺跡分布図

1．大園遺跡　2．森 遺 跡　3．牛 滝 塚　4．助松遺跡　5．池上・曽根遺跡
6．豊中遺跡　7．七ノ坪遺跡　8．穴師遺跡　9．池浦遺跡　10．東雲遺跡
11．薬師寺跡　12．穴田遺跡　13．板原遺跡　14．虫取遺跡　15．大福寺跡

第２節　歴史的環境

泉大津市が所在する泉州地域は、大阪平野の南部に属し、気候は温暖であったため古くから生活の場・生産の場として開けていた。それは、市内各所に所在する遺跡の数からも首肯される。現在、市内には、大園、豊中、板原、池上・曽根、池浦、虫取、東雲、七ノ坪、穴師、穴田といった集落遺跡や、穴師薬師寺、大福寺などの寺院跡、又、考古学的に確認されていないが、千原城、刈田城、真鍋城、城の山等の城址が先人の足跡として残されている。これら市内の遺跡を中心に、周辺の遺跡にも言及しながら、この地域の歴史的環境の概略を以下に述べていく。

—旧石器時代—

泉大津市内では、現在のところ旧石器時代に属する遺物は発見されていない。泉大津市・和泉市・高石市の３市にまたがる大園遺跡の段丘上より、後期旧石器時代のナイフ形石器と、旧石器終末期より縄文時代草創期・早期の有舌尖頭器が出土している①。又、隣接する和泉市の大床遺跡からは、サヌカイト製のナイフをはじめ、石核・剥片約30個が検出された②。和泉市伯太北遺跡・和気遺跡③、堺市野々井遺跡・百舌鳥本町遺跡、岸和田市西山遺跡・琴山遺跡・葛城山頂遺跡・海岸寺山遺跡等で、旧石器時代に属すると思われる石器や剥片の出土がある。以上の遺跡は、段丘上や丘陵上に立地するという特徴をもっており、人々の行動の範囲を示している。

—縄　文　時　代—

泉大津市においては、現在のところ縄文時代の明確な遺構は検出されていないが、板原遺跡では、後期の中津式を伴う自然流路や福田ＫⅡ式の遺構面、晩期の溝状遺構やピット等が報告されている④。又、豊中遺跡でも埋積谷の旧河道内より中期末の土器片が発見されるなど⑤、縄文人の存在を窺わせる。虫取遺跡では、晩期に属する土器が、弥生時代前期中頃の土器と共伴して出土し⑥、縄文文化から弥生文化への過渡期の様子を示す好資料を与えてくれた。

—弥　生　時　代—

泉大津市池浦遺跡は、市内で最も古い弥生時代の遺跡の一つで、前期中段階に形成された集落であり、低位段丘上に位置し、居住区は人工によるＶ字溝で限定されていたと思われる。この集落は、短期間のうちにその生命を失ったようで、中期以降の土器は発見されていない。虫取遺跡も人工の、Ｖ字溝が検出され、第１様式新段階から第２様式の土器が、晩期の縄文土器を伴って大量に放棄されていた⑦。和泉市池上町から泉大津市曽根町にかけての池上・曽根遺跡は、弥生時

代の全期間を通じて、集落の生成・発展過程を知らしめる遺跡である。それは、前期に集落が形成され、中期にはその周囲を環濠が囲繞し、後期になると分散の傾向を示し、やがて古墳時代の集落へと移行する様子が発掘調査で明らかにされた。又、出土品は土器・石器・木器等厖大な量で他地域の人々との交流を示すものもある。以上の重要性から昭和51年に史跡指定がなされた。この時代の水田は、七ノ坪遺跡によって、畦畔の規模や取水方法等が知られる。他に遺跡としての実態は不明であるが、中期の壺棺が出土した穴師小学校校庭遺跡⑧や、有鉤銅釧を出土した⑨古池遺跡（昭和61年度より豊中遺跡に含まれる⑩）、砂丘遺跡かと思われる助松遺跡などがある。

—古　墳　時　代—

泉大津市においては現在、古墳は存在しないが、古い地形図によると塚らしいものが見られ、かつては存在していた可能性もある。又、東雲遺跡からは埴輪片が出土しており、古墳もしくは祭祀遺跡との関連が考えられる。

集落遺跡は、昭和50年代に平野部で行なわれた道路建設に先立つ調査で、急激に発見例が増加した遺跡である。泉大津市における遺跡も例外ではない。古墳時代初期に属するものとして、豊中遺跡・七ノ坪遺跡・東雲遺跡があり、竪穴住居で集落は構成されている。七ノ坪遺跡は、この住居と共に、弥生時代からの伝統的墓形態である方形周溝墓や土坑墓⑪も発見されており、高塚墳墓の被葬者と階層的差異によるものか、あるいは文化の相違に由来するものなのか問題となるところである。この外、水田跡も検出され⑫集落の一つのまとまりを示している。又、遺物散布地として、板原遺跡・虫取遺跡・助松遺跡・穴師遺跡などがある。

—飛鳥・白鳳・奈良・平安時代—

泉州地域は河内国に属していたが、奈良時代には独立して和泉国府が置かれた。泉大津の浜は小津の泊として紀貫之の「土佐日記」にも見られ、国府の港すなわち国府津（津とは港のこと）として、現在も高津町にその名を残す。国府と国府津を結んだと思われる勅使道に沿って形成された集落として東雲遺跡があり、掘立柱建物が10数棟検出されている。出土遺物により、それらの建物は奈良時代から鎌倉時代初期までの間に属し、主軸方向が異なることや重複することで何度も建て直されていると考えられる。

豊中遺跡から、平安時代後半に属する方形井戸が１基検出され、井戸内には「田井」「田井殿」と高台部内側あるいは体部外面に墨書された内面黒色土器や、灰釉陶器・土鍋・土師器杯が埋められ、井戸の機能は失なわれていた⑬。

白鳳時代創建とされる泉穴師神社、その神宮寺として栄え、崇敬を集めた穴師薬師寺の跡や豊

中遺跡からは、平安時代末以降の瓦が出土している。穴師薬師寺は、宝亀年中に大津浦に流れついた木像の薬師如来を、穴師村に草堂を建てて安置したのに始まり、平安時代の中頃に大規模となり、代々の天皇より綸旨院宣が下された寺院である。基壇が発掘され、「穴師堂」銘瓦や宋銭が出土している。豊中遺跡内には「大福寺」の小字名が残り、これは江戸時代まで存続した寺院である。板原遺跡からは平安時代の掘立柱建物が検出されている。遺物散布地として、穴師遺跡や虫取遺跡・大園遺跡があげられる。

―鎌倉時代・室町時代―

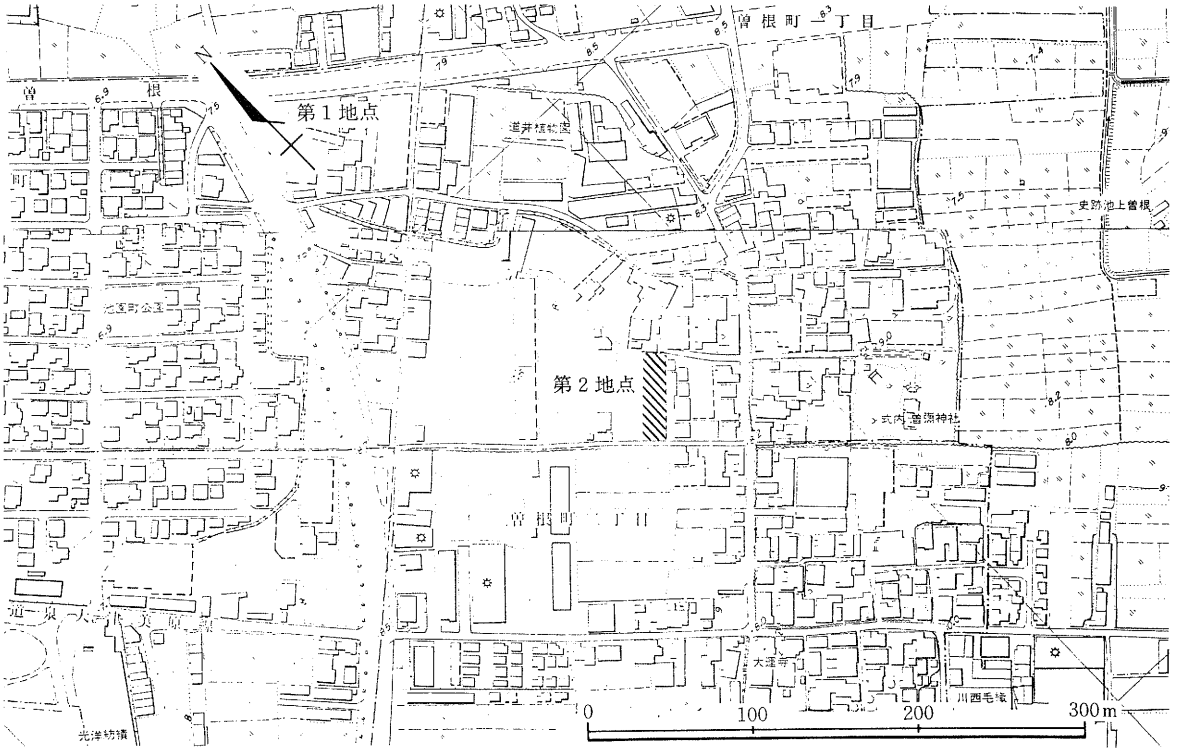
泉大津市内における中世の遺跡として、まず東雲遺跡があげられる。この遺跡は平安時代に始まり、鎌倉時代初期に至る掘立柱建物で構成される集落遺跡である。古池遺跡から、鎌倉時代の倉庫等の掘立柱建物⑭、板原遺跡からも同時代の掘立柱建物７棟が⑮、又、七ノ坪遺跡からも小溝群とピットが発見されている。豊中遺跡においては、土釜（羽釜）や曲物を井筒とした井戸、河原石組の井戸⑯などから、瓦器椀、瓦質羽釜、瓦質練鉢、瓦、土師質小皿などの遺物も多数出土している。しかし、建物跡となると、特に鎌倉時代後半から室町時代にかけては、今のところ１例も確認されていない。その理由は、地面の削平によるものなのか、建物の基礎構造が痕跡を残さないものなのかのいづれかと思われるが、断言はできない。穴田遺跡は、土釜を積み上げた井戸の発見によって昭和31年に周知された遺跡であるが、その実態は不明である。遺物散布地として、虫取遺跡・穴師遺跡・池上・曽根遺跡などがある。

第３章　発掘調査報告

第１節　池上・曽根遺跡

Ⅰ　調査に至る経過

池上・曽根遺跡は、和泉市池上町に於て、水田や、その土を使用した土塀に、石器や土器片が見られることで、古く明治時代から有職者には知られていた。又、戦後、市営住宅の建設や府営水道の水道管埋設工事により、緊急調査が行なわれ、住居址の存在から集落跡であることが報告された⑰。しかし本格的な調査が実施されたのは、昭和44年～46年にかけての第２阪和国道建設に先立っての発掘調査からである。その成果は、かねて考えられていた弥生集落の内容をはるかに上まわり、その認識を書き換える必要を生じせしめたものである。それは、弥生時代前期に於ける集落の生成から発展への過程、及び古墳時代集落への移行の様子を明らかにするものである。その後の調査により、遺跡は和泉市のみでなく、泉大津市曽根町にまで伸びていることがわかり、その重要性から、昭和51年４月26日、国の史跡に指定され、泉大津市、和泉市により、保存のた



第２図　池上・曽根遺跡調査地点図

め徐々に公有地化が進められている。又、その周辺部に於ても、府教育委員会をはじめ両市教育委員会に於て、毎年発掘調査が実施され、遺跡の様子がより明らかにされつつある。

II 調査結果

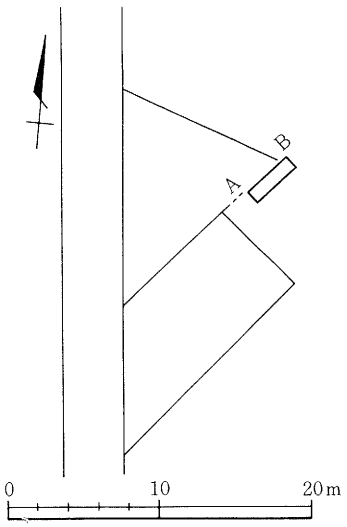
第 1 地 点（池園町111－5　調査番号8704）

住宅建設に先立つ調査である。敷地面積は 73.47 ㎡である。

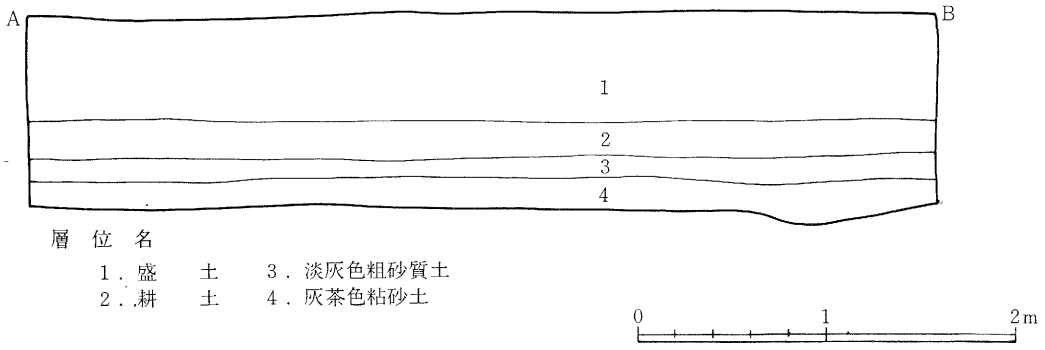
敷地のほぼ中央に、幅1.0m、深さ1.0m、長さ4.8mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とした調査を実施した。

層序は上部より、盛土約60cm、耕土約20cm、淡灰色粗砂質土10～14cmで灰茶色粘質土となる。ほぼ水平な堆積状況を示す。

遺構、遺物等は確認されず、写真撮影及び断面実測図を作成し、調査を終了とした。



第 3 図　池上・曽根遺跡
第 1 地点 掘削位置図



第 4 図　池上・曽根遺跡　第 1 地点調査坑断面図

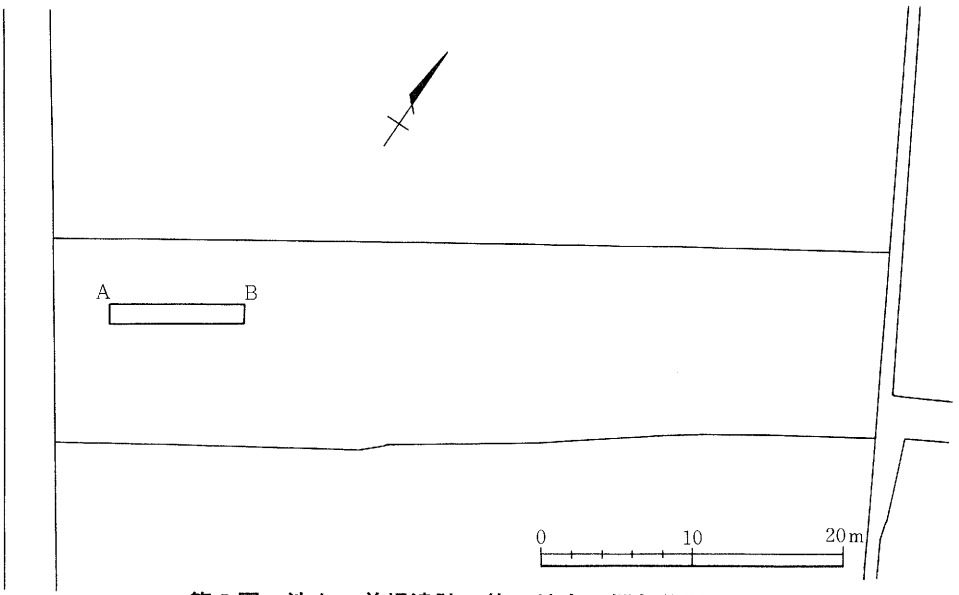
第 2 地 点（曽根町 1 －141　調査番号8710）

共同住宅建設に先立つ調査である。敷地面積は、710.80㎡である。

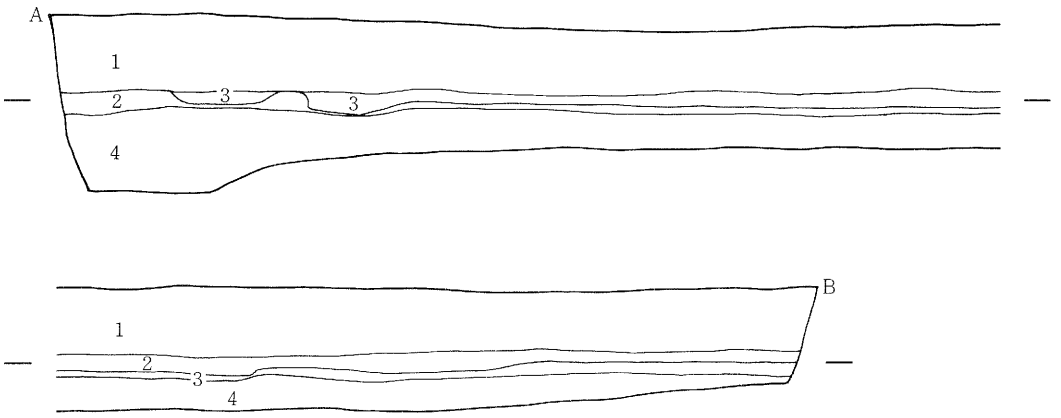
敷地の中央西寄りに、幅1.2m、深さ0.9～0.5m、長さ9.0mの規模の調査坑を設定し、重機に

よる掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とした調査を実施した。

層序は上部より、耕土35cm、旧耕土10cm、床土５～10cmで灰色粘質土となる。ほぼ水平な堆積状況を示す。最下層の灰色粘質土においても遺物を含むため地山面はさらに深くなると考えられる。



第５図　池上・曽根遺跡　第２地点　掘削位置図



第６図　池上・曽根遺跡　第２地点　調査坑断面図

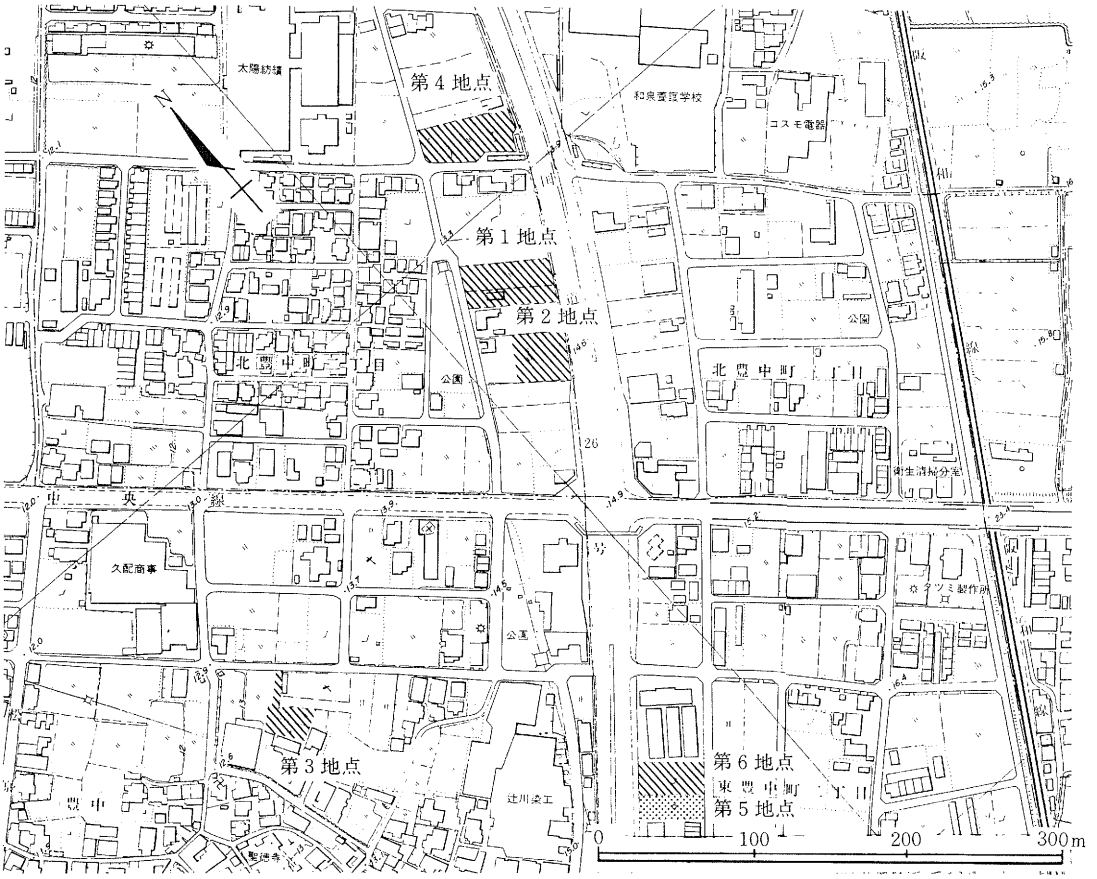
遺物は、主として灰色粘質土から須恵器、土師器、瓦の小片が出土した。遺構は確認されなかった。現状では、基礎掘削は、包含層の上層で終わることとなるため写真撮影及び断面実測図を作成し、調査は終了とした。

第２節　豊中遺跡

Ⅰ　調査に至る経過

泉大津市豊中・北豊中町及び東豊中町一帯に所在する豊中遺跡は、昭和30年代中頃に発見された遺跡[18]であるが、国道26号線及び土地区画整理事業の完成に伴い、開発行為が増加し、現在までに市内で最も数多くの発掘調査が実施されている。その調査結果の概略は次のとおりである。

まず縄文時代後期の土器が、埋積谷の旧河道砂礫層内より発見されている。この層内上部には、土師器や須恵器が含まれており、平安時代位まで存続していたものと思われる。この部分は土地



第７図　豊中遺跡調査地点図

区画整理が実施されるまで溜池であったが、それが築造されたのは、鎌倉時代かもしくはそれに近い時期と考えられる。このほか、古墳時代の集落が確認されている。集落は、竪穴住居と掘立柱建物とで構成されており、数棟単位で1グループをなしている。このようなグループが数ヵ所にあり、庄内式土器～布留式土器にかけての時期に属するものである。又、平安時代中頃の井戸や、鎌倉時代から室町時代に属する井戸等も検出されている。

II　調査結果

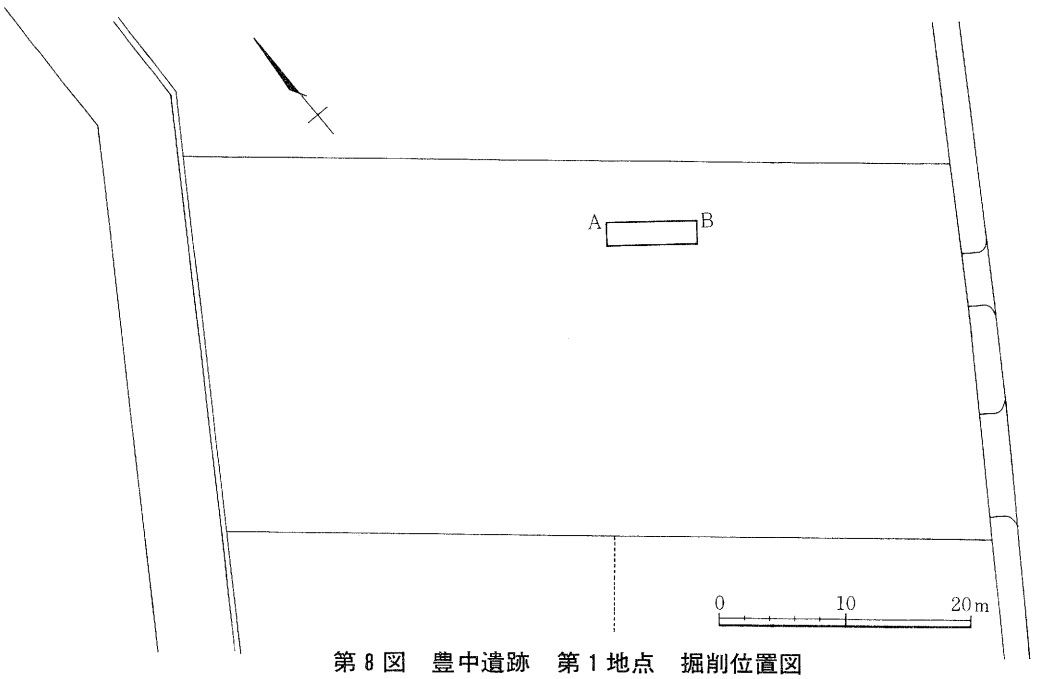
第　1　地　点（北豊中町2－986－10、11、12　調査番号8707）

住宅建設に先立つ調査である。敷地面積は1,771.63m²である。

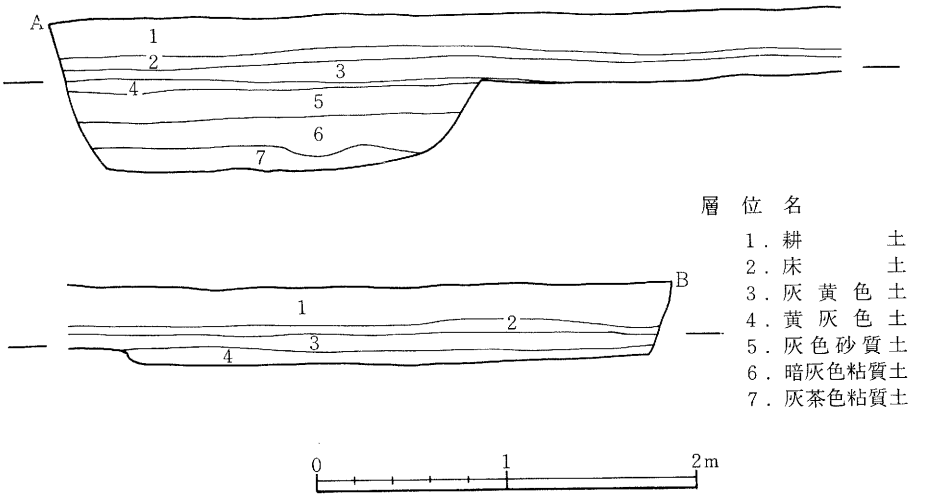
敷地のほぼ中央に、幅1.3～1.7m、深さ0.3～0.8m、長さ7.4mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とする調査を実施した。

層序は上部より、耕土約20cm、床土4～6cm、灰黄色土6～10cm、黄灰色土4～6cm、灰色粘質土14～16cm、暗灰色粘質土12～20cmで灰茶色砂質土となる。

灰黄色土、黄灰色土、灰色砂質土において平面的に遺構検出を行ったが遺構は確認されなかった。なお灰黄色土より土師器、須恵器、瓦器が、また黄灰色土より土師器、須恵器、灰色砂質土より土師器がそれぞれ出土している。なおこれらはみな細片でかなり磨耗を受けているため、二



第8図　豊中遺跡　第1地点　掘削位置図



第9図　豊中遺跡　第1地点　調査坑断面図

次堆積によるものと思われる。

写真撮影及び断面実測図を作成して調査を終了した。

第　2　地　点（北豊中2－986－8　調査番号8709）

店舗建設に先立つ調査である。敷地面積は991.735㎡である。

敷地のほぼ中央に、幅1.2m、深さ0.5～0.6m、長さ15.0mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とする調査を実施した。

層序は上部より、耕土約20cm、床土3～5cmで、東部においては灰色砂礫層に、西部では黄灰色砂層となる。

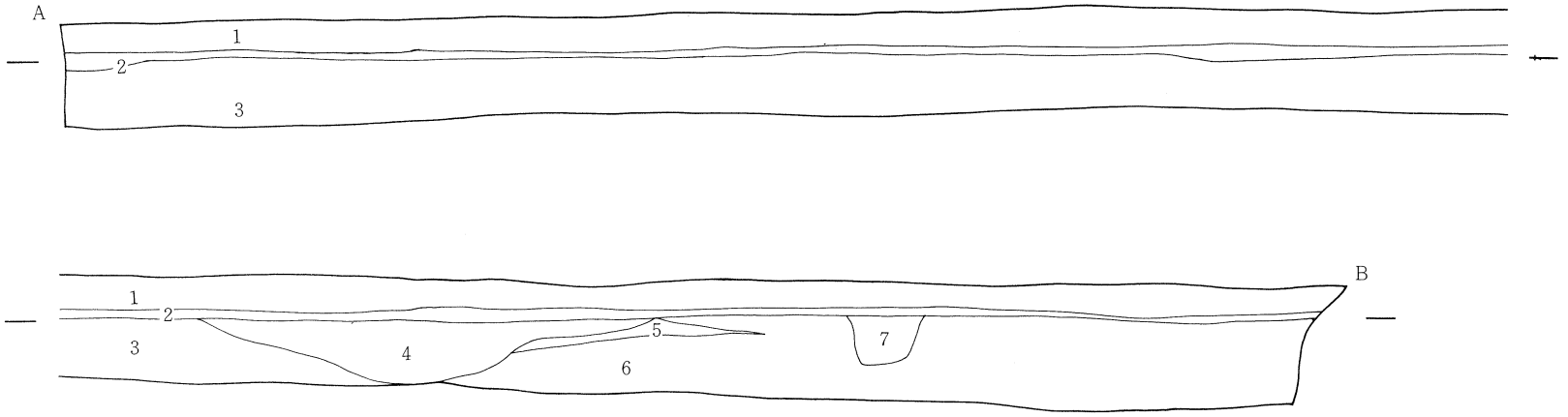
耕土、床土下は、すぐに砂、砂礫層という脆弱な層であるため遺構面は構成されないものと思われる。また遺物等の出土もないため、写真撮影及び断面実測図を作成し調査を終了した。

第　3　地　点（豊中町407－3、411－2、412－3　調査番号8714）

倉庫建設に先立つ調査である。敷地面積は731.98㎡である。

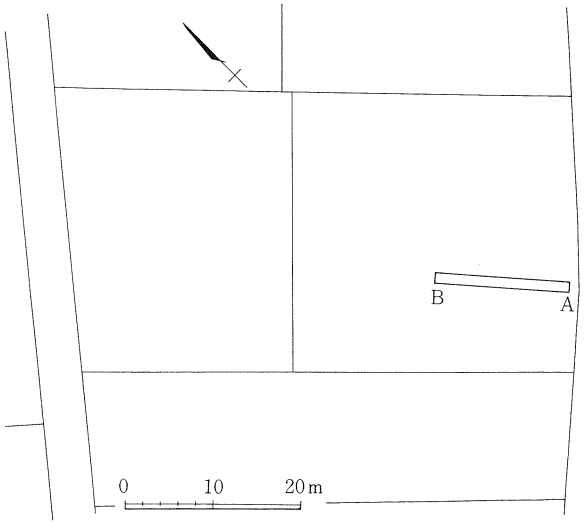
敷地北辺の建物の基礎にあたる部分に、幅1.2m、深さ0.4m、長さ7.0mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とする調査を実施した。

層序は上部より、耕土25～30cm、床土2～5cmで灰褐色土となる。またトレンチ西側部分において攪乱がみられる。なお灰褐色砂質土中より瓦器、土師器、須恵器片が散見されたが、いずれも磨耗が激しいものであった。



層位名

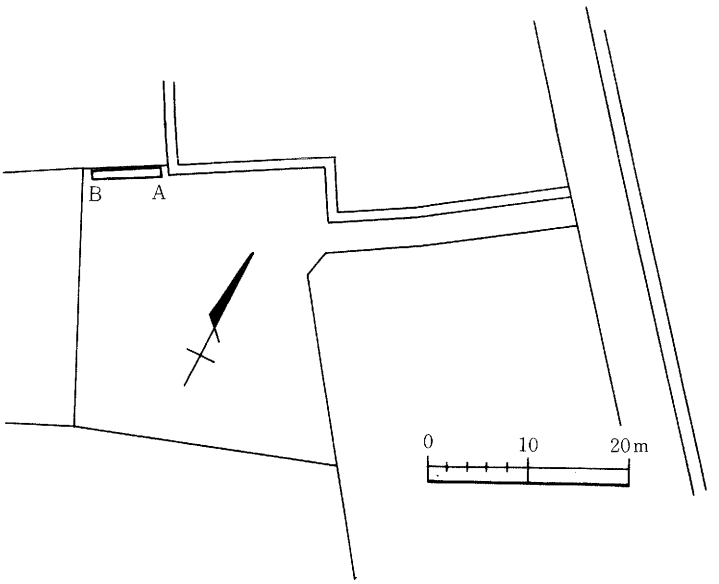
1．耕　　土
2．床　　土
3．灰色砂礫
4．黄灰色細砂
5．褐灰色砂礫
6．黄灰色砂（粘土混入）
7．攪　　乱



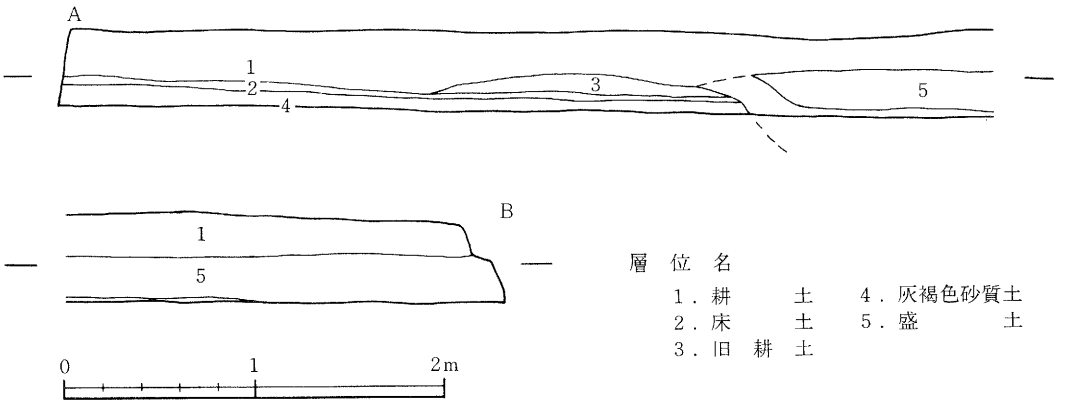
第10図　豊中遺跡　第2地点　掘削位置図

第11図　豊中遺跡　第2地点　調査坑断面図

遺構等は検出されず、包含層が確認されたものの遺物の混入は希薄であり、また建物の基礎もこの包含層のごく上層でおさまることなどから、写真撮影及び断面実測図を作成して調査を終了した。



第12図　豊中遺跡　第３地点　掘削位置図



第13図　豊中遺跡　第３地点　調査坑断面図

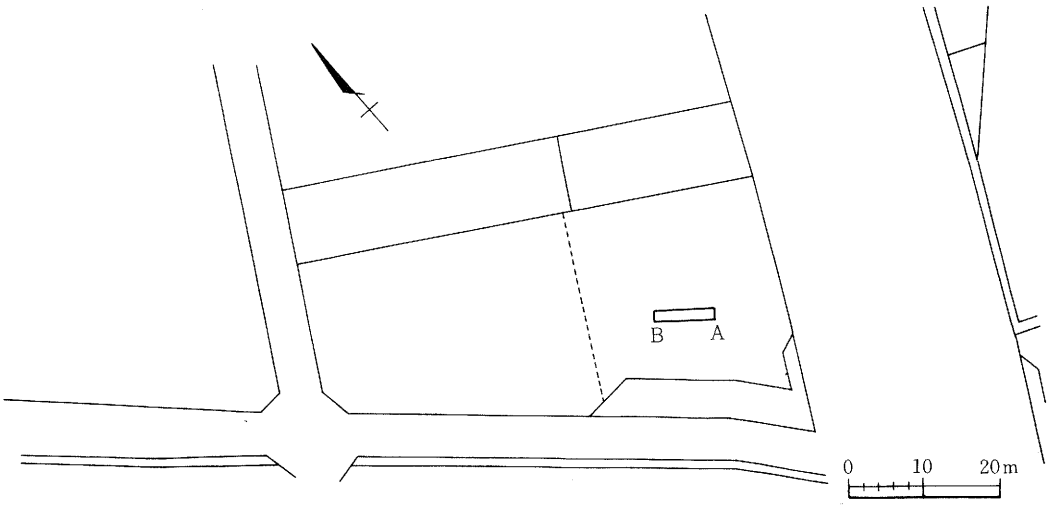
第　４　地　点（北豊中町２－982　調査番号8715）

駐車場造成に先立つ調査である。敷地面積は1,578.0㎡である。

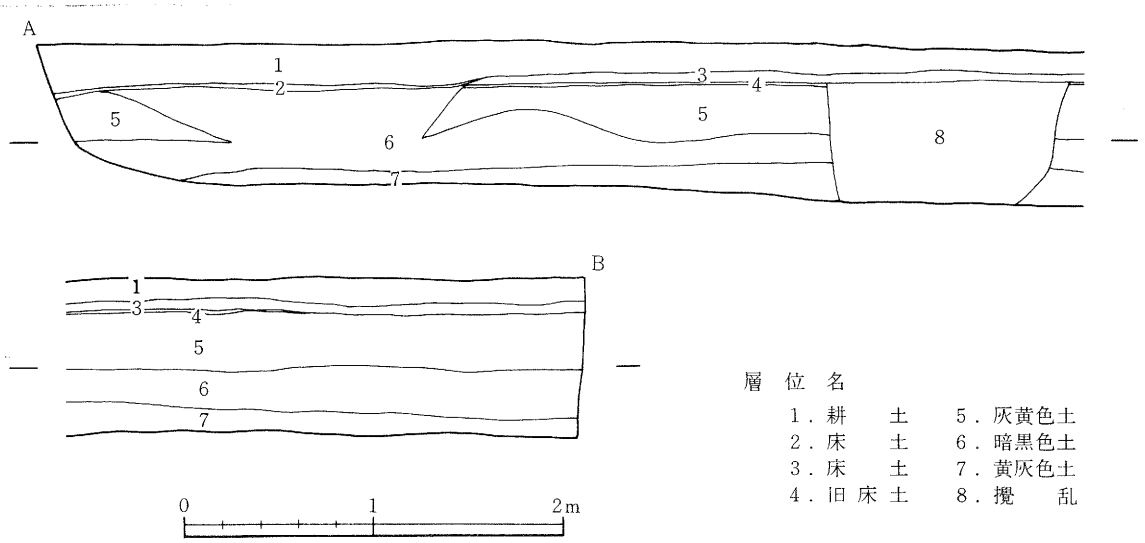
敷地中央やや東寄りの部分に、幅1.0m、深さ0.8m、長さ8.2mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とする調査を実施した。

層序は上部より、耕土15cm、床土５cm、灰黄色土30cm、暗黒色土10～28cmで黄灰色土となる。また、トレンチ中央部において床土直下より切り込む井戸状の攪乱がみられた。

遺構、遺物等は検出されなかった。当該地は、豊中遺跡の南端に位置するが、この周辺におい



第14図　豊中遺跡　第４地点　掘削位置図



第15図　豊中遺跡　第４地点　調査坑断面図

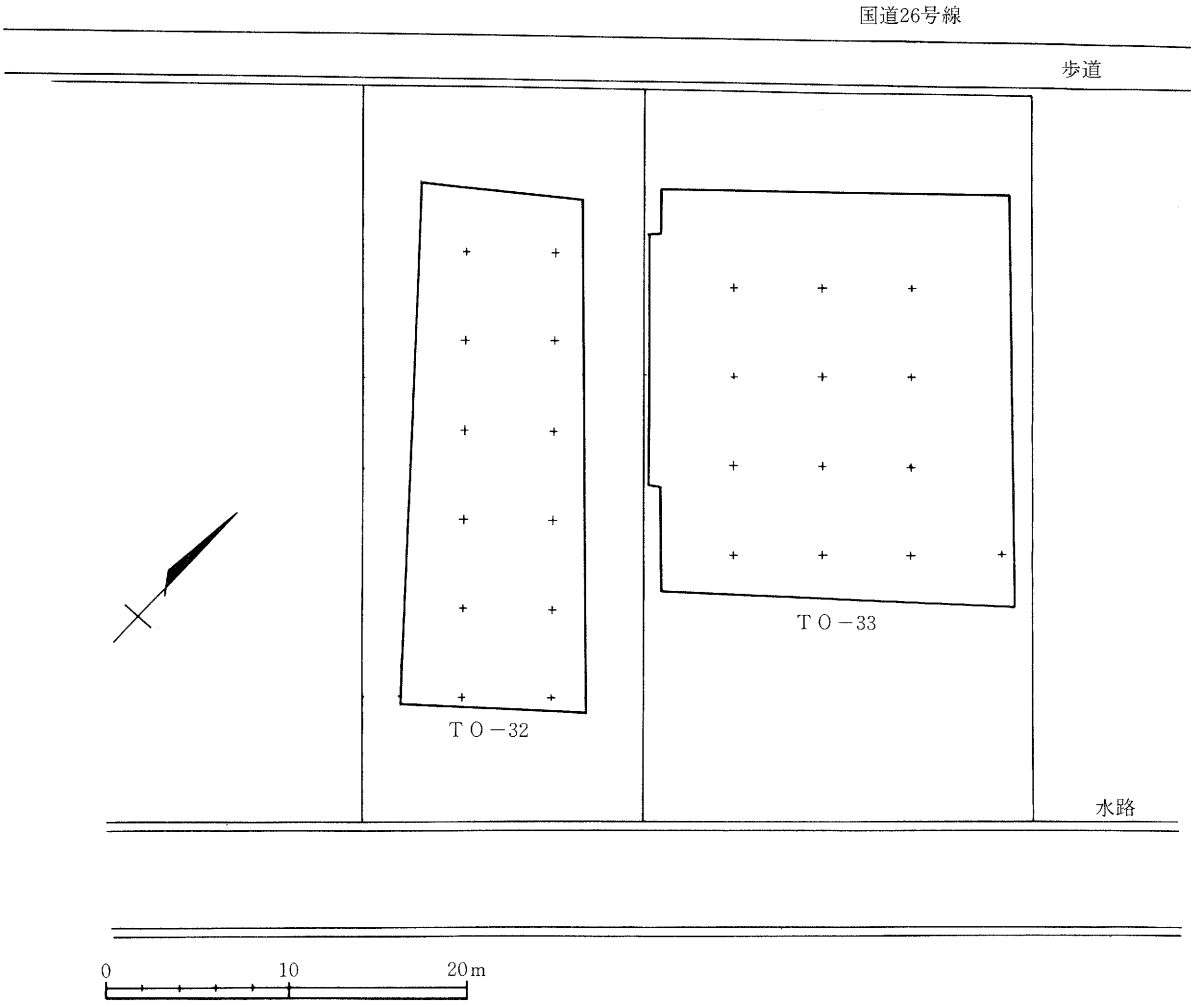
ては、地表下数10cmで遺構面を構成しない暗黒色土、灰黄色土が堆積しているようである。攪乱については、区画整理時に埋められた井戸であろう。

盛土工事であるため、写真撮影及び断面実測図を作成して調査を終了した。

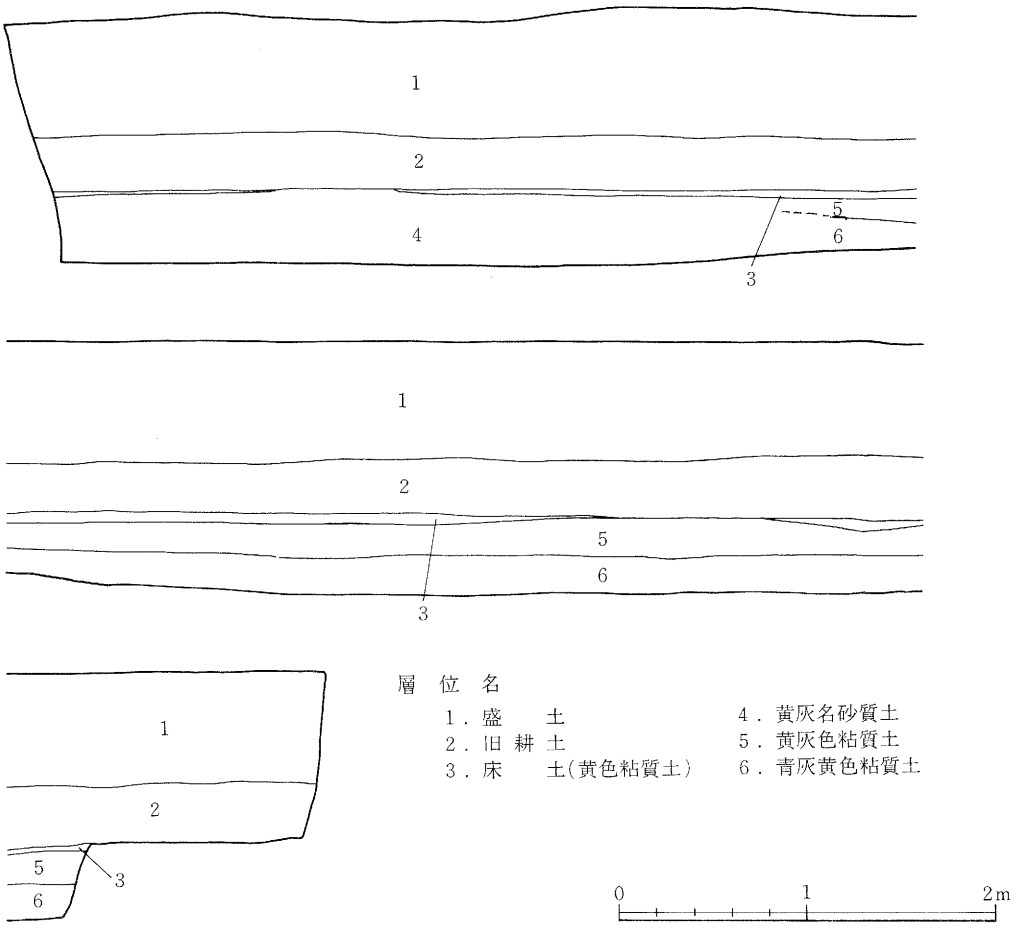
第　5　地　点（東豊中町２丁目959－5　調査番号ＴＯ－32）

店舗建設に先立つ調査である。調査期間は昭和62年１月21日～２月22日までの前年度であるが整理を本年度に実施したので、本書にて報告する。敷地面積は649㎡、調査面積は、建築位置に約316㎡（11ｍ×28.7ｍ）とした。

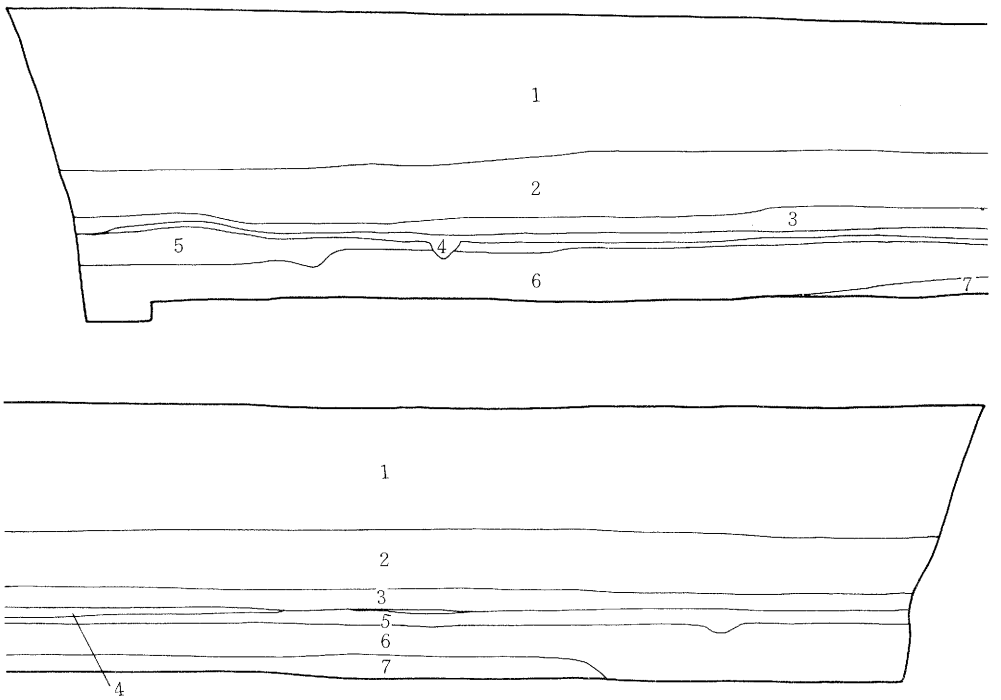
上記の大きさに調査範囲を設定し、掘削土置場の関係から２回に分割して調査を実施する。まず最初、重機により盛土（約80～100cm）、旧耕土（約30～40cm）を除去し、その後人力にて約10～20cm削平すると、西側へ行くほど厚くなる暗灰色粘質土層となりこの上層で溝が１条（溝１）検出された。更に10cmほど掘り下げると、住居址などの存在する最終遺構面となる。この遺構面は東側が黄灰色砂質土であるが、西へ行くにしたがって、灰黄色砂質土となり、遺構が検出しにくくなる地層だった。目立った遺構としては竪穴住居址２軒、溝２条、大ピット１個、井戸１基である。以下個々の遺構について記述する。



第16図　豊中遺跡　第５・６地点　掘削位置図


1
2
4
5
6
3
1
2
5
6
3
1
2
5
6
3
層 位 名
1．盛 土
2．旧 耕 土
3．床 土(黄色粘質土)
4．黄灰名砂質土
5．黄灰色粘質土
6．青灰黄色粘質土
0
1
2m

第17図 東 壁 断 面 図

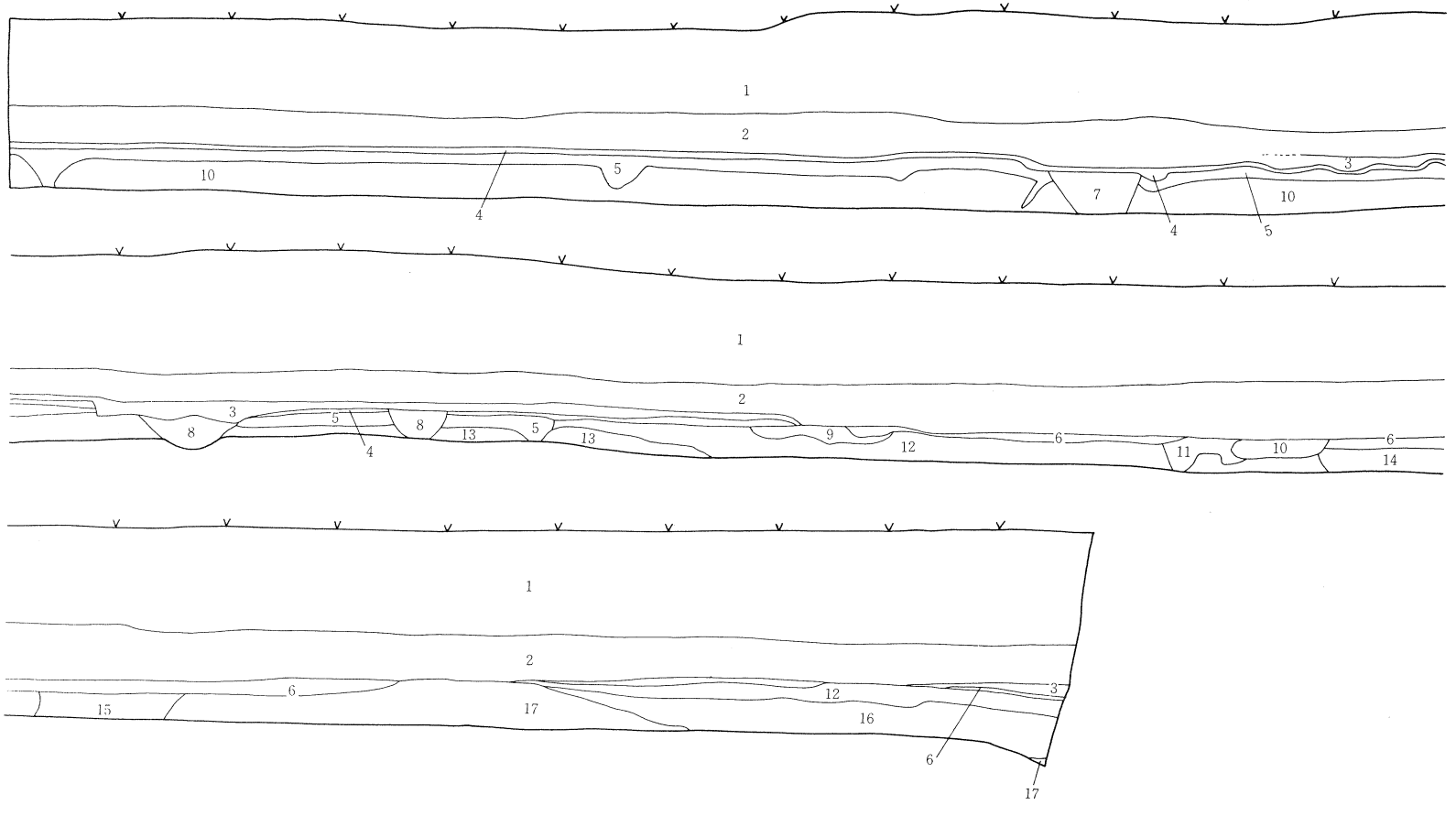


層　位　名

1．盛　　土
2．盛　　土
　（区画整理時）
3．耕　　土
4．灰茶色砂質土
5．黄 灰 色 土
6．暗灰紫色土
7．灰茶色砂礫混り土

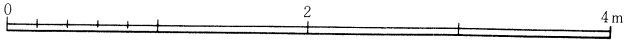
0　1　2m

第18図　西　壁　断　面　図

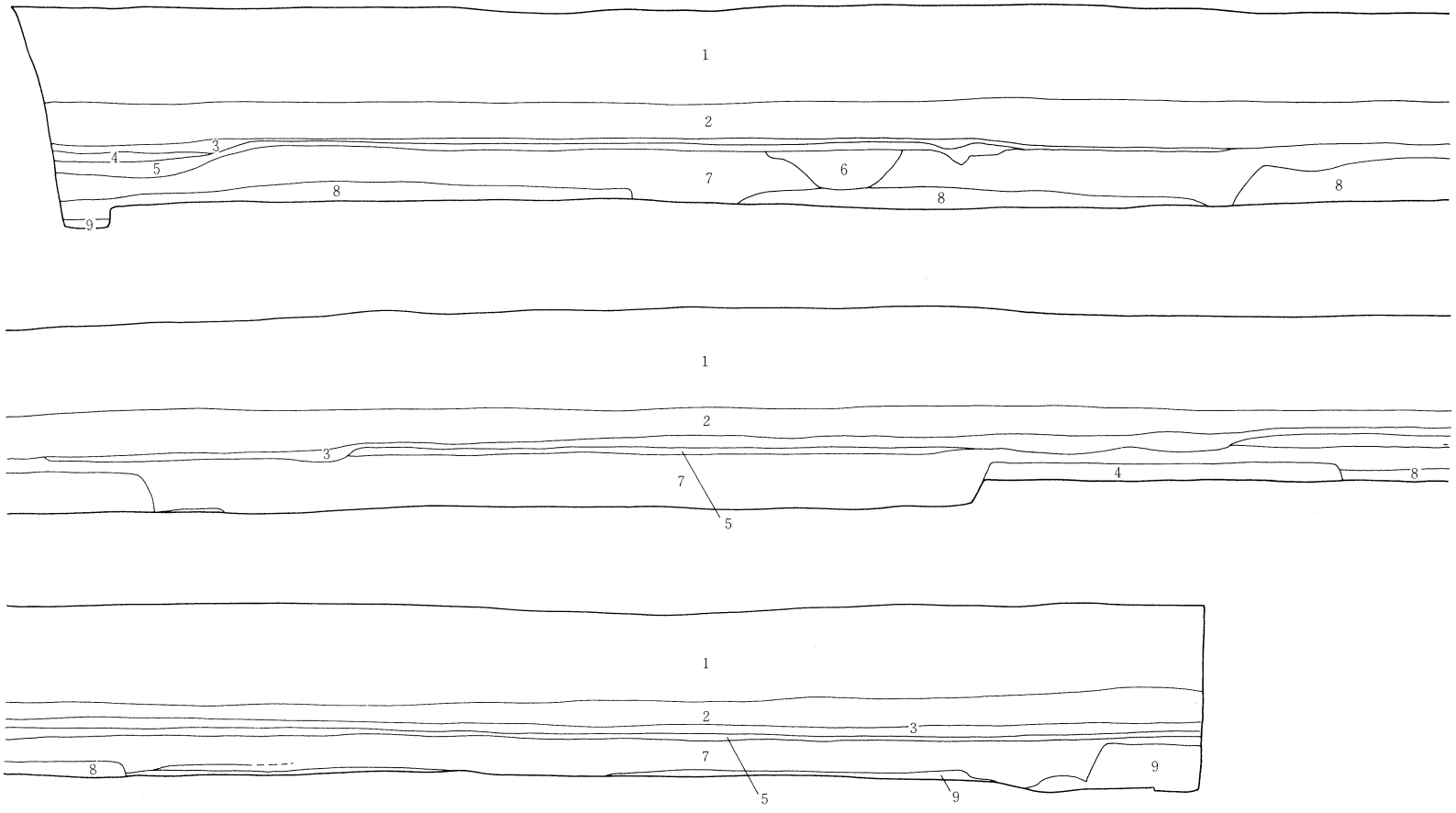


層　位　名

1．盛　　土
2．盛　　土(区画整理時)
3．耕　　土
4．黄茶色粘質土
5．暗灰紫色粘質土
6．灰茶色砂質土
7．灰茶砂質土
8．灰茶色砂
9．灰茶色粘砂土
10．黄灰色粘質土
11．暗灰黄色砂質土
12．灰黄色砂質土
13．灰色砂混り土
14．黄灰色砂質土
15．青灰色粘砂土
16．暗灰色粘質土
17．礫混り灰茶色砂



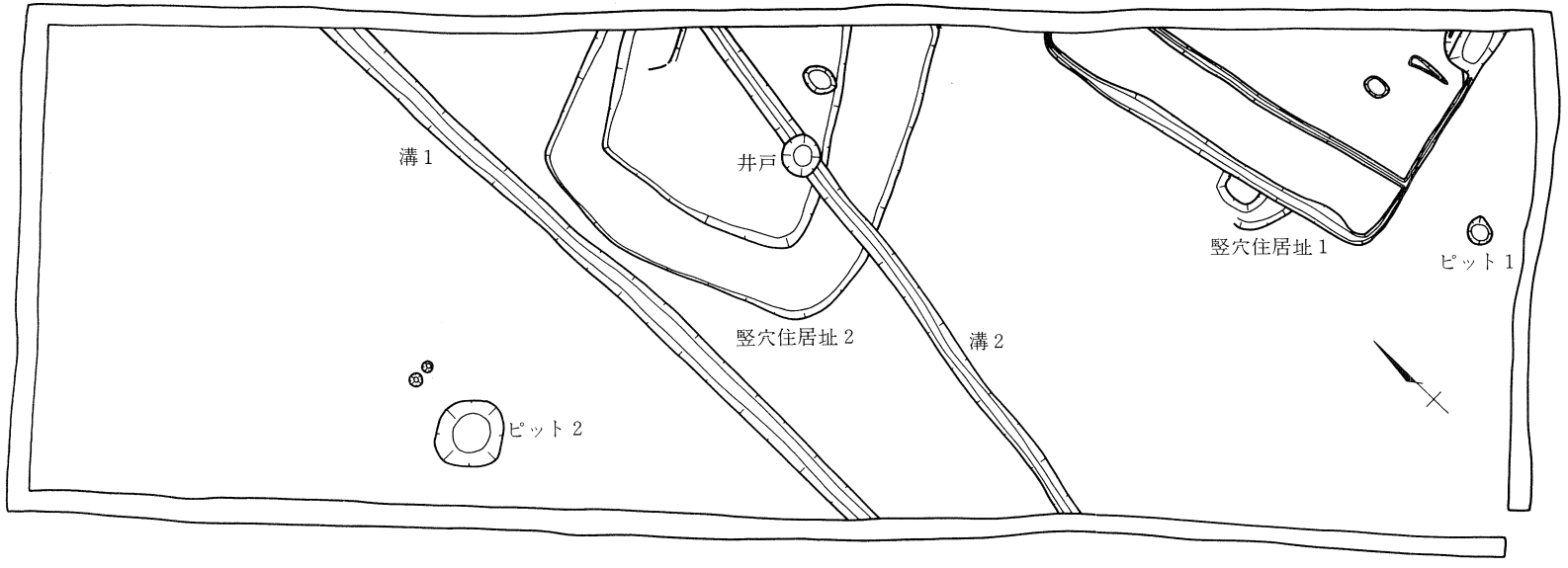
第19図　南　　壁　　断　　面　　図



層　位　名

1．盛　　土
2．盛　　土(区画整理時)
3．耕　　土
4．灰茶色砂質土
5．黄　茶　色　土
6．灰　茶　色　砂(溝2)
7．暗灰紫色粘質土
8．灰黄色砂質土
9．黄灰色砂質土

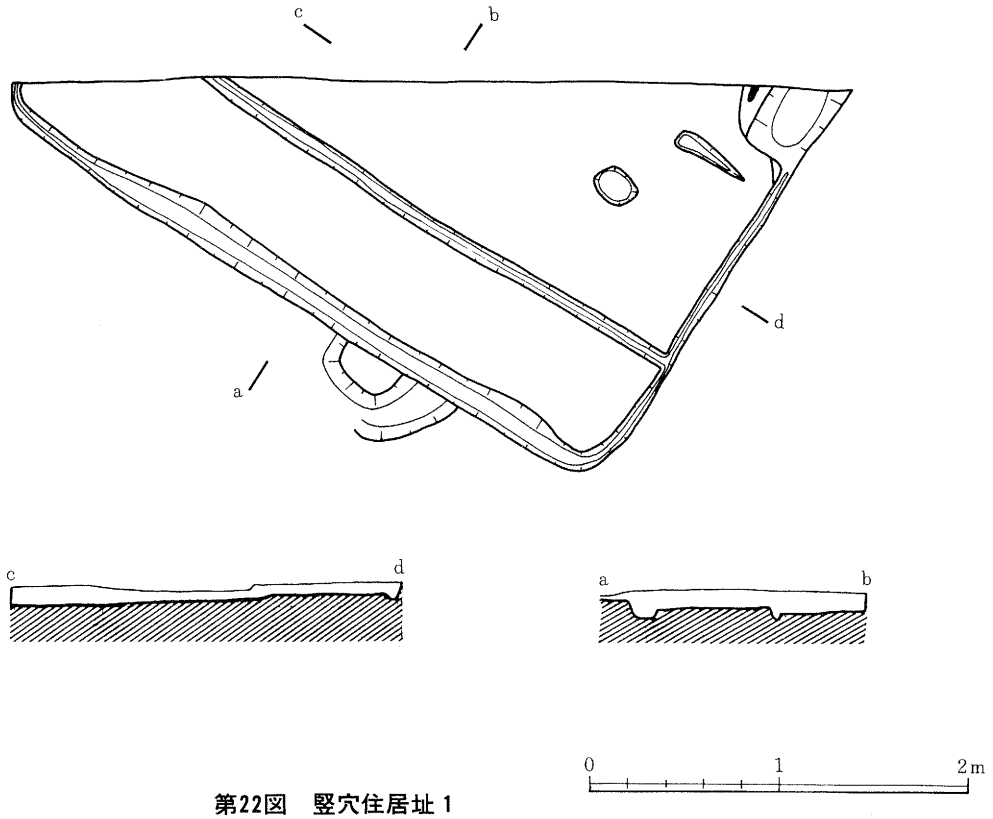
第20図　北　　壁　　断　　面　　図



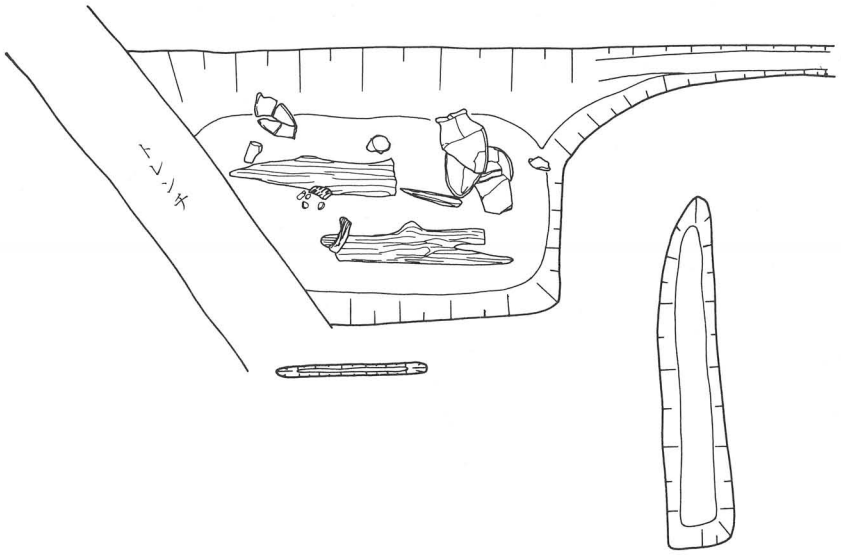
第21図　第5地点　遺　構　図

遺　構

竪穴住居址１（第22図）　調査地の東部に位置する方形の住居址である。南辺約半分と西辺のみが検出され、残り部分は調査区域外に出る為、正確な数値は不明であるが、約７.５ｍ×９ｍの規模の比較的大きな住居である。西辺に平行して、幅約1.1ｍ、高さ約10cmのベッド状遺構が見られ、北側で北辺に沿って曲る。Ｌ字型あるいはコの字型を呈する遺構と思われる、床面との境に幅約16cm、深さ床面より約７cmの規模の溝が見られた。周溝は南辺で約10cm、西辺で約30cm、深さは、床面より７cmであった。また南辺の中央と思われる位置に約70cm×90cm、深さ約25cmの貯蔵穴と考えられる施設があり、土師器や木片が埋まっていた。この遺構の手前10cmの位置の床面に、長さ約40cm、幅約６cm、深さ約２cmと、右側約30cmの位置に、長さ約90cm、最大幅20cm、深さ約３cmの小規模な溝状の掘り込みが見られた。南西隅に近い位置に、34cm×42cm、深さ約７cmのピットが１個検出され、柱穴と考えられる。壁の立ち上りは、床面より約20cmである。西辺外側南寄りに、約35cm×70cm、高さ約７cmのやや固くなった台状部が見られた。埋土は暗灰色砂質土であった。埋土中より布留式土師器片が出土した。

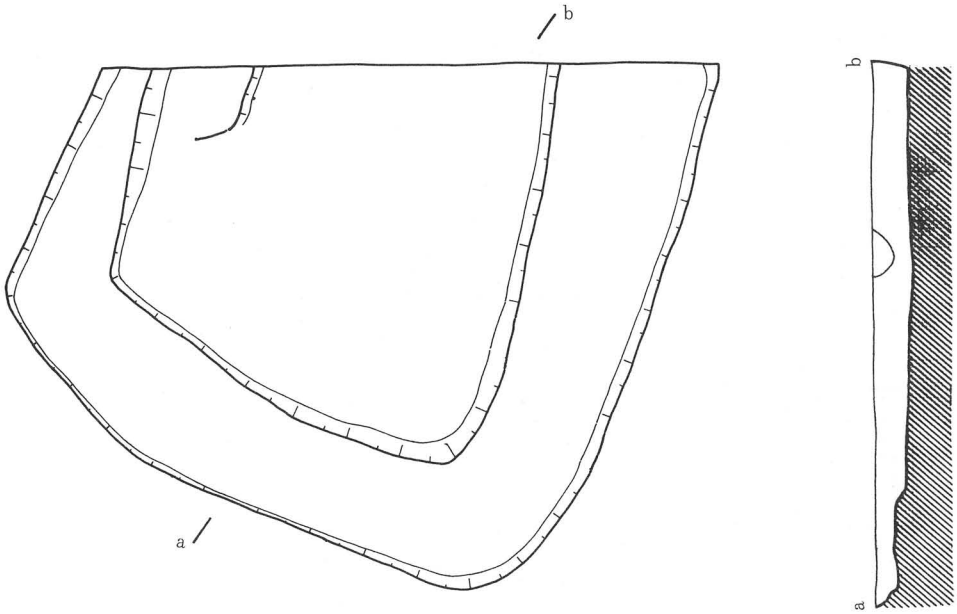


第22図　竪穴住居址１



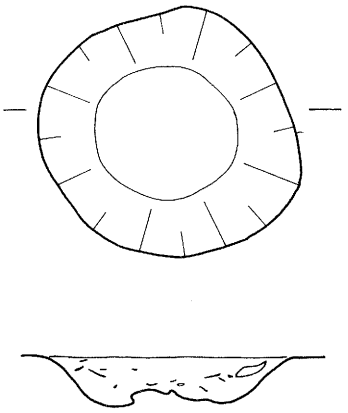
第23図　竪穴住居址１　貯蔵穴　0　5　10m

竪穴住居址２（第24図）　竪穴住居址１の北西約２ｍ離れた位置にある、方形の住居址である。その規模は、６ｍ×6.4ｍのやや胴膨らみであるが、北辺と東辺が一部調査区域外に出る。南辺の西寄りから西辺さらに北辺へと幅約１ｍ、高さ約10㎝のベッド状遺構がみられた。コの字状もし



第24図　竪穴住居址２　0　10　20m

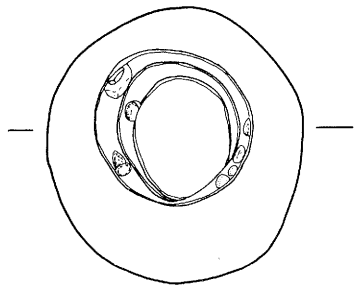
くは完周しないが四辺に巡ると思われる。周溝及び、ベッド状遺構と床面との境の溝は存在しなかった。又、貯蔵穴および柱穴も発見されなかった。ピット6は、その位置から判断して、関連のないものであろう。埋土は暗灰色粘質土である。埋土中より布留式土器片が多数出土した。（A～D）



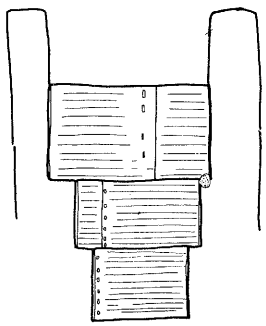
第25図　ピット2

溝1　調査地域のほぼ中央部に位置し、南北に流路をもつものである。幅約40cm～55cm、深さ約13cm～25cmで、長さ14.8mを測り、更に北側及び南側に伸びる。南から北方向へ流れる溝で、灰茶色砂が内部にギッシリという状態で埋まっていた。

溝2　溝1の東側約3.5cmの位置で、ほぼ平行して流れる溝である。幅約30～40cm、深さ約14～18cm、長さ約12mを測り、南側へ続くが、北側は壁面にその断面は発見できなかった。溝が下流に行くにしたがって浅くなってきているので、その痕跡が削平された可能性がある。竪穴住居址2を横切るものである。



ピット2（第25図）　灰黄色砂質土面に、直径1.35m、深さ約25cmの規模のもので、底部は凹凸をなしている。暗灰黄色粘質土の埋土に、土師器片や炭片が混じっているが、用途不明である。



第26図　井　戸

井戸（第26図）　竪穴住居址2及び溝2が埋没後掘削された井戸である。直径約66cmの掘り方に、深さ80cm以上で、曲物3段が残存している。上段は直径42cm、高さ25cm以上、中段直径35cm、高さ18cm、下段直径30cm、高さ19cmとなり、中段と下段の境付近内部に瓦質小皿2枚と瓦器椀破片1点（第27図）が、又最下段の裏込部に須恵器片1点が検出された。

遺　物

竪穴住居址1・2より布留式土師器片が多数出土したが、いずれも破片のみである。（A～D）井戸より瓦質1皿2枚

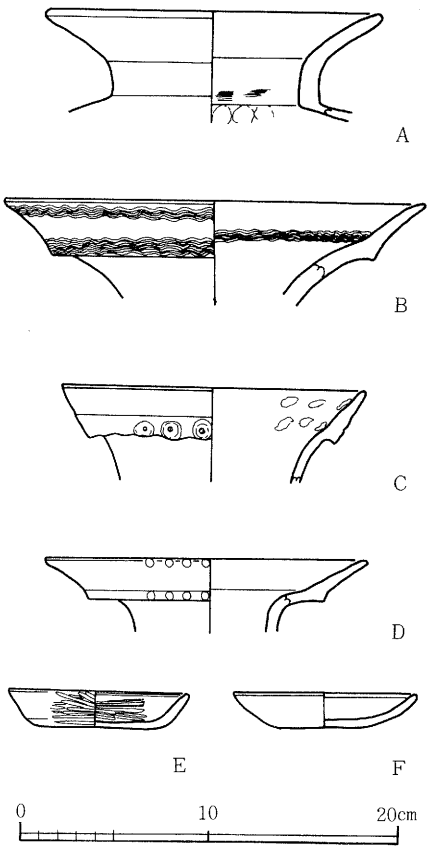
が完型品として出土している。

壺（A・B・C・D）

Aは、広口壺である。頸部は直立して口縁部で外反した後、端部を丸くおさめている。器壁は厚く黒斑がみられる。B・C・Dは、二重口縁壺である。Bは、ゆるやかに外反する頸部とほぼ同じ角度で外反する口縁部の内外面に7～8条の櫛描波状文を施す。Cは、斜め上方にのびる口縁部に、Dは、頸部が横方向にのびた後、ゆるやかに外反する口縁部に円形浮文をそれぞれ施している。

瓦質小皿（E・F）

Fは底部はほぼ平らで、口縁部は斜め上方にまっすぐのびる。口縁端は丸く、内側に1条浅い沈線が巡る。底部は内外面ともヨコヘラミガキ、口縁部は内外面とも回転ヘラミガキである。色は黒色で、大粒の砂が胎土に混じる。Eは、底部と口縁部の境目がなく、丸底で、口縁部の立ち上りは低い。口縁端部は丸くおさめられている。底部外面は指押え、内面はヨコナデ、口縁部内外面は回転ナデとなっている。色は乳茶色で、一部内外面は黒色である。胎土は精良で、小量の微砂粒を含む。



第27図　出土遺物

ま と め

当該地付近は、古墳時代前期の竪穴住居が、比較的数多く見られるところであるが、数軒以内の建物で1グループをなしている。今回検出の2軒は、方向や埋土中の土器等から判断して、同時期のものであろう。いずれも形態こそ違えベッド状遺構を有している。住居址1の貯蔵穴とおぼしき遺構の付近に小さな溝状の掘り込みが見られた。おそらく、板状様のものを立て、周囲から画していたと思われる。溝2は、竪穴住居址2が廃絶後に掘削されたものであるが、溝1もほぼ同時のものであろう。ただし埋砂中には、遺物は発見されなかった。井戸は中世のもので、曲物を積み上げて井戸枠となした形態は、豊中遺跡では普遍的に見られるものである。

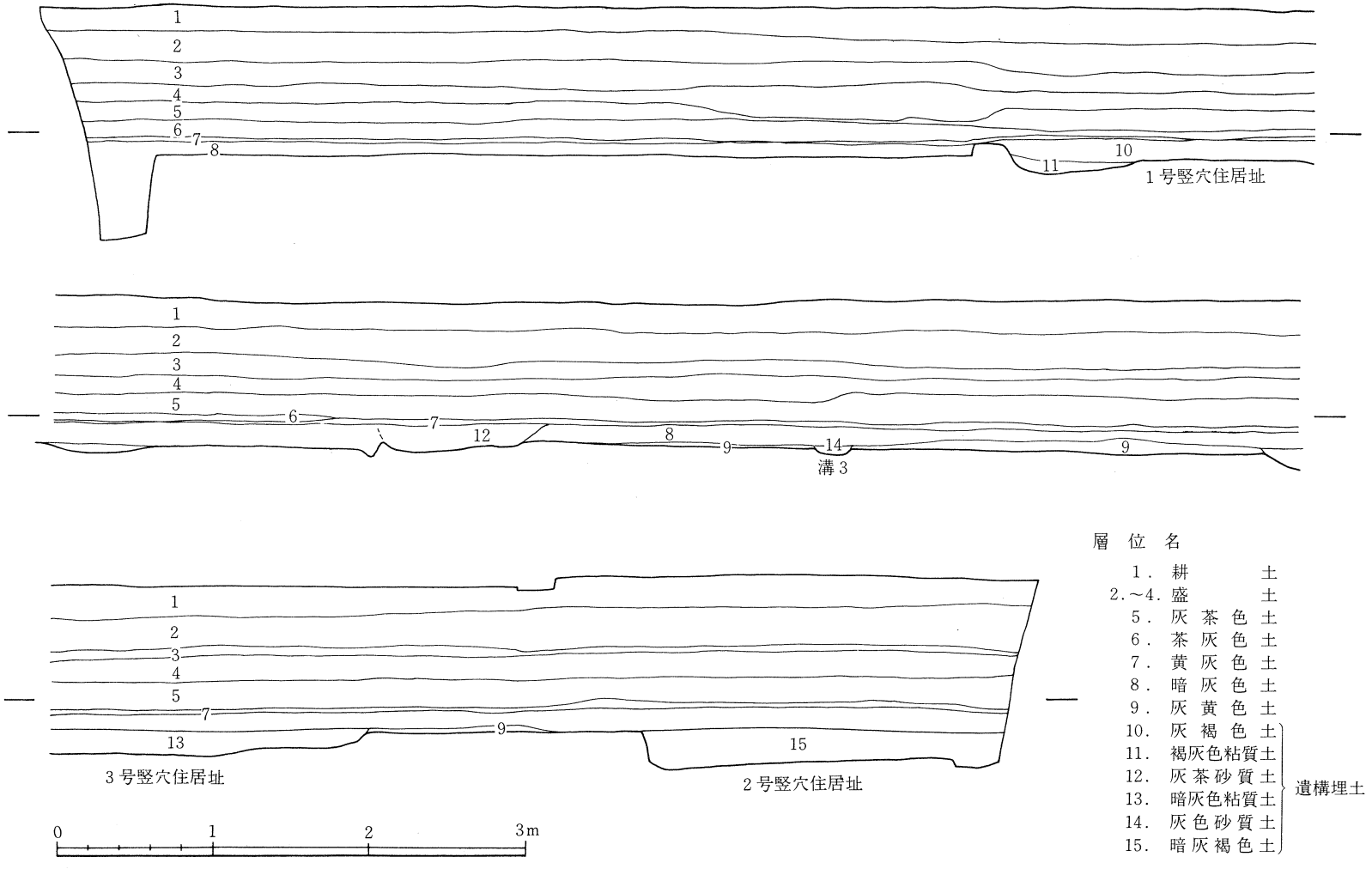
第　6　地　点（東豊中町２－959　調査番号ＴＯ－33）

店舗建設に先立つ調査である。調査期間は昭和62年11月10日～12月26日までである。敷地面積は、900㎡である。

建築予定地の全域にあたる部分を調査対象とし、そこに19×22ｍの調査坑を設定した。なお後に遺構の検出に伴ない面積を拡張した。

調査はまず重機により耕土（10～15cm）、盛土（40～50cm）、旧耕土（２cm）、灰茶色土の一部を除去し、その後、人力掘削によって遺構を検出しながら調査坑北部で黄灰色土、南部で暗灰色土まで下げていった。

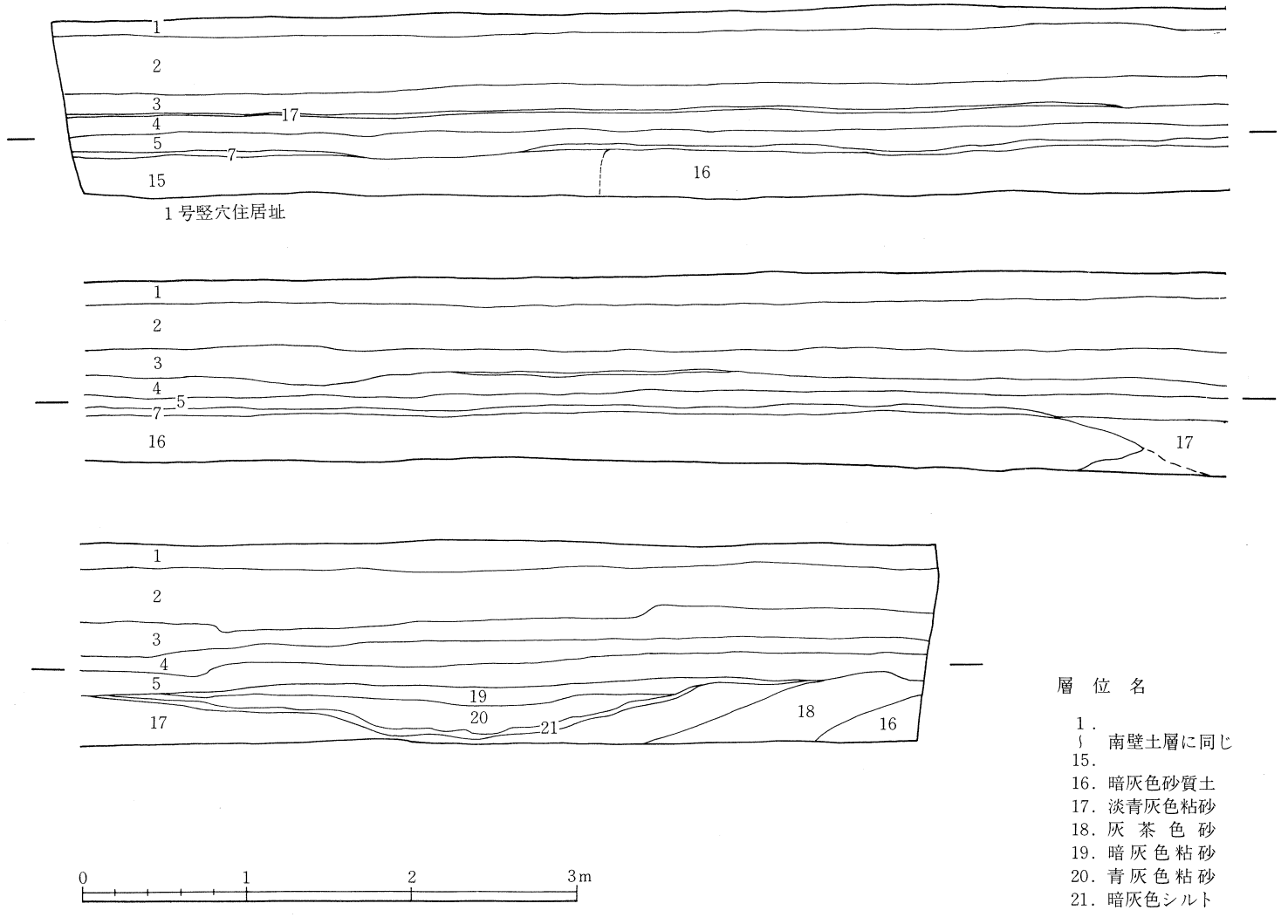
目だった遺構としては、竪穴住居址３軒、掘立柱建物１棟、ピット、大ピット各１、溝１、河川状遺構などで、他に溝数条、ピット20ほどがある。



層位名

1.	耕土	
2.～4.	盛土	
5.	灰茶色土	
6.	茶灰色土	
7.	黄灰色土	
8.	暗灰色土	
9.	灰黄色土	
10.	灰褐色土	遺構埋土
11.	褐灰色粘質土	遺構埋土
12.	灰茶砂質土	遺構埋土
13.	暗灰色粘質土	遺構埋土
14.	灰色砂質土	遺構埋土
15.	暗灰褐色土	遺構埋土

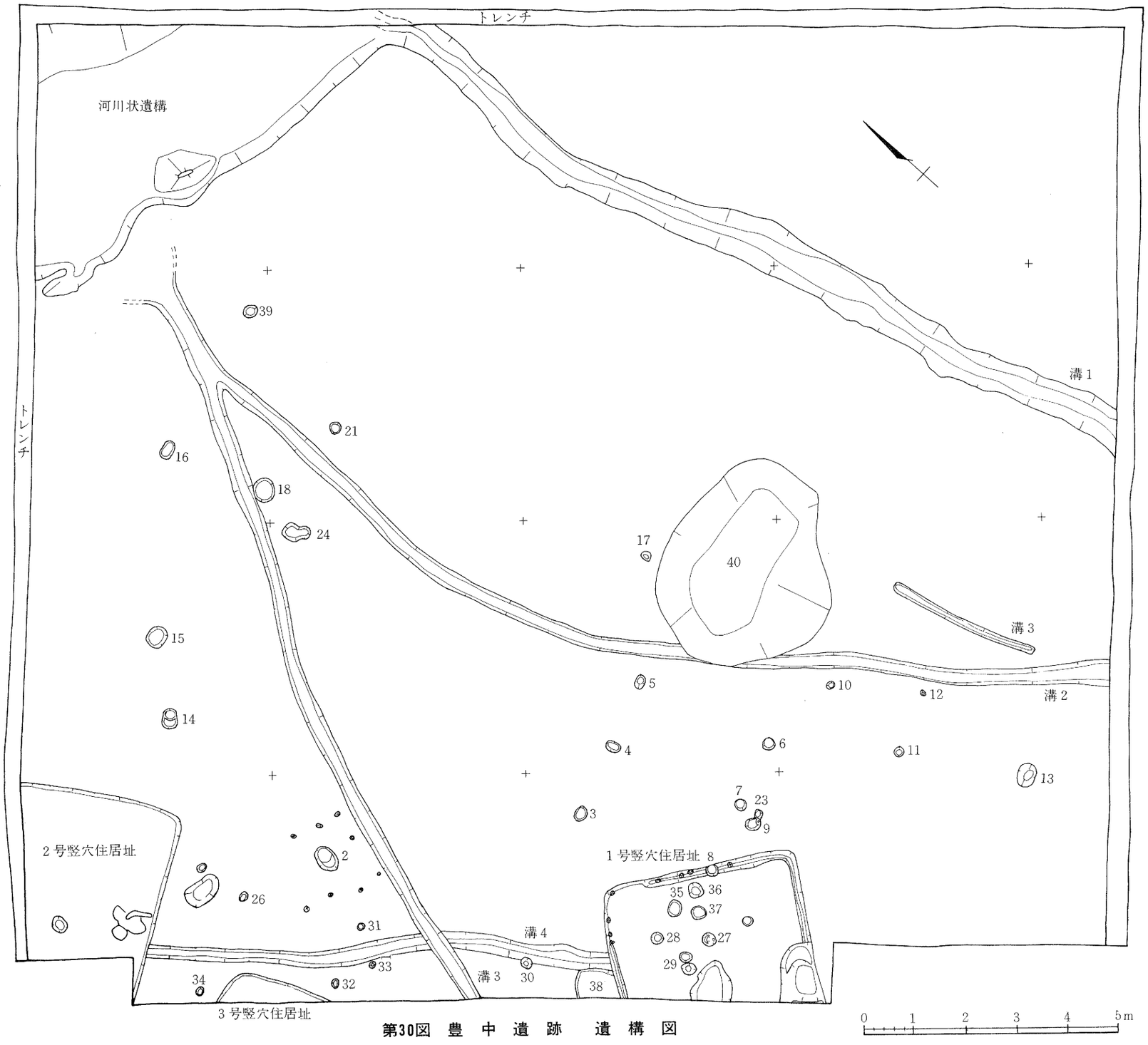
第28図　豊中遺跡　南壁断面図



層　位　名

1．
〜　南壁土層に同じ
15．
16．暗灰色砂質土
17．淡青灰色粘砂
18．灰　茶　色　砂
19．暗　灰　色　粘　砂
20．青　灰　色　粘　砂
21．暗灰色シルト

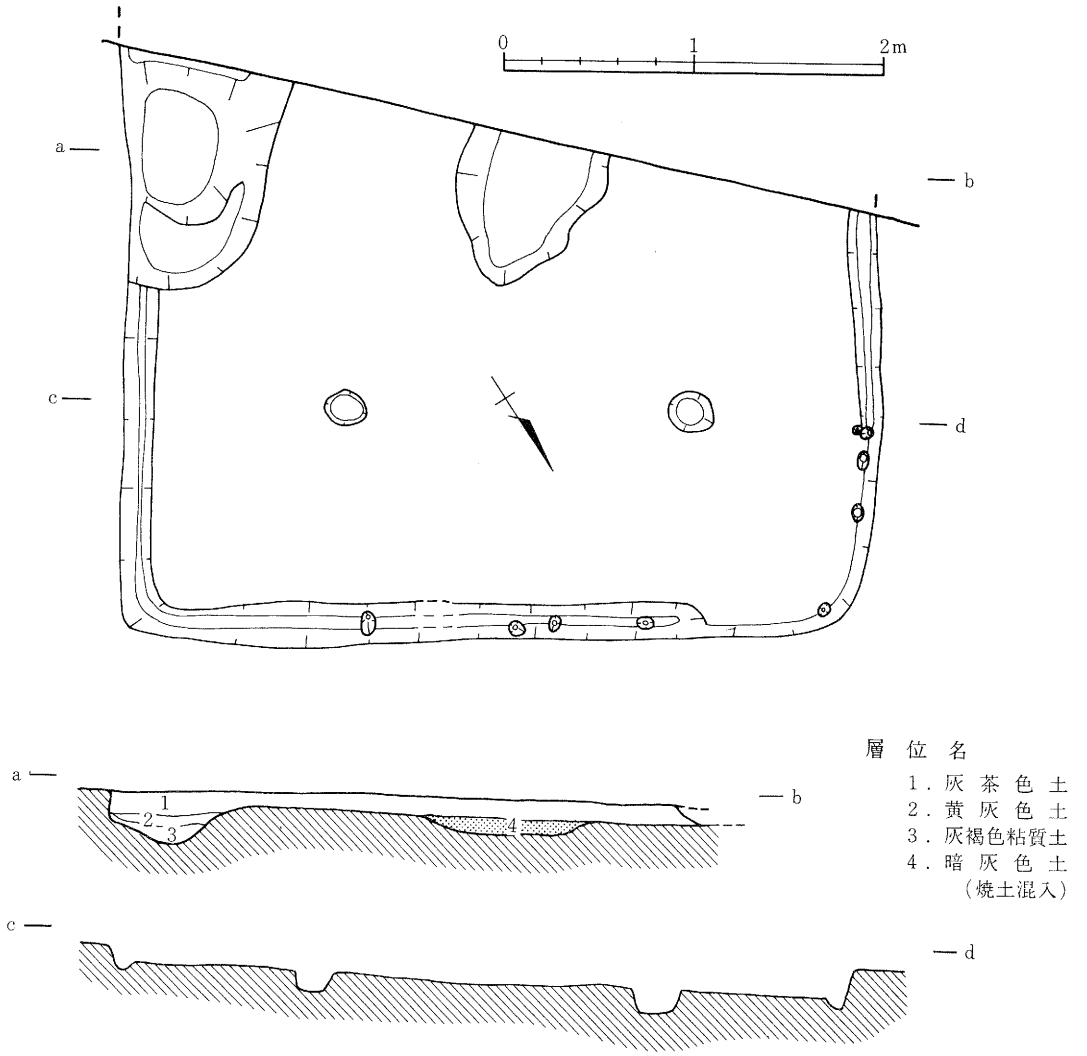
第29図　豊中遺跡　西壁断面図



第30図　豊　中　遺　跡　　遺　構　図

遺　構

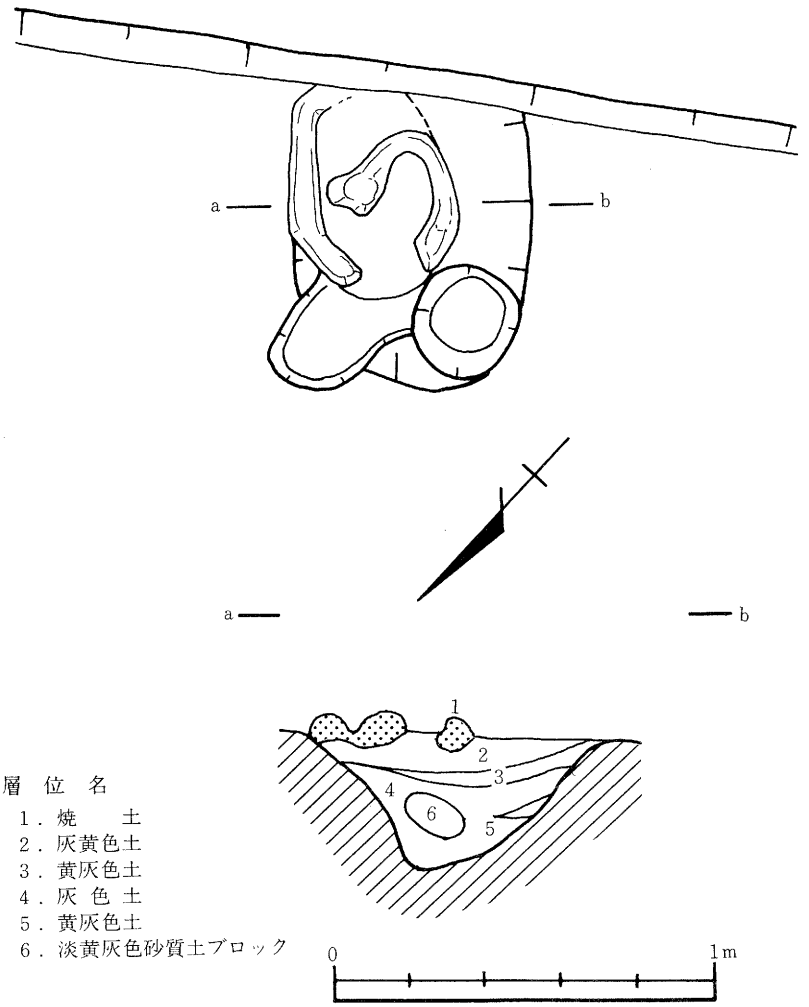
1号竪穴住居址（第31図）　調査地の西部に位置する方形の住居址である。約2/3が検出されたが、プランはさらに西側へのびる。一辺約4mほどの規模をもつ。壁高は検出面より浅いところで7cm、深いところでも15cm程度と遺存はよくない。壁に添って深さ床面より（以下同）3cm前後、幅10～15cmほどの溝が断続的に周る。主柱穴は2個確認された。どちらも直径20cm、深さ10数cmをはかる。ほかに壁ぎわに直径数cm、深さ10cmほどの小ピットが9個、不定間隔に検出された。また、南辺の西寄りには120×70cm、深さ40cmの貯蔵穴と考えられる施設があり、土師器片が出土している。断面等の観察から住居址内中央部埋土上層において焼土塊などを含む浅い凹みが検出



第31図　豊中遺跡　1号竪穴住居址

されており床の貼り替え、嵩上げなどが行われたとも考えられる。

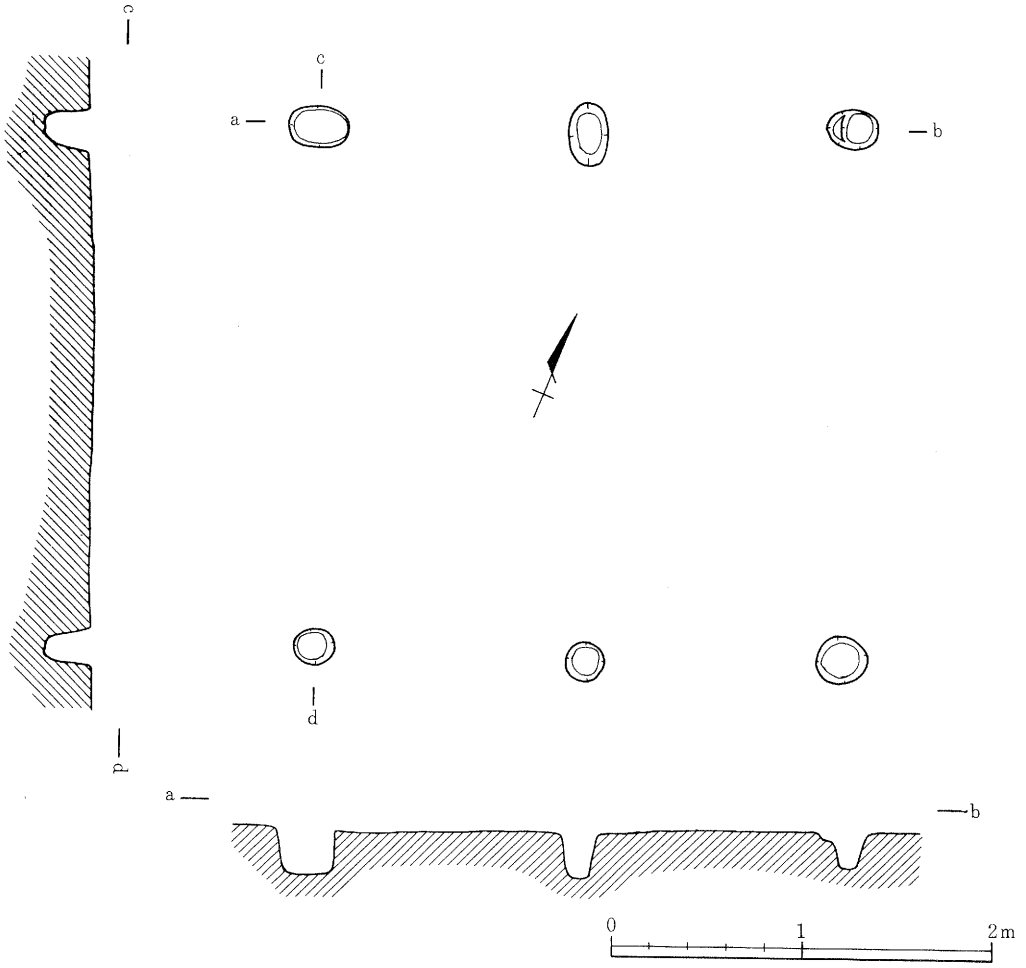
2号竪穴住居址　調査坑南西隅に位置する方形の住居址である。プランはさらに調査坑外へのびる。一辺約4～5mの規模をもつものと思われる。壁高は20cmほどが確認された。東部分においては遺構面と埋土との区別が非常に困難である。南辺のほぼ中央においてカマド状の遺構を検出した。(第32図) これは、焼土が馬蹄形に残存しているもので中央にも若干の高まりがみられた。断ち割ったところ一周り大きな掘り込みを行ったうえに構築されていることがわかった。ピットは2個検出され、小型高杯等が出土したが、主柱穴は確定できなかった。



第32図　豊中遺跡　2号竪穴住居址カマド状遺構

3号竪穴住居址　調査坑西壁ぎわにコーナー部を検出した。断面観察によると北辺にベッド状遺構をもつようである。

掘立柱建物(第33図)　一部で竪穴住居址１を切る東西２間、南北１間の建物である。柱間寸法は桁2.9m、梁間2.8mであり棟持柱の痕跡は検出されなかった。柱穴は楕円～円形のもので構成され柱痕は検出されなかった。なお棟方向は東西軸で北に20°傾いている。



第33図　豊中遺跡　掘立柱建物

ピット２　調査坑北部に位置する50×35cm、深さ23cmほどの楕円形のピットである。このピットを囲むように直径８～10cm、深さ10cmほどの小ピット８個が「コ」字型にめぐる。埋土には灰が混っていた。

大ピット　調査坑中央に位置する4.0×3.5m、深さ50cmほどの大ピットである。埋土は粘土ブロック混りの土で一度に詰まっている。新しい時期の遺構と思われる。

溝１　調査坑内を、ほぼ南北方向にはしる幅60cm、深さ30～40cmほどの断面Ｕ字型を呈する溝である。西端部において河川状遺構に流れこむ。

河川状遺構　大きくは、調査区東⅓ほどが流路の中に含まれるようである。とくに北東部において暗灰色シルト、青灰色砂などの堆積により明瞭に検出されるものである。

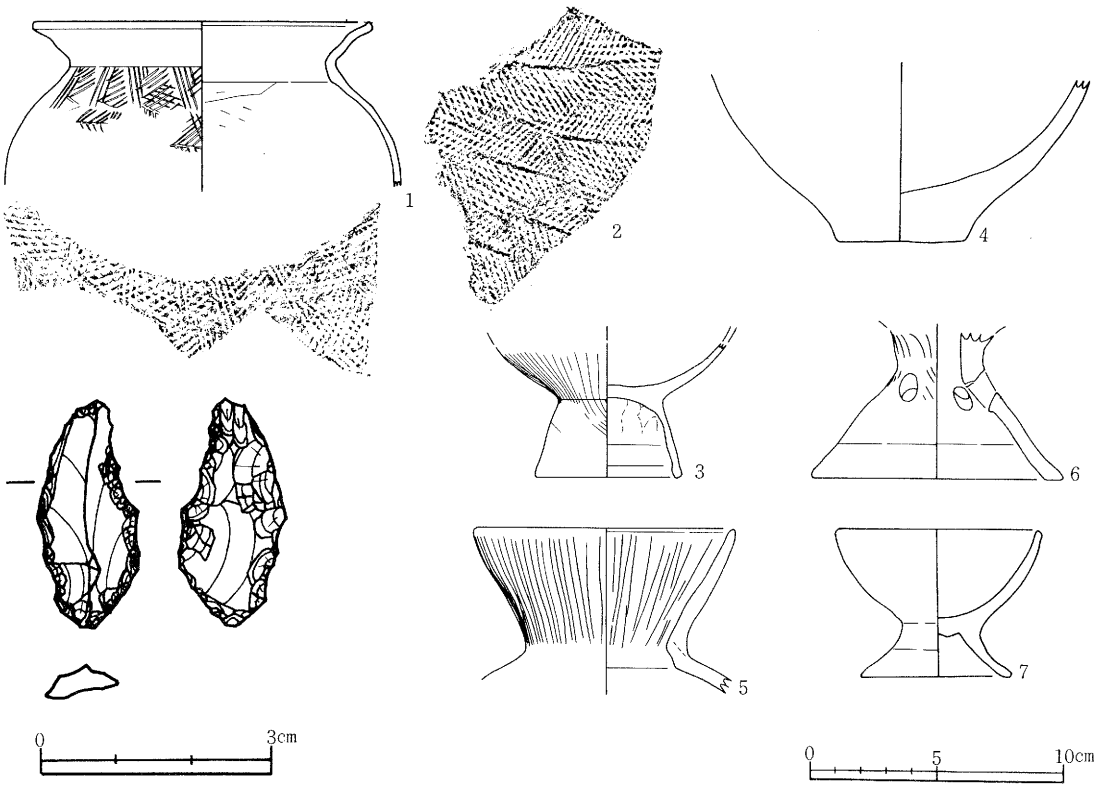
遺　物

甕（１・２）

体部に特異な叩き目をもつ甕である。(1)、(2)は同一個体であると思われる。口縁部は、短かく外反気味にのび、端部は丸く肥厚する。体部外面には、綾杉文状の叩きを施こす、また内面にはヘラ削りが行われ頸部内面には稜をもつ。器壁は薄く２～３㎜程度である。体部中ほどから下半にかけてスス状の炭化物が付着している。

台付甕（３）

外面全体にやや粗いハケ目がみられる。脚台は、わずかに膨みをもちながら斜め下方へひらく。端部は内側に折り込まれ強い横ナデにより肥厚させられている。また内面上部には甕底部との接合のために若干の粘土が詰められている。器壁は薄く焼成は良好であり脚台部に黒斑を有する。胎土には細かい砂粒が多量に含まれ他の遺物と異質である。東海系のＳ字型口縁壺になるものと



第34図　豊中遺跡　出土遺物

思われる。

壺（４）

平底の壺である。体部は内彎して立ち上がる。外面にナデ、内面に指圧痕をのこす。かなり磨耗をうけており、細部観察は困難である。黒斑を有する。

壺（５）

やや小型の直口壺かと思われる。口縁部から頸部にかけて残存している。口縁部は、内彎気味にのび、端部はほぼ上方に丸味をもっておわる。内外面ともに口縁部から頸部に縦方向のヘラ磨きが密に施され口縁部は横ナデが行われている。

高杯（６）

低脚高杯の脚台部である。短かい脚柱部とほぼまっすぐに斜め下方へ広がる裾部をもつ。端部は水平におさめられている。内外面ともナデ調整のほか外面全体にヘラ磨きが行われている。また裾部に３ヶ所の透孔を穿っている。

高杯（７）

やや内彎気味の口縁部をもつ小型高杯である。杯部は深く椀状を呈する。台部は下方へふんばる形をなし、端部を丸くおさめる。全体に磨耗を受け細部観察は困難であるが、杯部下半から脚台部上半にかけて指圧痕を残す。

小型ナイフ型石器（８）

白色のチャート製の小型ナイフ型石器である。両側面においてほぼ全体に刃部を作り出している。また刃部は、表・裏面よりの刃潰しがみられる。

ま と め

今回の調査では、調査坑西部において竪穴住居址、掘立柱建物、東部において河川状の堆積を検出した。

竪穴住居址はいずれも布留式土器片が出土しており、隣地のＴＯ－32地点で検出された住居址群と同時期のものと考えられる。また２号竪穴住居址のカマド状遺構については、残存が悪いため明確に施設として構築されたものか、焼土が集積したにすぎないものかについて判断しかねる状態である。今後資料の増加をまって検討したい。

掘立柱建物については、出土遺物も少なく時期については確定しえない。このことは他のピットについても同様である。うち大ピットについては、昨年度東雲遺跡で検出された電柱の掘り方と同じものであると思われる。

ピット２も時期不明であるが、周囲の小穴の配置から覆屋状の施設が考えられる。

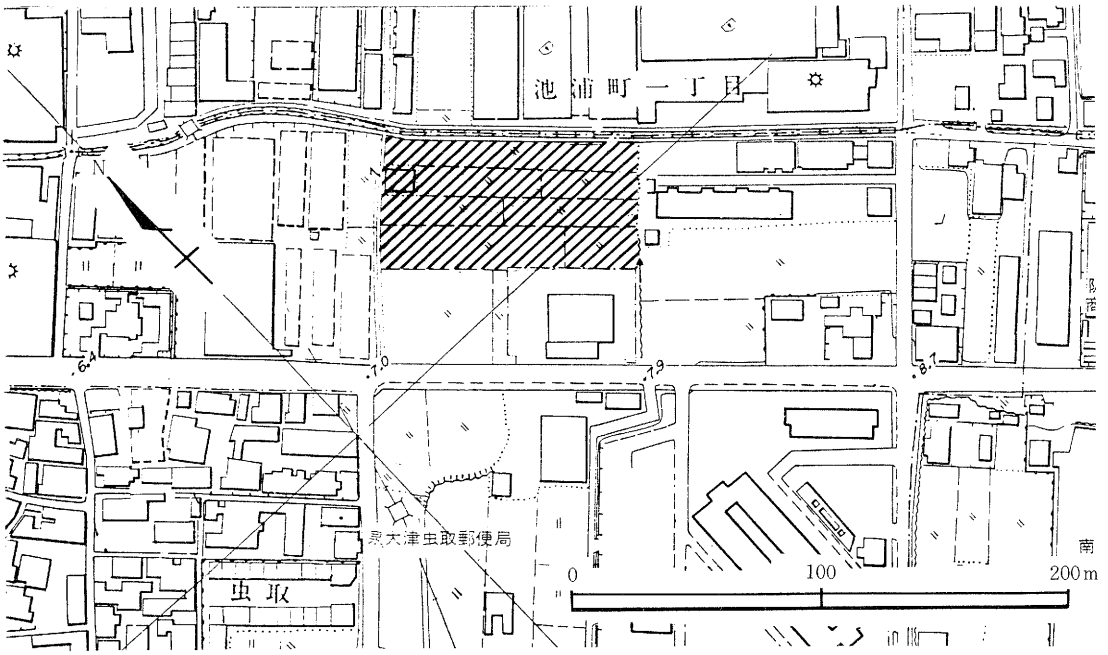
調査坑東半部においては、遺構検出面以下にも遺物を包含していたが、建物の基礎掘削においても破壊の危険が少ないため調査は遺構面までにとどめた。

第３節　虫取遺跡

Ⅰ　調査に至る経過

泉大津市虫取の市立南公民館を中心に半径約800ｍの範囲内で、土師器片や須恵器片が散布しており、虫取遺跡として知られていた。昭和53年、宅地開発に先立って発掘調査が、その費用を原因者負担で府教育委員会によってなされた。初めての本格的な調査によるメスが入れられたのである。その結果、縄文晩期の土器片をはじめ、弥生土器畿内第Ⅰ様式新段階の土器を包含する土坑、６世紀後半及び10世紀後半の掘立柱建物跡等が発見され、弥生時代前期、古墳時代前期、平安時代中頃の集落が存在していたことを明らかにした。

その後、昭和54年に、この遺跡内に所在していた諸瀬池が、小学校（現楠小学校）建設のため埋め立てられることになった。池内の堤防沿いに須恵器片等が散布していたので、市教育委員会で、池内の発掘調査を実施したのであるが、遺構は池底の改修等により削平されたようで残念ながら発見されなかった。



第35図　虫取遺跡調査地点図

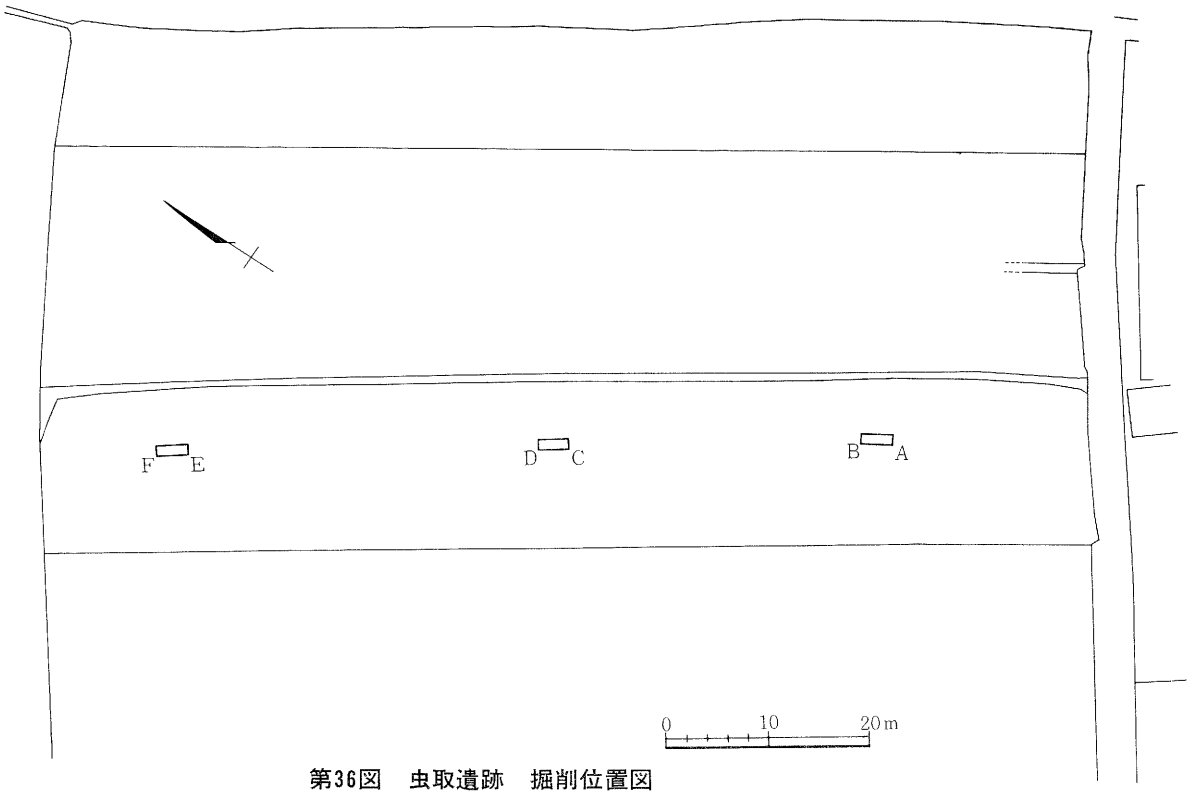
昭和58年には、学校用地となった旧諸瀬池の堤防をコンクリート擁壁にし、その一部を壊して市道が設けられるので、それらの工事に先立って発掘調査を実施した結果、人工と思われる溝が検出され、その溝内から、滋賀里式土器や長原式土器と共伴して⑲、弥生土器第Ⅰ様式新段階の土器が出土し、縄文時代と弥生時代の接点を明らかにする好資料が得られた。

Ⅱ　調査結果（虫取町41－1、45、46－1、79、80、我孫子町260、261 池浦町60－1　調査番号8713）

宅地造成に先立つ調査である。敷地面積は50,207.0㎡である。

敷地内にA、B、Cの3ヶ所の調査坑を設定した。各調査坑の規模はそれぞれ、A坑幅1.0m、深さ0.7～0.8m、長さ3.2m、B坑幅1.0m、深さ0.6m、長さ3.0m、C坑幅1.0m、深さ0.8m、長さ3.2mである。各坑とも重機による掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とした調査を実施した。

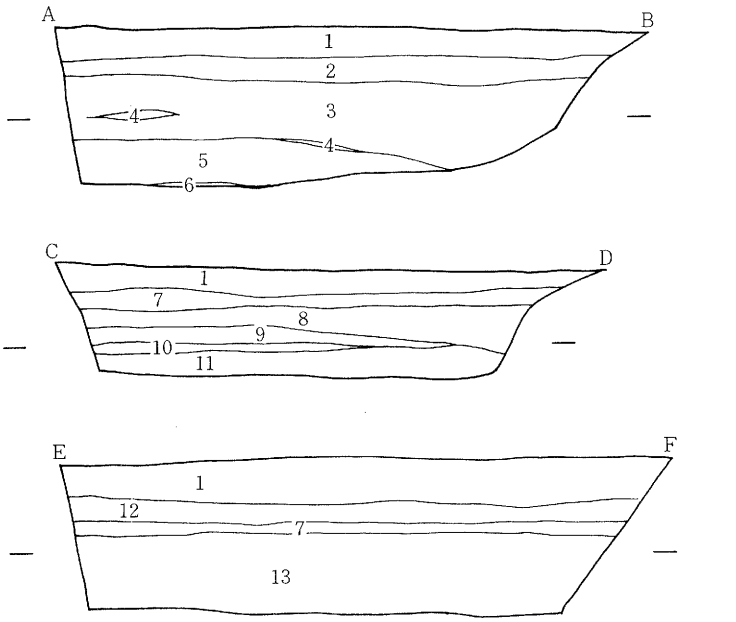
層序は各坑とも上部より、耕土20～30cm、床土5～12cm、をへてA坑では灰褐色砂質土30～45cm、暗灰色粘土30cmで砂層となり、B坑では黄褐色土と灰色砂の互層35cm～の後砂層となり、C坑では黄灰色粘土となる。



第36図　虫取遺跡　掘削位置図

過去西側隣接地において、かなりの濃厚な遺物包含がみとめられたものの当該地においては、包含層は存在せず、耕土、床土下は、いずれも砂質土、砂、粘土層などがつづいていた。なお砂層は西に向ってやや低くなりながら堆積するものと思われる。

遺構、遺物等が検出されなかったため、写真撮影及び断面実測図を作成し調査を終了した。



層位名

1．耕土	6．暗灰色粘土	11．暗褐色砂
2．床土	7．床土	12．床土
3．灰褐色砂質土	8．黄褐色土	13．黄灰色粘土
4．灰白色砂	9．灰色砂	
5．暗灰色粘土	10．黄褐色砂	

第37図　虫取遺跡　調査坑断面図

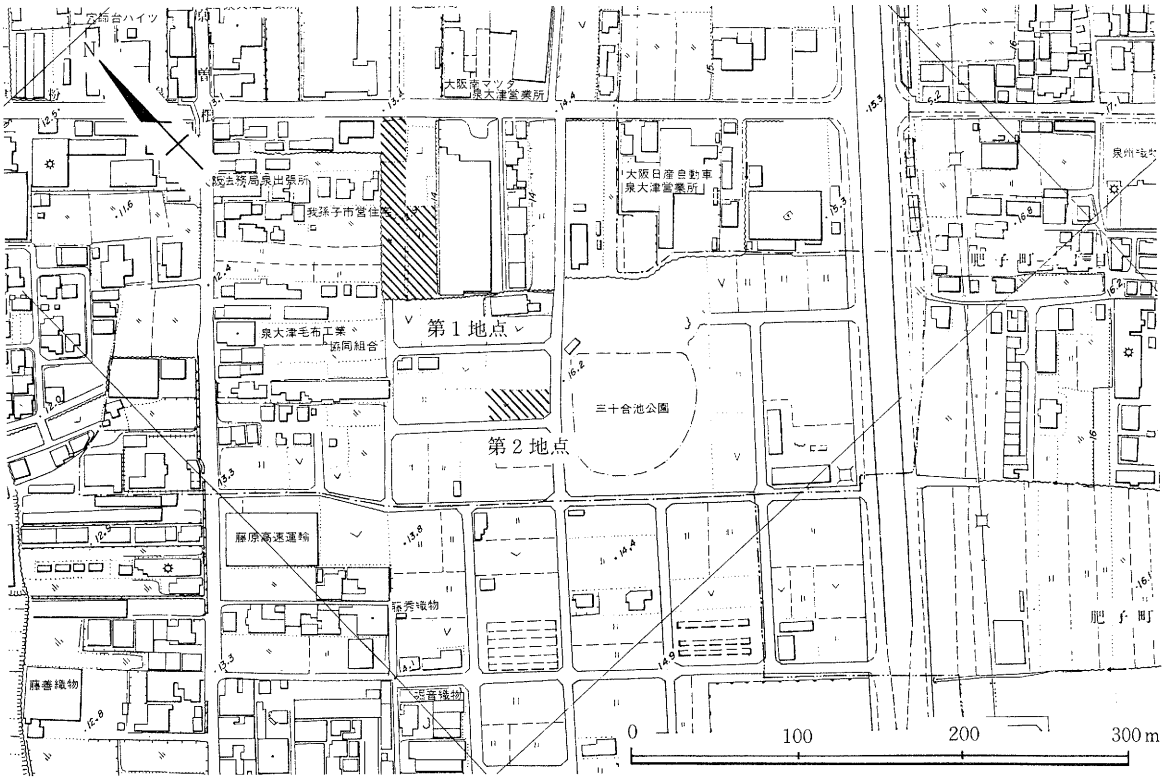
第4節　板原遺跡

Ⅰ　調査に至る経過

泉大津市板原の水田地帯は、市の南部に位置し、槇尾川・松尾川の氾濫原を隔てて忠岡町と、又、東側は和泉市肥子町と接している。昭和50年代の中頃までは、目立った道路もなく、条里制施行の跡を示す水田が存在するのみであった。ここに於て、土地区画整理がなされ、第2阪和国道が建設されると、整然とした街路が縦横に走り、それに沿って新しく開発が行なわれようとし

ている。これらの工事に先立ち道路部分に於て発掘調査が実施されたが、特に第２阪和国道部分に於ては、多くの成果を得ることができた。[20]

昭和52年に、豊中古池遺跡調査会の試掘調査により、第２阪和国道部分より、縄文土器、須恵器、瓦器、磁器等の破片が出土し、各々の時代に属する遺構の存在が予想された。それにより、昭和54年度、府教育委員会が道路部分を全面調査した結果、縄文時代後期の自然流路及び土器、晩器の溝状遺構、ピット等と土器が発見された。弥生時代の遺構は検出されなかったが、僅かな遺物が出土している。古墳時代前期の遺構や井戸、平安時代の建物のほか、鎌倉時代には、小規模な建物群が存在するなど、中世にまで及ぶ複合遺跡であることが判明した。



第38図　板原遺跡　調査地点図

II　調査結果

第　1　地　点（我孫子町109－1、3、110－1　調査番号8801）

駐車場および建築資材置場造成に先立つ調査である。敷地面積は2,540.0㎡である。

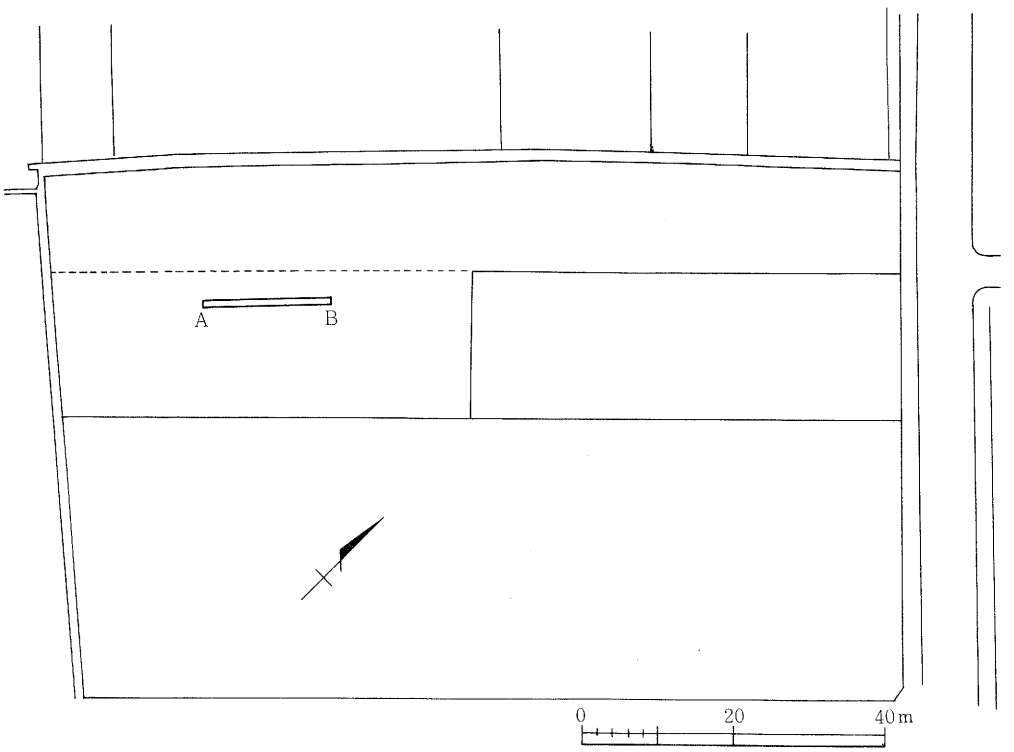
敷地の中央やや北東寄りに、幅0.9m、深さ0.8～1.0m、長さ16.3mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とする調査を実施した。

層序は上部より、耕土20cm、床土２cm、茶灰色土10～15cm、黄灰色土10～30cm、黄色土20～40cmで灰茶礫土に至る。ほぼ水平な堆積状況を示す。

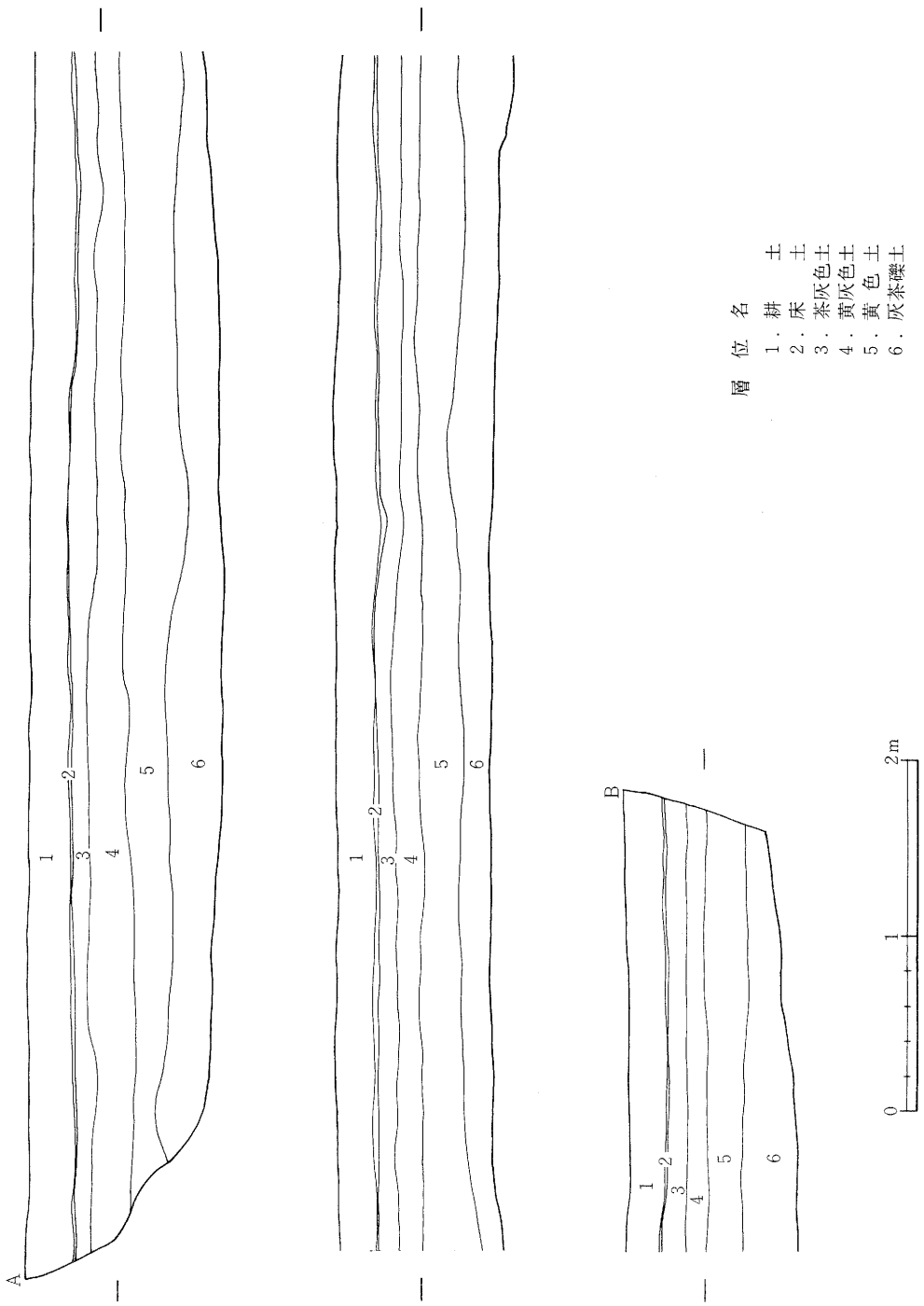
茶灰色土、黄灰色土を中心として若干の遺物が出土した。黄色土は地山面になると思われるが明確な遺構は存在しなかった。わずかに中世以降の耕作痕と思われるものがみられた。

当該地は、板原遺跡の西端に位置するが、ここでも遺物の散布が確認された。出土遺物は概ね古墳時代～中世にかけてのものである。

工事は、盛土造成であり遺構、遺物への影響も少ないため、写真撮影及び断面実測図を作成して調査を終了した。



第39図　板原遺跡　第１地点　掘削位置図



第40図　板原遺跡　第１地点　調査坑断面図

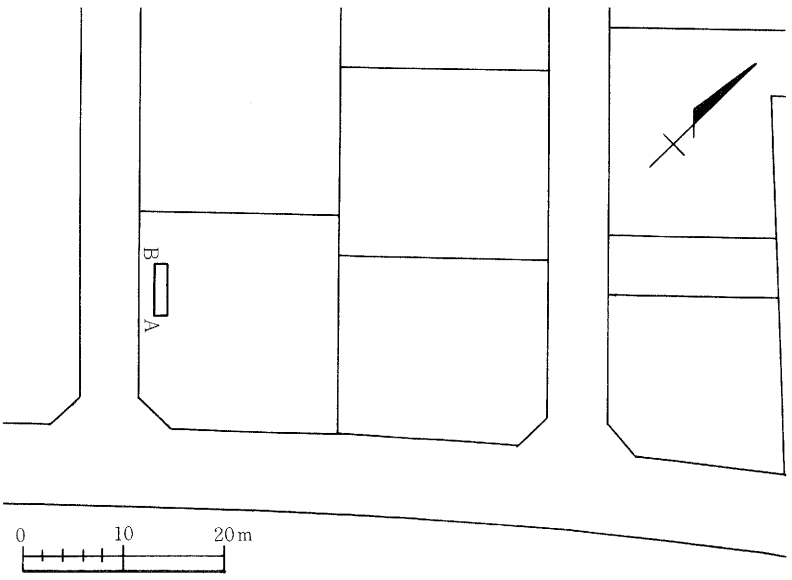
第　2　地　点（穴田町205　調査番号8802）

住宅建設に先立つ調査である。敷地面積は413.0㎡である。

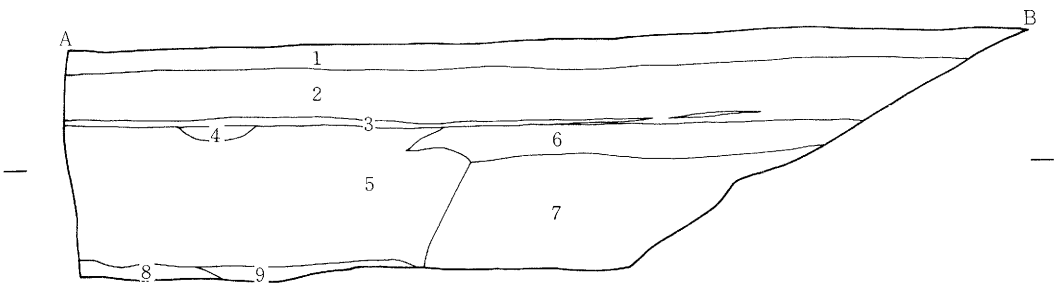
敷地内、南西寄りの部分に、幅1.0m、深さ1.2～1.3m、長さ5.0mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とした調査を実施した。

層序は上部より、耕土20cm、区画整理時の盛土25～32cm、旧耕土３cmで南部では、茶灰色砂質土70～80cmをへて青灰色砂に、北部では褐灰・灰褐色の砂利層の堆積となる。

当該地は、近年埋立てられた池跡に隣接しており、地表下数10cmで砂、砂礫層の堆積がみられた。遺構、遺物等も検出されなかったため、写真撮影及び断面実測図を作成して調査を終了した。



第41図　板原遺跡　第２地点　掘削位置図



層位名

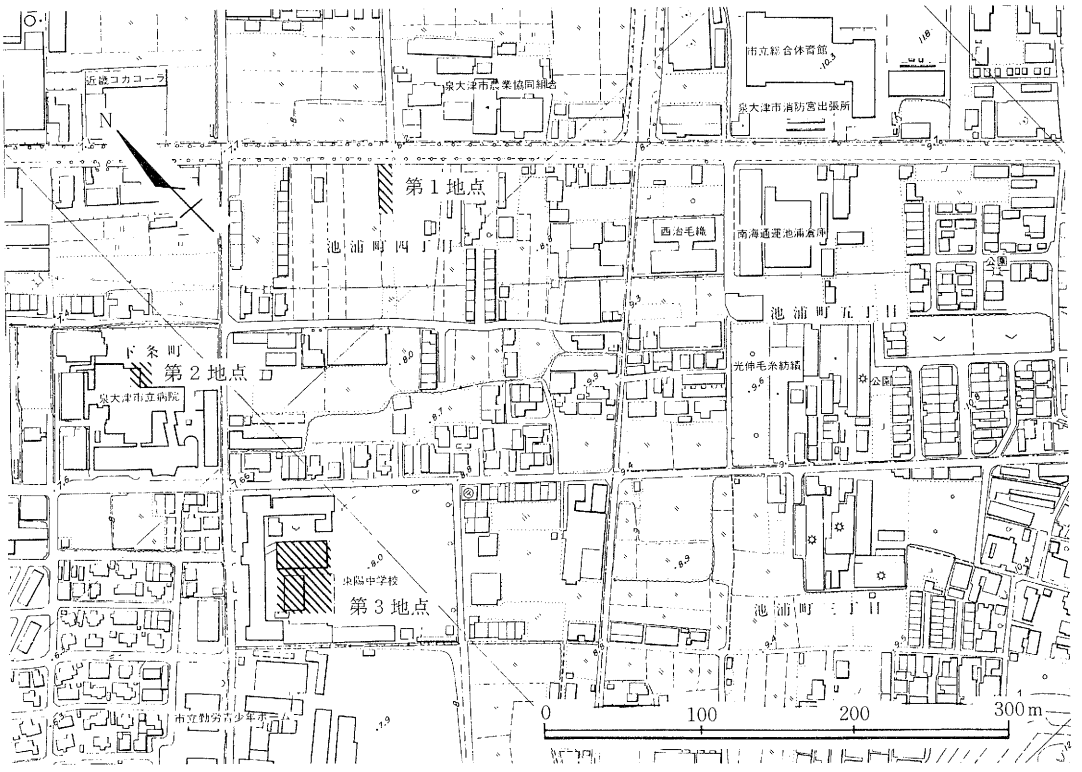
1．耕　　土　　4．撹　　乱　　7．灰褐色砂
2．盛　　土　　5．茶灰色砂質土　　8．青灰色砂利
3．旧 耕 土　　6．灰褐色砂　　9．青灰色細砂

第42図　板原遺跡　第２地点　調査坑断面図

第５節　池浦遺跡

Ⅰ　調査に至る経過

弥生時代前期中段階の集落として、池浦遺跡は知られているが[21]、存続期間は短かく、前期の間に衰退してしまうようである。その規模もさほど大きくはなく、現在の泉大津市立病院東側から東へ500ｍの範囲にかけてのみ、その時期の遺構・遺物が検出される。しかし人々が生活を営んだ住居の跡は、今のところ発見されておらず、集落を画すると思われる人工のＶ字溝及び、断定はできないが、柱穴と思われるピットが確認されているのみである。その次の遺物は古墳時代で、既往の調査によると、砂利層や低湿地が確認されている。又、付近の水田には、須恵器や土師器の破片が散布し、その範囲は凡そ800ｍ×400ｍと広範囲にわたる。



第43図　池浦遺跡　調査地点図

II　調査結果

第　1　地　点（池浦町4－689－4　調査番号8705）

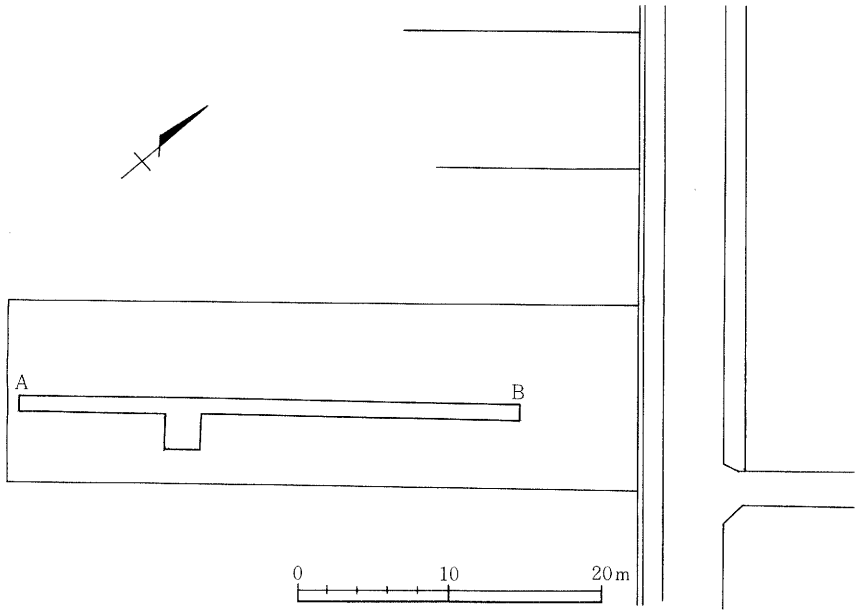
住宅建設に先立つ調査である。敷地面積は475.86㎡である。

敷地の中心部分に、幅1.0m、深さ0.5～1.2m、長さ33mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とする調査を実施した。調査坑の中央部において遺構が検出されたため一部拡張をおこなった。

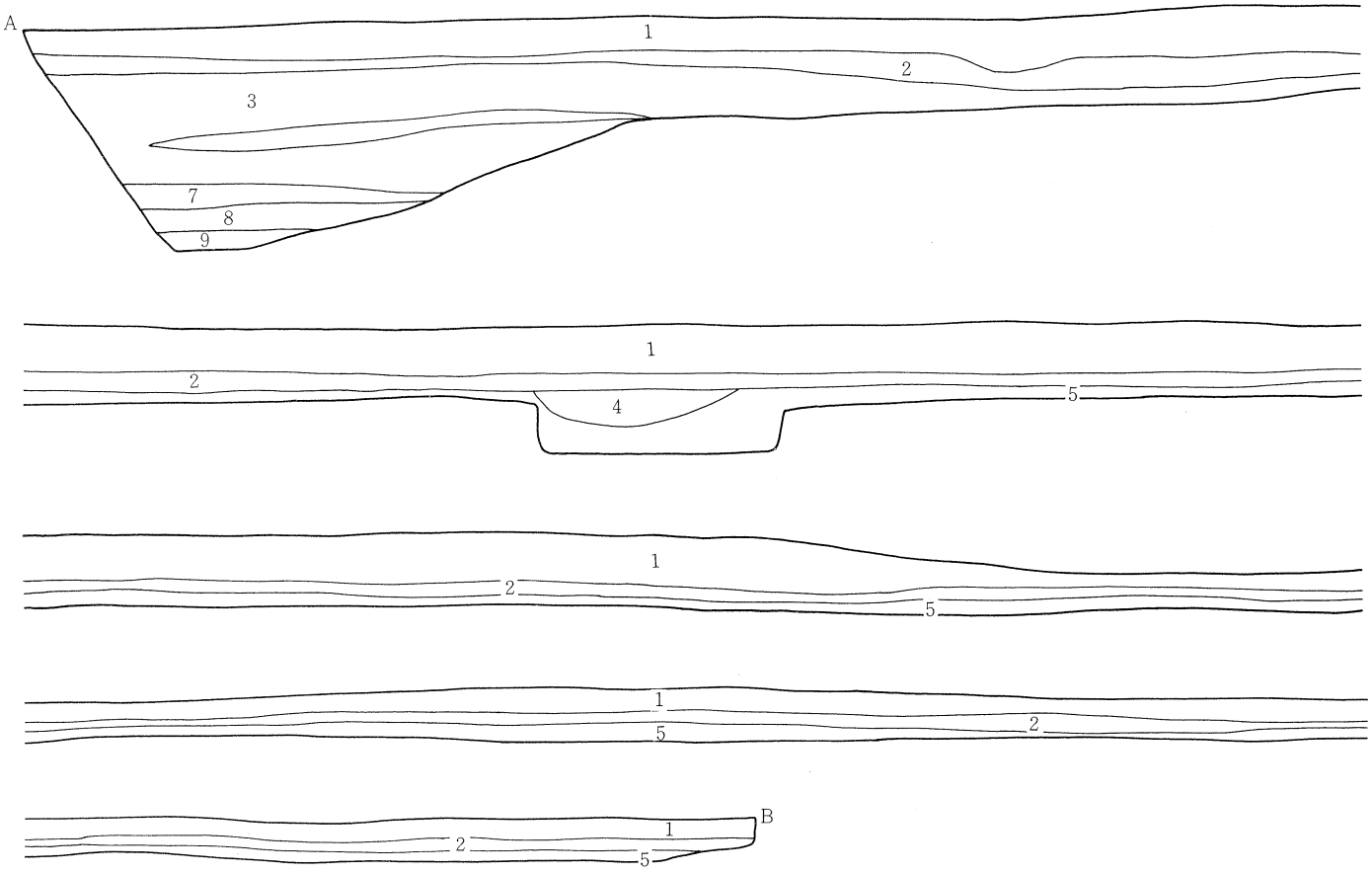
層序は上部より、耕土20～30cm、床土6～8cm、暗茶褐色土20cmで黄灰色礫混り土となる。

黄灰色礫混り土を遺構面としてピットを検出した。このピットは、長径3.1m、短径1.6m、深さ0.2mの楕円形を呈するもので、埋土中には弥生時代前期の土器が含まれていた。このほか、床土などから土師器、須恵器、瓦器が出土している。

写真撮影及びピット平面図、断面実測図を作成して調査を終了した。



第44図　池浦遺跡　第1地点　掘削位置図



第45図　池浦遺跡　第1地点　調査坑断面図

層位名

1．耕　　土　　4．暗茶褐色土　　7．黄　色　砂
2．床　　土　　5．黄灰色礫混り土　　8．青灰色粘質土
3．茶褐色礫　　6．灰褐色粗砂　　9．黒色粘質土

0　2　4m

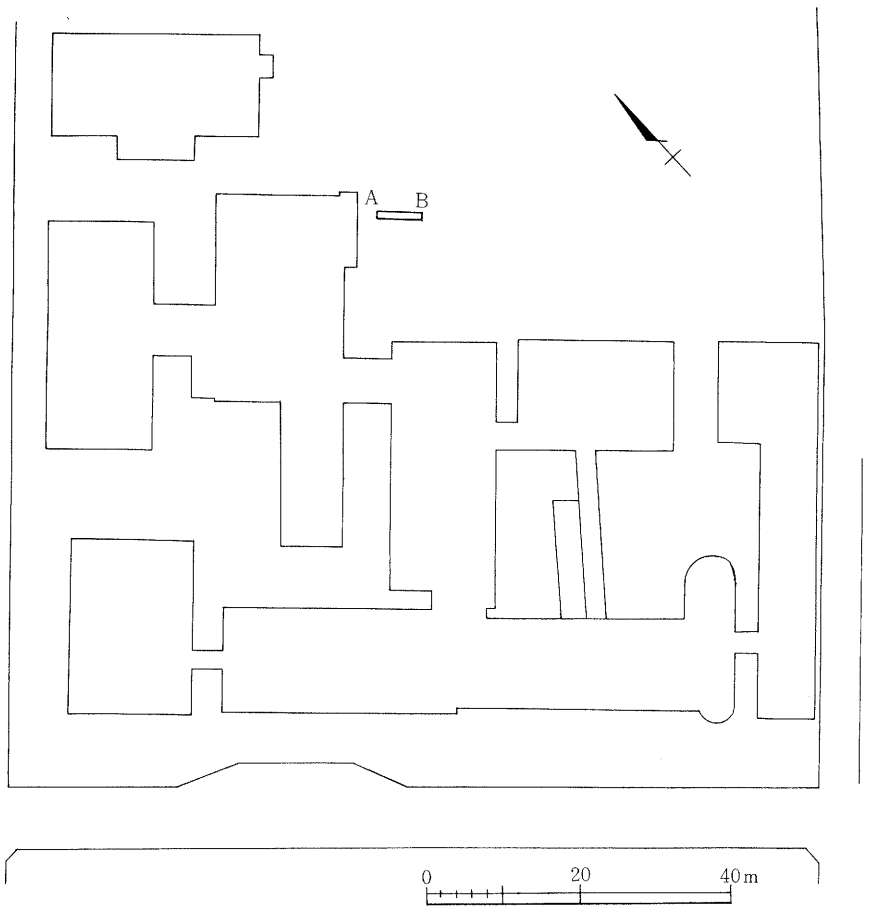
第　2　地　点（下条町16－1　調査番号8712）

事務所建設に先立つ調査である。敷地面積は143.0㎡である。

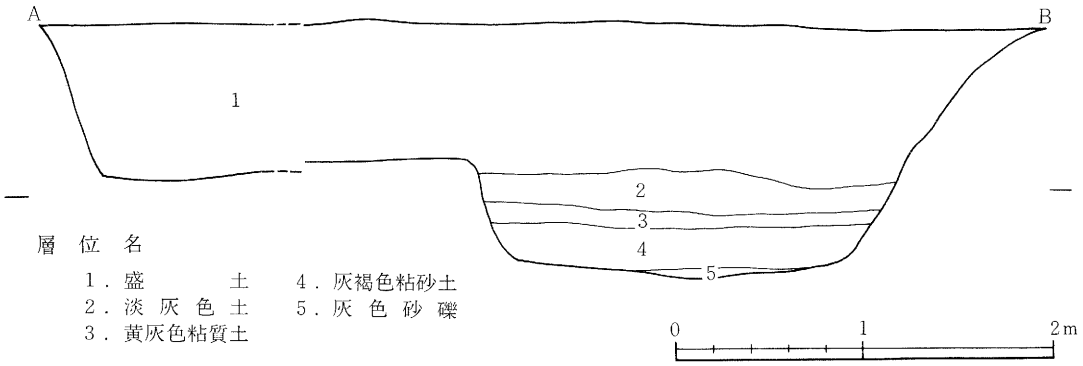
敷地内の建物予定地の一部に、幅1.2m、深さ0.7～1.3m、長さ6.7mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力によって壁面等を削り、断面観察を中心とした調査を実施した。

層序は上部より、盛土60cm、淡褐灰色土20cm、黄灰色土10cm、灰褐色粘砂土20cmで灰色砂礫層となる。かなりの部分が盛土下すぐに旧建物のコンクリート基礎となっている。

遺構、遺物等は確認されず、また全面に厚い盛土がおこなわれておりその下には粘質土、砂礫の堆積となるため、写真撮影及び断面実測図を作成して調査を終了した。



第46図　池浦遺跡　第2地点　掘削位置図

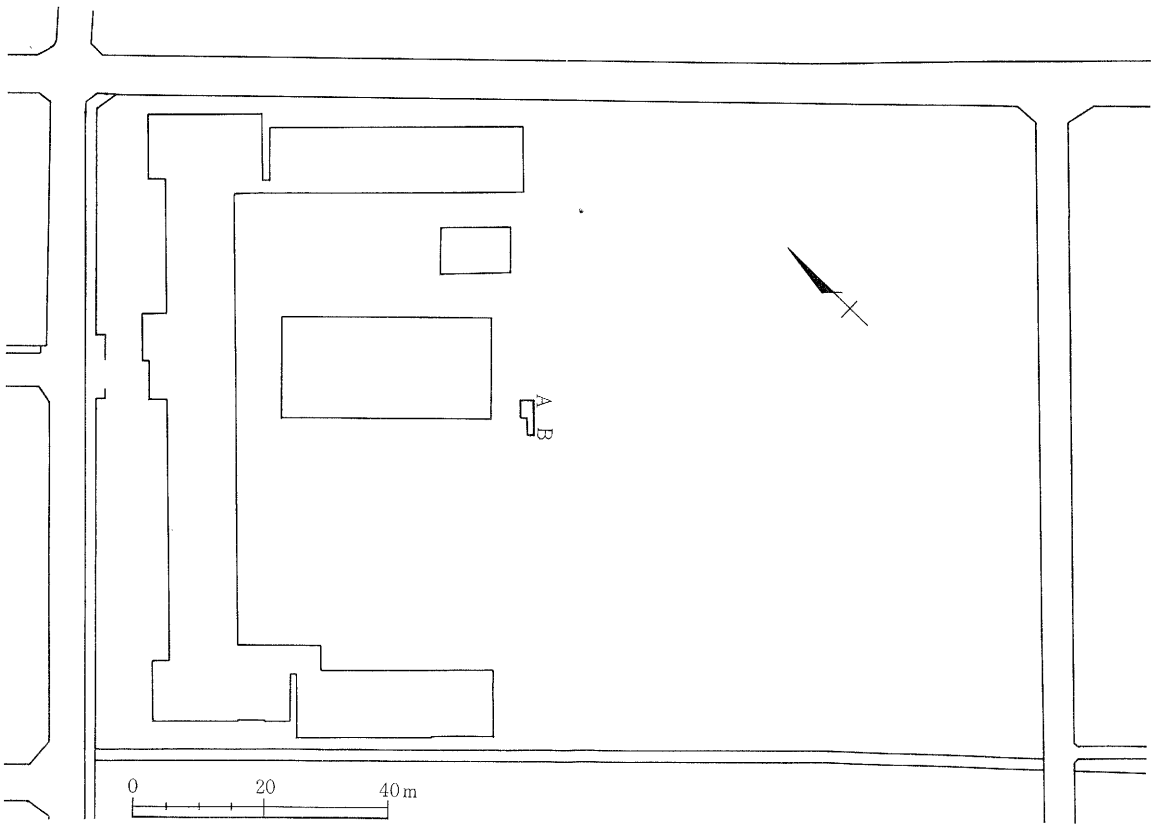


第47図　池浦遺跡　第２地点　調査坑断面図

第　３　地　点（池浦町４－169－１　調査番号8716）

中学校体育館建設に先立つ調査である。敷地面積は994.0㎡である。

敷地内の建物予定地の一部に、幅0.8～2.0ｍ、深さ1.5～1.8ｍ、長さ5.5ｍの調査坑を設定し、



第48図　池浦遺跡　第３地点　掘削位置図

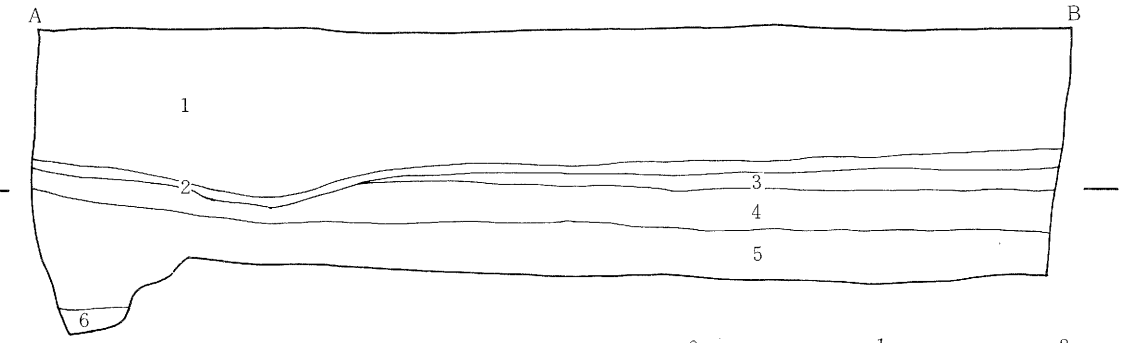
重機による掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とする調査を実施した。

層序は上部より、盛土60～80cm、旧耕土10cm、黄灰色粘質土10cm、暗灰黄色粘質土20cm、淡黄灰色シルト60cmで青灰色粘土となる。

遺物は、暗灰黄色砂質土より若干出土した。いずれも細片である。主に土師器で、特徴的なものとしては、二重口縁壺などがある。

過去における周囲の調査から周辺一帯は砂礫層の堆積が知られている。今回の調査においては部分的にその上層で包含層の存在することを確認できた。

遺構は確認できず、遺物の混入も希薄であるため、写真撮影及び断面実測図を作成して調査を終了した。



層位名

1．盛　　土　　3．黄灰色粘質土　　5．淡黄灰色シルト
2．旧耕土　　4．暗灰黄色粘質土　　6．青灰色粘土

第49図　池浦遺跡　第3地点　調査坑断面図

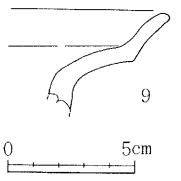
遺　　物

二重口縁壺（9）

外反する頸部の先端を擬口縁とし、ほぼ同じ角度で外反する口縁部をのばすもので、端部は丸くおさめる。口縁部には強い横ナデ、頸部にはハケ調整が施されている。口径等は不明である。

平瓦（10）

凹面に布目痕を残し、凸面は縄目タタキを施した平瓦である。また凹面の側縁はナデて面取りがなされている。

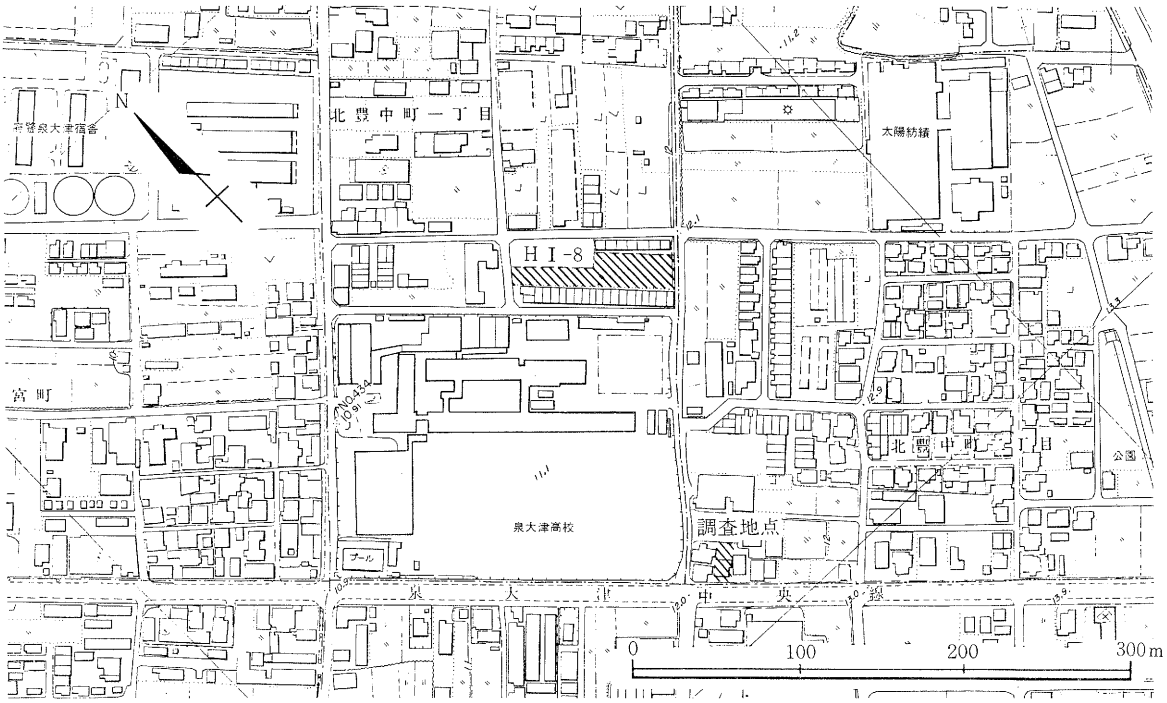


第50図　池浦遺跡　第3地点　出土遺物

第6節　七ノ坪遺跡

Ⅰ　調査に至る経過

七ノ坪遺跡は、北豊中町一帯に所在する弥生時代から古墳時代・中世に属する遺跡である。昭和32年冬、府立泉大津高校北門前の水田、通称「七ノ坪」において地下げ工事が行われた際、同校地歴部員によって土師器片が採集され、「七ノ坪遺跡」と名付けられた。昭和43年以来同校校舎の増改築工事に先立ち、府教育委員会の実施した発掘調査や、同地歴部による試掘調査、又、周辺部における、府・市教委の調査で、弥生時代後期の溝・水田跡、古墳時代初期の溝・水田跡の他に4世紀前半の土坑、4世紀後半の住居跡・方形周溝墓、5世紀前半の住居跡・木棺直葬墓・墓坑、中世の土坑・溝等が発見され、複合遺跡であることが知られている。今回はこの遺跡の南端部において、事務所兼住宅が計画され、これに先立ち調査を実施したものである。



第51図　七ノ坪遺跡　調査地点図

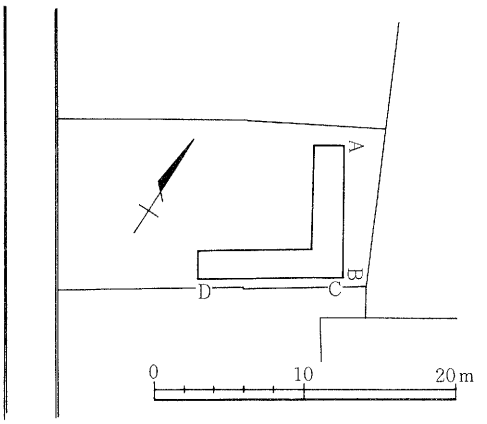
II　調査結果（北豊中町２－464－７　調査番号8703）

住宅建設に先立つ調査である。敷地面積は233.72㎡である。

敷地内に、幅1.9m、深さ1.0～1.1m、長さ南北9.4m、東西8.6mの規模のL字型の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とした調査を実施した。

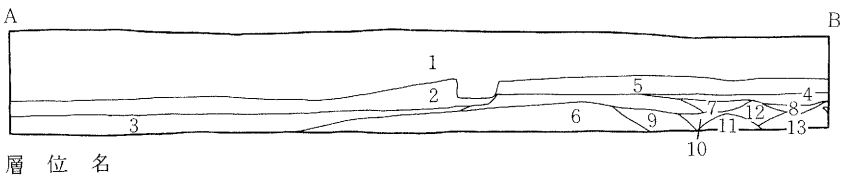
層序は上部より、盛土約70cm、耕土５～10cmで、それより下層においては、砂礫、粘質土などが互層となった複雑な堆積となる。

北壁砂層中より土師器の小片が出土したが、遺構は確認されなかった。写真撮影及び断面実測図を作成し、調査を終了した。



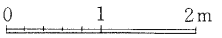
第52図　七ノ坪遺跡　掘削位置図

北壁

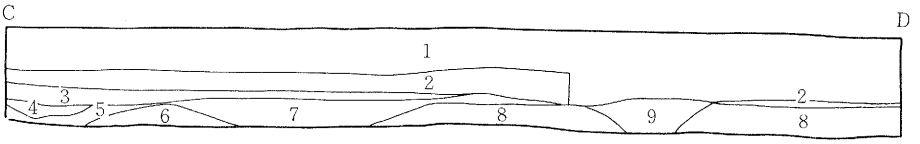


層位名

1．盛　　土　　5．褐色砂質土　　9．灰茶色小礫　　13．灰黄色粘砂
2．耕　　土　　6．灰色砂礫　　10．茶褐砂
3．灰色砂質土　　7．灰褐色粘砂　　11．灰色砂
4．茶褐色粘質土　　8．灰褐色粗砂　　12．灰褐色砂



東壁



層位名

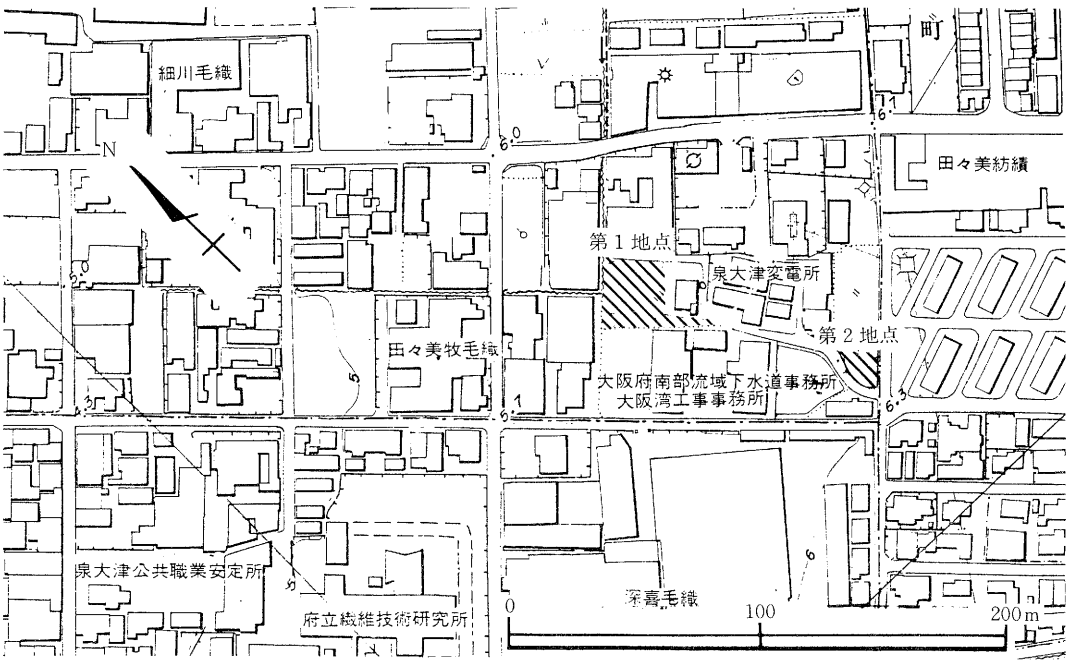
1．盛　　土　　4．灰褐色粗砂　　7．灰褐色小礫混砂
2．耕　　土　　5．灰黄色粘砂　　8．灰色砂礫
3．茶褐色粘質土　　6．灰褐色礫混砂　　9．撹乱層

第53図　七ノ坪遺跡　調査坑断面図

第７節　東雲遺跡

Ⅰ　調査に至る経過

昭和52年、東雲町地番で、大阪府南部流域下水道・南大阪湾岸工区事務所の建設工事着工直後、市民より、付近において以前工事中多量の土器が出土していることから、調査の必要があるのではないかとの指摘があった。府教育委員会は府下水道事業所と協議の結果、事前に発掘調査を実施することになり、豊中・古池遺跡調査会が調査を行った。これが東雲遺跡発見の発端である。この調査で、古墳時代前期の竪穴住居址２軒、井戸２基、溝２条が発見された。又、中世の掘立柱建物16棟が検出され、４期に分けられると推定される。



第54図　東雲遺跡　調査地点図

Ⅱ　調査結果

第　１　地　点（東雲町61－１、62－２　調査番号8706）

住宅建設に先立つ調査である。敷地面積は971.68㎡である。

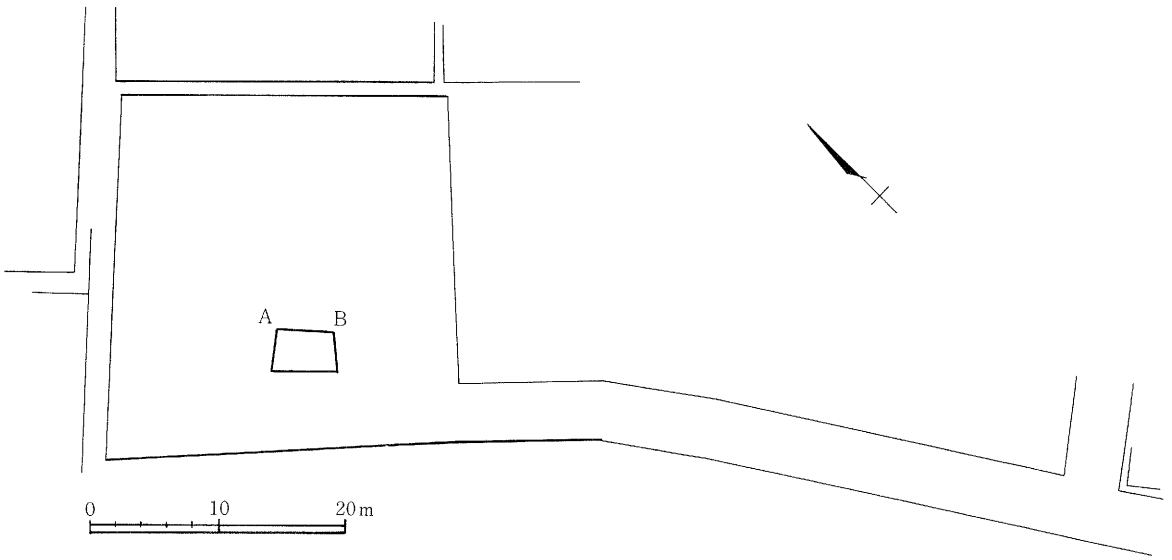
敷地の西寄りに、幅4.5ｍ、深さ3.6～7.0ｍ、長さ4.5ｍの規模の調査坑を設定し、重機にて掘削の後、人力にて壁面等を削り断面観察を中心とする調査を実施した。一部遺構の検出により平

面の精査もおこなった。

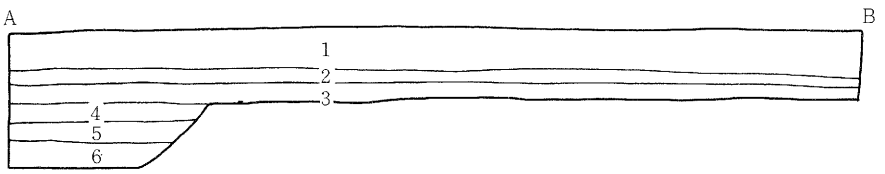
層序は上部から、耕土約20cm、茶灰色砂質土６～８cm、黄茶灰色砂質土８～10cm、灰黄色粘砂土10cm、黄灰色粘質土10cm、茶褐色粘質土となる。ほぼ水平的な堆積状況である。

黄茶灰色砂質土を遺構面として中世のものと思われる水田遺構（すき溝）を検出した。また黄茶灰色砂質土より瓦器片、青灰色粘質土から土師器、須恵器の小片が若干出土している。

現状では、基礎掘削が遺構面にまで至らないことなどから、写真撮影及び断面実測図を作成して調査を終了した。

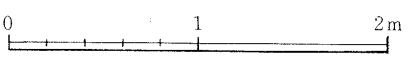


第55図　東雲遺跡　第１地点　掘削位置図



層　位　名

１．耕　　土　　４．灰黄色粘砂土
２．茶灰色砂質土　　５．青灰色粘質土
３．黄茶灰色砂質土　　６．茶褐色粘質土



第56図　東雲遺跡　第１地点　調査坑断面図

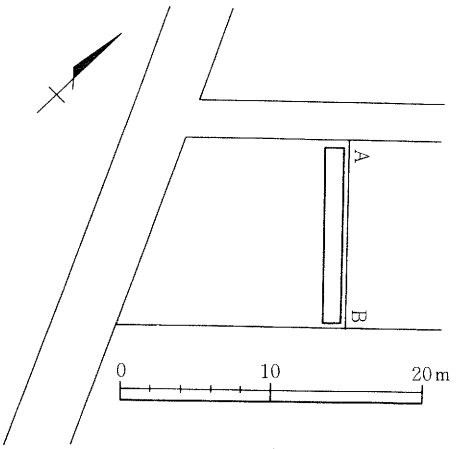
第　2　地　点（東雲町63－6　調査番号8711）

事務所建設に先立に調査である。敷地面積は155.115㎡である。

敷地の北辺に添い、幅1.2m、深さ1.0m、長さ10.0mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とする調査を実施した。

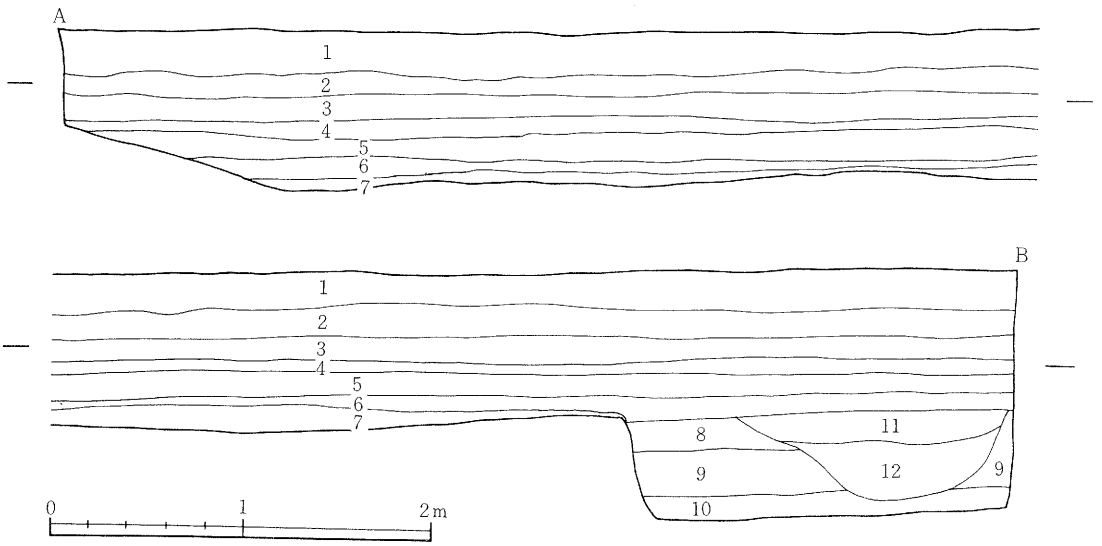
層序は上部より、盛土及び耕土35～40cm、以下褐灰色土、黄灰色土、灰色粘砂土、褐灰色粘質土が層厚8～15cmで水平状況で堆積し、黄褐色土20cmを経て黒灰色粘土となる。

調査坑の東端部において、幅1.0m、深さ0.5mほどのゆるいU字状で南北にはしる自然流路が検出された。灰色粘砂土中に若干遺物の細片が認められた。



第57図　東雲遺跡　第2地点　掘削位置図

遺物は二次堆積によるものと思われ、また明確な遺構も存在しなかったため、写真撮影及び断面実測図を作成して調査を終了した。



層　位　名

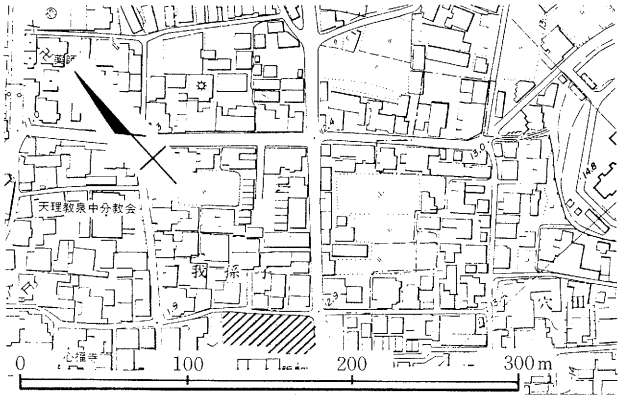
1．盛　　土　　4．暗灰色土　　7．褐灰色粘質土　　10．黒灰色粘土
2．耕　　土　　5．黄灰色土　　8．灰黄色土　　11．灰　色　砂
3．褐灰色土　　6．灰色粘砂土　　9．黄褐色粘土　　12．黄灰色砂礫

第58図　東雲遺跡　第2地点　調査坑断面図

第８節　穴田遺跡

Ⅰ　調査に至る経過

昭和31年、穴田に於て、土製羽釜の底を打ち欠いて井戸枠として利用された井戸が発見され㉒、中世の集落跡として周知されているが、出土場所や深さなど発見に関する詳細は不明である。その後調査も行なわれず、その範囲についても不確定であるまま今日に至っており、今後は機会ある毎に調査を実施し、その解明に努めなければならない遺跡の一つである。

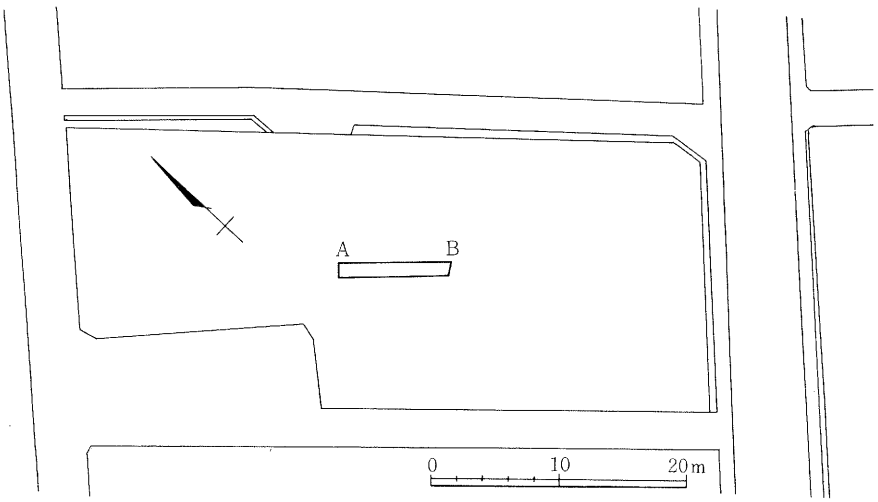


第59図　穴田遺跡　調査地点図

Ⅱ　調査結果（我孫子町54－１　調査番号8708）

事務所建設に先立つ調査である。敷地面積は1,080.0㎡である。

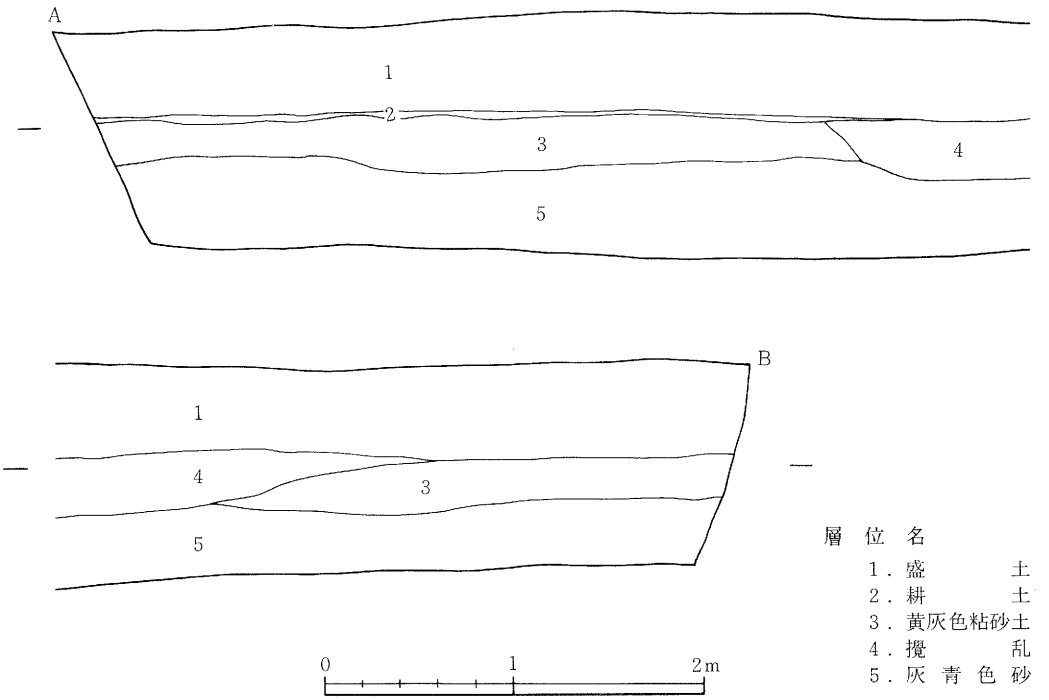
敷地のほぼ中央に、幅1.0m、深さ1.2～1.3m、長さ8.5mの規模の調査坑を設定し、重機により掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とした調査を実施した。



第60図　穴田遺跡　掘削位置図

層序は上部より、盛土50cm、耕土１～２cm、黄灰色粘砂土20～30cmで灰青色砂となる。ほぼ水平な堆積状況を示し、床土より下は砂質土層で湧水もはじまる。

遺構、遺物等は確認されず、写真撮影及び断面実測図を作成して調査を終了した。



第61図　穴田遺跡　調査坑断面図

引　用　文　献

① 高石市教育委員会 『大園遺跡発掘調査概要』 1976・3

② 和泉市史編纂委員会 『和泉市史』第一巻 1965・10

③ 和気遺跡調査会 『和気』 1979・3

④ (財)大阪府埋蔵文化財協会 『泉州の遺跡』 1986・2

⑤ 大阪府教育委員会 『第2阪和国道内遺跡発掘調査概報――板原遺跡――』 1980・3

⑥ 豊中・古池遺跡調査会 『豊中・古池遺跡発掘調査概報 そのIII』 1976・3

⑦ 泉大津市教育委員会 『泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報2』 1984・3

泉大津市教育委員会 『泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報3』 1985・3

⑧ 泉大津高校地歴部 『和泉の古代遺跡』 和泉考古学第5号 1961・3

⑨ 大阪府「弥生文化と農耕」『大阪府史』 第一巻 1983・3

⑩ 調査時点では要池遺跡であったが、現在は古池遺跡として遺跡分布図に記載されている。

⑪ 大阪府教育委員会 『七ノ坪遺跡発掘調査概要』 1974・3

⑫ 大阪府教育委員会 『七ノ坪遺跡発掘調査概要III』 1984・3

⑬ 泉大津市教育委員会 『豊中遺跡発掘調査概要III』 1979・3

⑭ 大阪府教育委員会 『要池遺跡発掘調査概要I』 1975・3

⑮ 大阪府教育委員会 『第2阪和国道内遺跡発掘調査概報――板原遺跡――』 1980・3

⑯ 豊中・古池遺跡調査 『豊中・古池遺跡発掘調査概報 そのIII』 1976・3

泉大津市教育委員会 『豊中遺跡発掘調査概報III』 1979・3

⑰ 泉大津高校地歴部 『和泉の古代遺跡』 和泉考古学第5号 1961・3

和泉市史編纂委員会 『和泉市史』第一巻 1965・10

⑱ 泉大津高校地歴部 『和泉の古代遺跡』 和泉考古学第5号 1961・3

⑲ 泉大津市教育委員会 『泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報3』 1985・3

⑳ 大阪府教育委員会 『第2阪和国道内遺跡発掘調査概報――板原遺跡――』 1980・3

㉑ 大阪府教育委員会 「泉大津市池浦遺跡発掘調査概要」『節・香・仙』 1972・

㉒ 泉大津高校地歴部 『和泉考古学・別冊考古学調査報告1』 1958・2

表5　遺物観察表

豊中遺跡第5地点

＜土師器＞

No.	口径(cm)	器高(cm)	胎土・色調	調整	出土場所(層)	備考
A	22.0	(残存高) 4.0	0.5mmの砂粒を含む。 内面　淡茶褐色 外面　淡茶褐色	内面　ナデ	竪穴住居址2 暗灰黄色粘質土	焼成：良好 壺
B	18.0	(残存高) 5.5	0.1～0.2mmの砂粒を含む。 内面　乳白色～黒褐色 外面　乳白色	内面　ナデ 外面　ナデ	竪穴住居址2 暗灰黄色粘質土	焼成：良好 壺
C	15.8	(残存高) 13.6	0.1～0.2mmの砂粒を含む。 内面　白灰色 外面　明茶褐色	内面　ナデ 外面　ナデ	竪穴住居址2 暗灰黄色粘質土	焼成：やや軟 壺
D	17.0	(残存高) 2.4	0.1～0.2mmの砂粒を含む。 内面　乳白色 外面　乳茶色	内面　ナデ 外面　ナデ	竪穴住居址2 暗灰黄色粘質土	焼成：やや軟 壺

＜瓦　器＞

No.	口径(cm)	器高(cm)	胎土・色調	調整	出土場所(層)	備考
E	9.5	2.0	0.1～0.2mmの砂粒を含む。 内面　黒色 外面　黒色	内面　ヘラミガキ 外面　ヘラミガキ	井戸 下層　青灰色砂	焼成：良好 口縁部内面に沈線1本 小皿
F	9.6	1.9	0.1～0.2mmの砂粒を含む。 内面　淡褐色～黒灰色 外面　淡褐色～黒灰色	内面　ナデ 外面　ナデ	井戸 下層　青灰色砂	焼成：良好 小皿

豊中遺跡第6地点

＜土師器＞

No.	口径(cm)	器高(cm)	胎土・色調	調整	出土場所(層)	備考
1	13.3	(残存高) 6.5	精良 乳灰色	口縁部　ナデ 胴部　外面　タタキ 内面　削りナデ	溝　1	焼成：やや軟 甕
2	——	——	茶褐色	体部　外面　タタキ 内面　削り	溝　1	焼成：良好 スス付着 甕
3	——	(残存高) 5.3	1mm以下の砂粒を多量に含む。 灰茶色	体部　外面　ハケメ 底部 脚台部　外面　ハケメ 内面　ナデ、指押え	溝　1	焼成：良好 台付甕

No.	口径(cm)	器高(cm)	胎土・色調	調整	出土場所(層)	備考
4	——	(残存高) 6.5	1～2㎜の砂粒を含む。 茶灰色	不明	2号竪穴住居址	焼成：やや軟 壺底部
5	10.3	(残存高) 6.5	1㎜前後の砂粒を含む。 茶灰色	口縁部 外面 ナデ、ヘラ磨き 内面	溝 1	焼成：良好 壺
6	(底部径) 10.0	5.9	1㎜前後の砂粒を含む。	脚台部 外面 ナデ、ヘラ磨き 内面 ナデ、指押え	溝 1	焼成：良好 高杯
7	8.0	5.9	1㎜前後の砂粒を含む。 茶灰色	口縁部 ナデ 脚台部 指押え	2号竪穴住居址 ピット	焼成：やや軟 小型高杯

＜石　器＞

No.	法量	材質	調整・加工	出土場所(層)	備考
8	全長 3.0cm 幅 1.35cm 厚さ 2～3㎜ 質量 1.75g	白色チャート	両側面に刃部作り出し。	東拡張部	小型ナイフ型石器

池浦遺跡第3地点

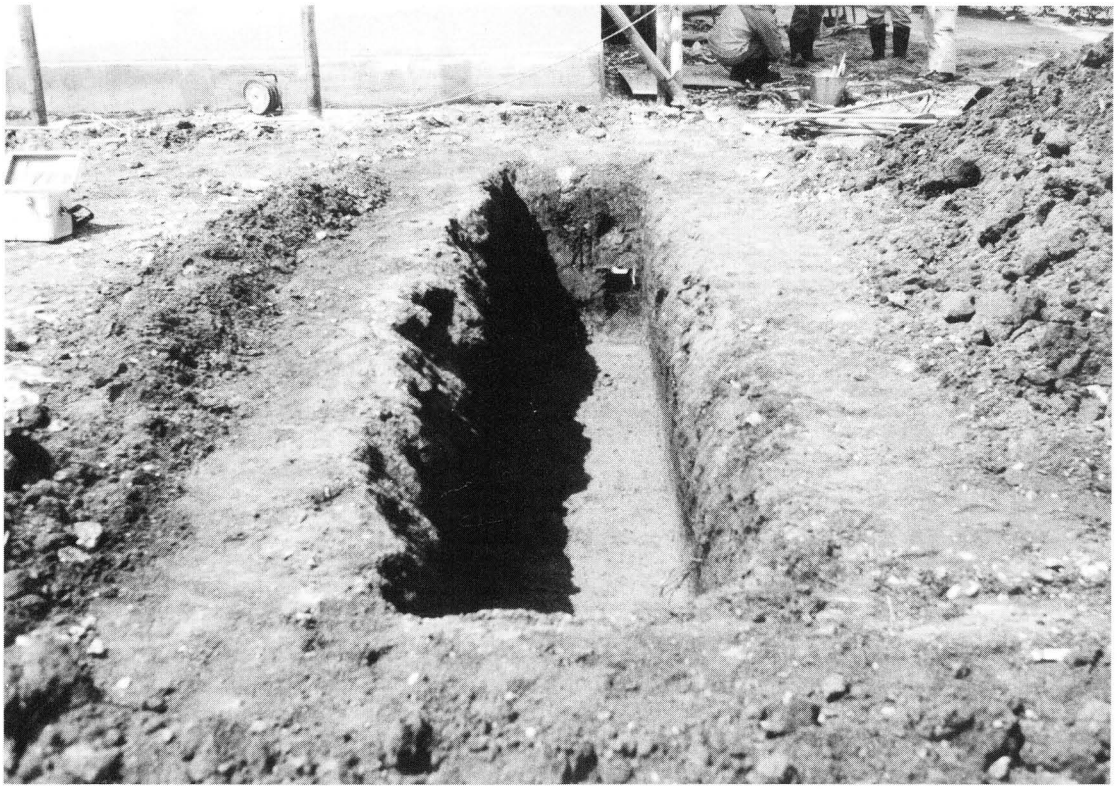
＜土師器＞

No.	口径(cm)	器高(cm)	胎土・色調	調整	出土場所(層)	備考
9	——	——	明灰黄色	口縁部 横ナデ 頸部 ハケメ	暗灰黄色砂質土	焼成：良好 二重口縁壺

＜瓦＞

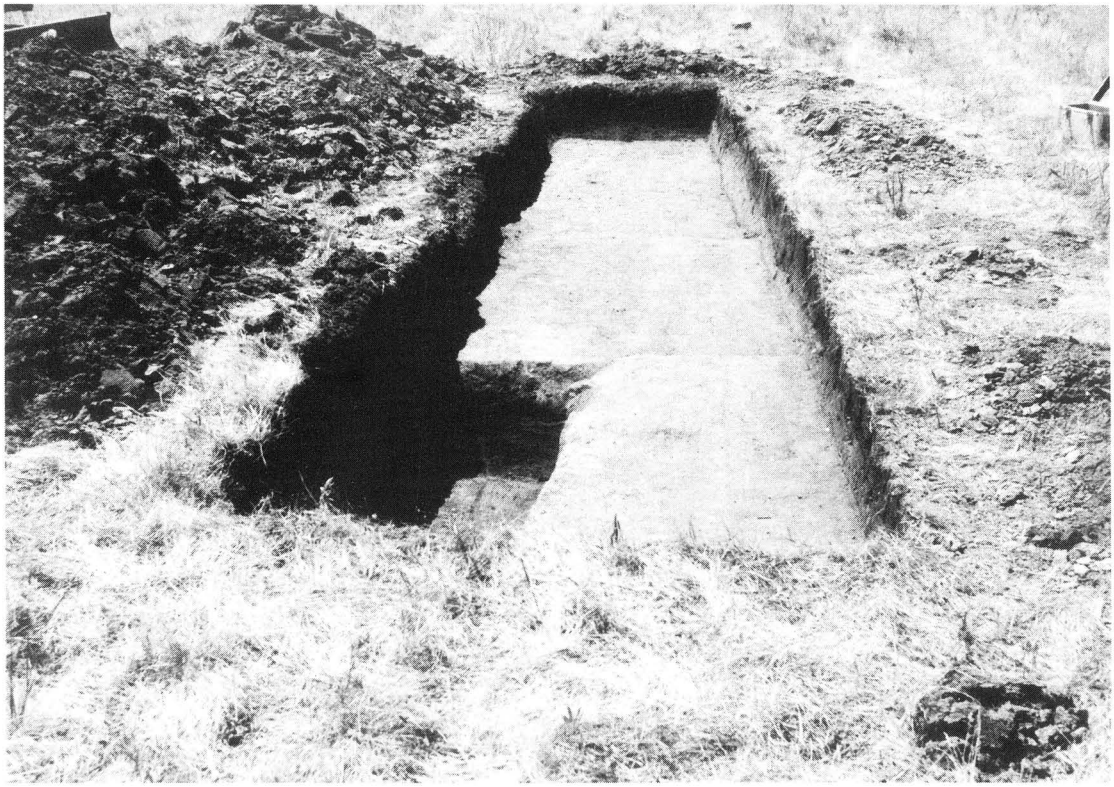
No.	口径(cm)	器高(cm)	胎土・色調	調整	出土場所(層)	備考
10	——	——	砂粒等多く含む。 暗灰白色	凹面 布目痕 凸面 縄目タタキ	暗灰黄色砂質土	焼成：良好 平瓦

図　　版



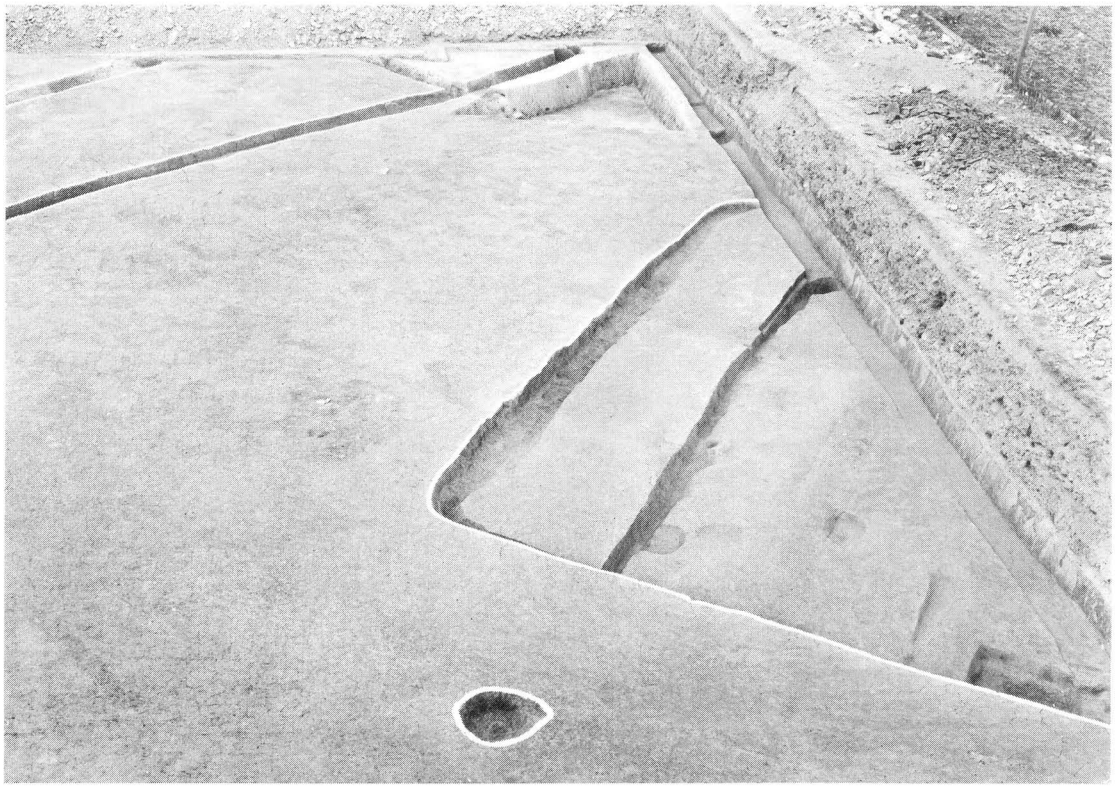
池上曽根遺跡第１地点調査坑

池上曽根遺跡第２地点調査坑



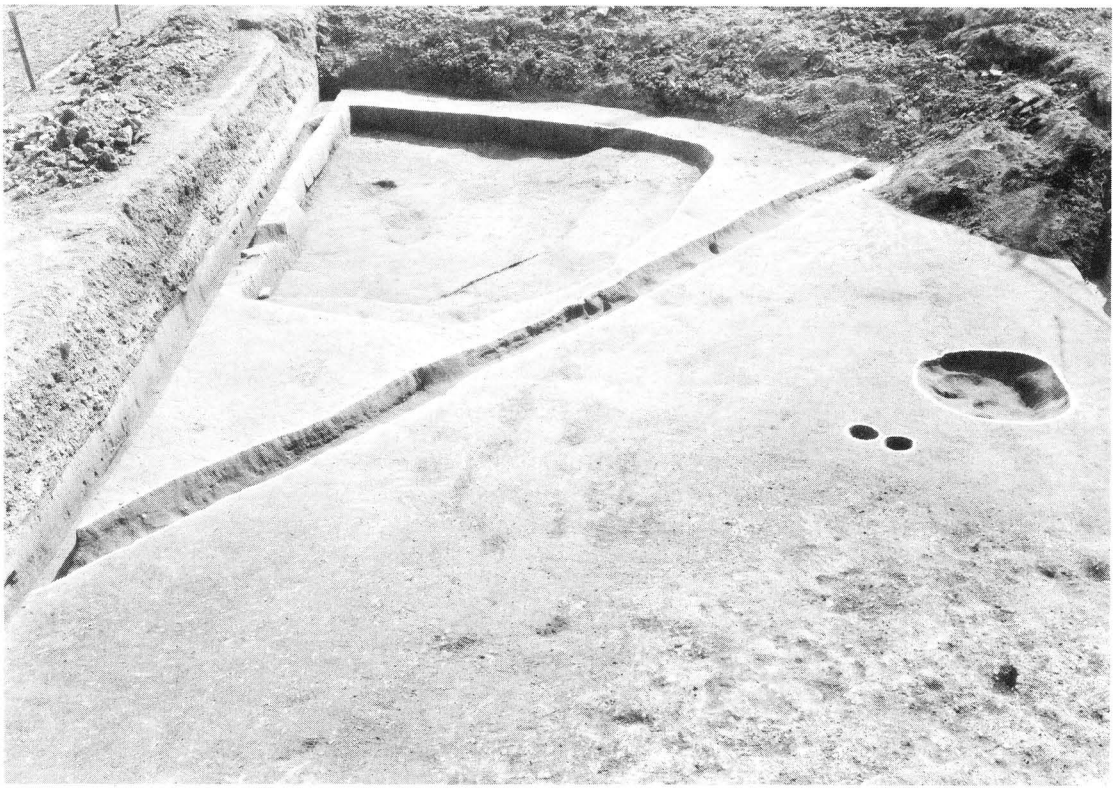
豊中遺跡第 1 地点調査 坑

豊中遺跡第 4 地点調査 坑

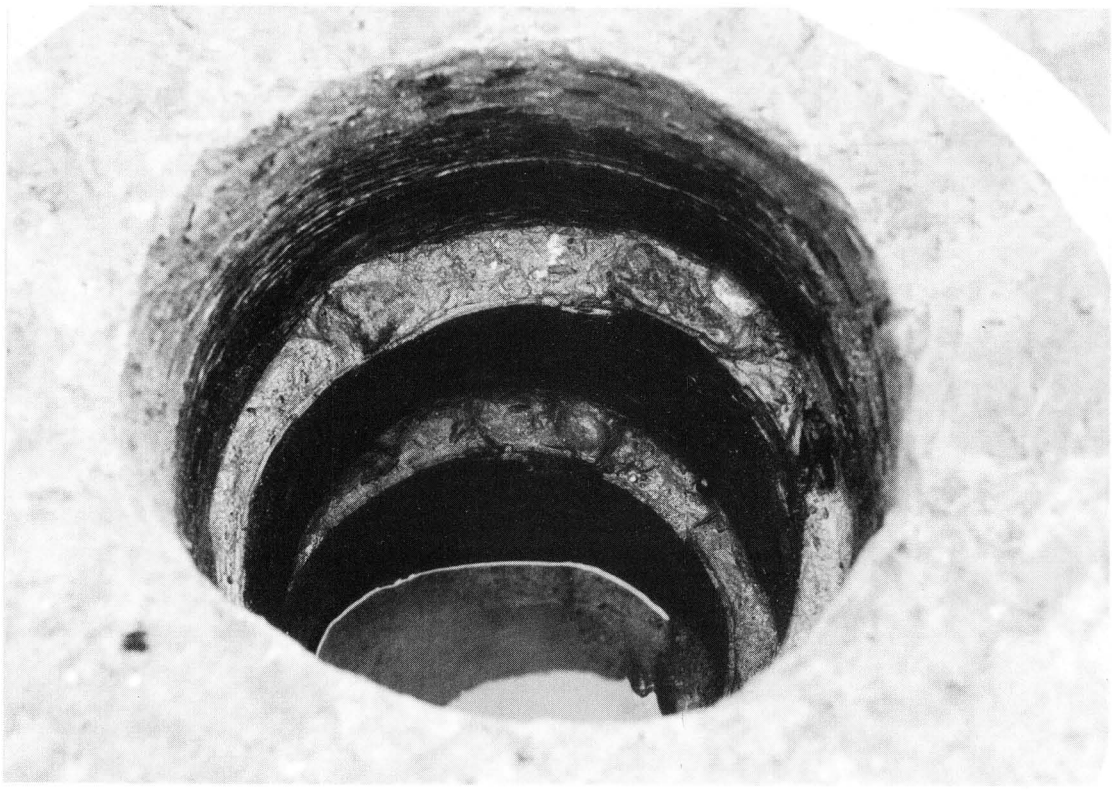


豊中遺跡第5地点南部遺構全景

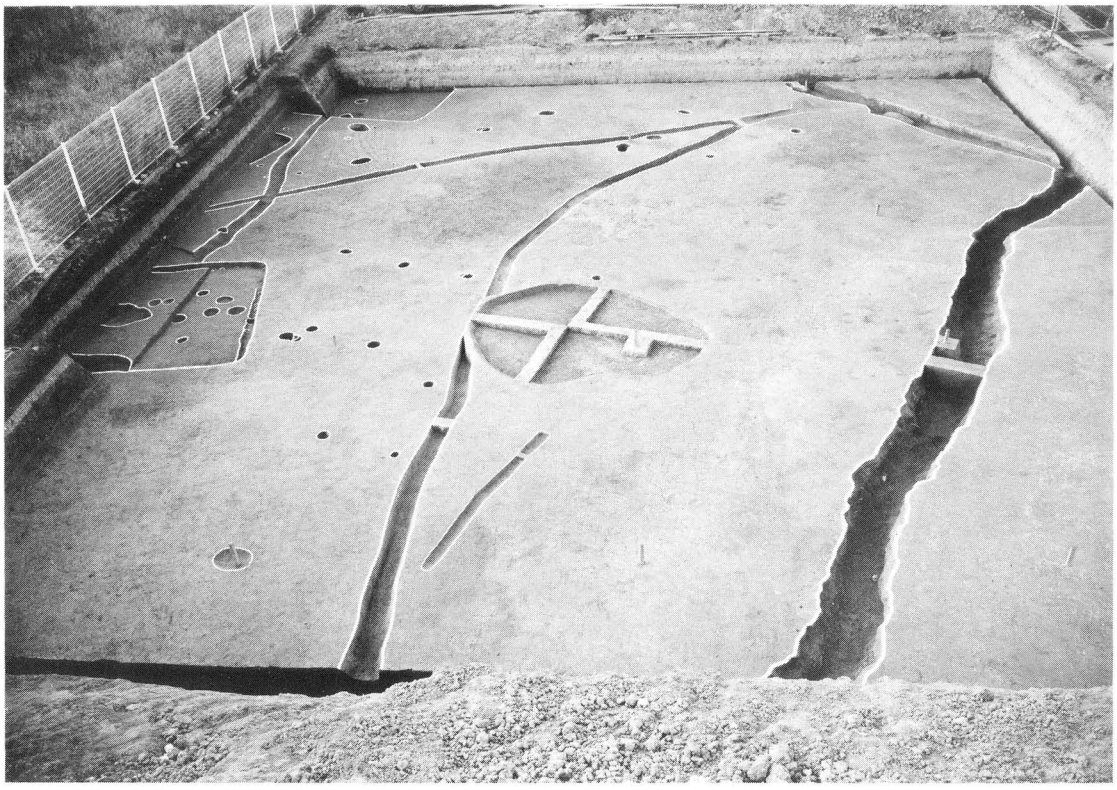
豊中遺跡第5地点竪穴住居址1貯蔵穴



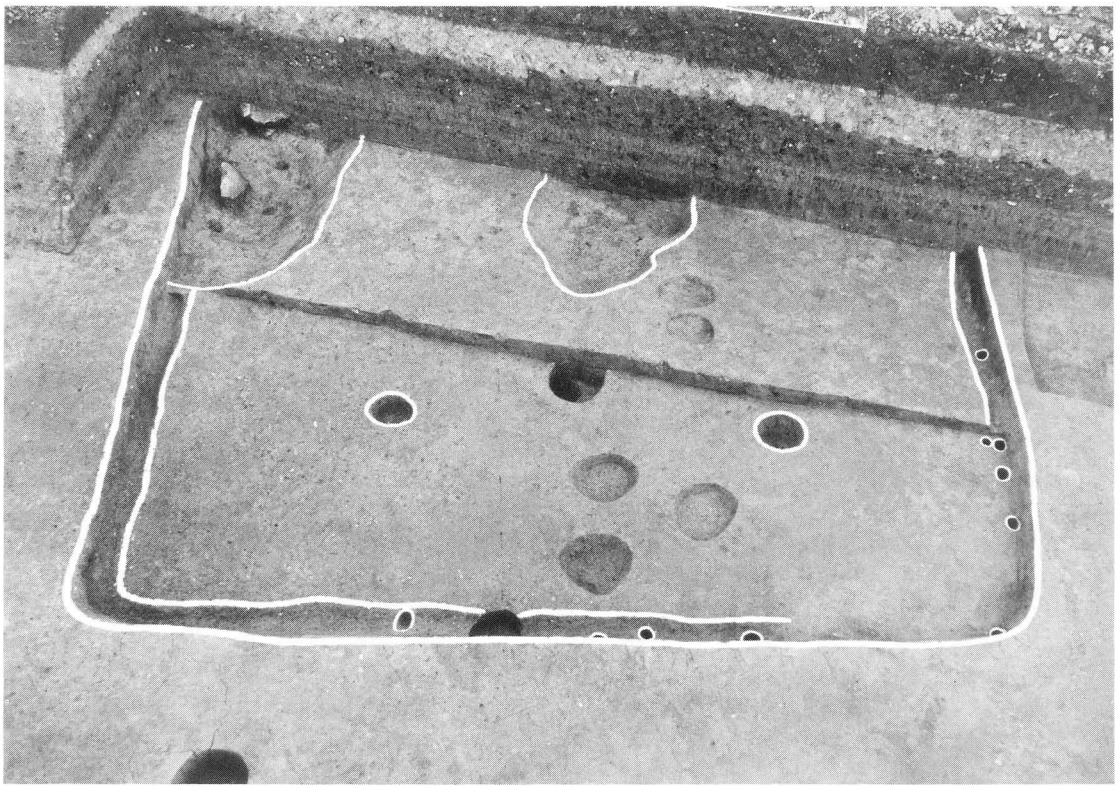
豊中遺跡第5地点北部遺構全景



豊中遺跡第5地点井戸

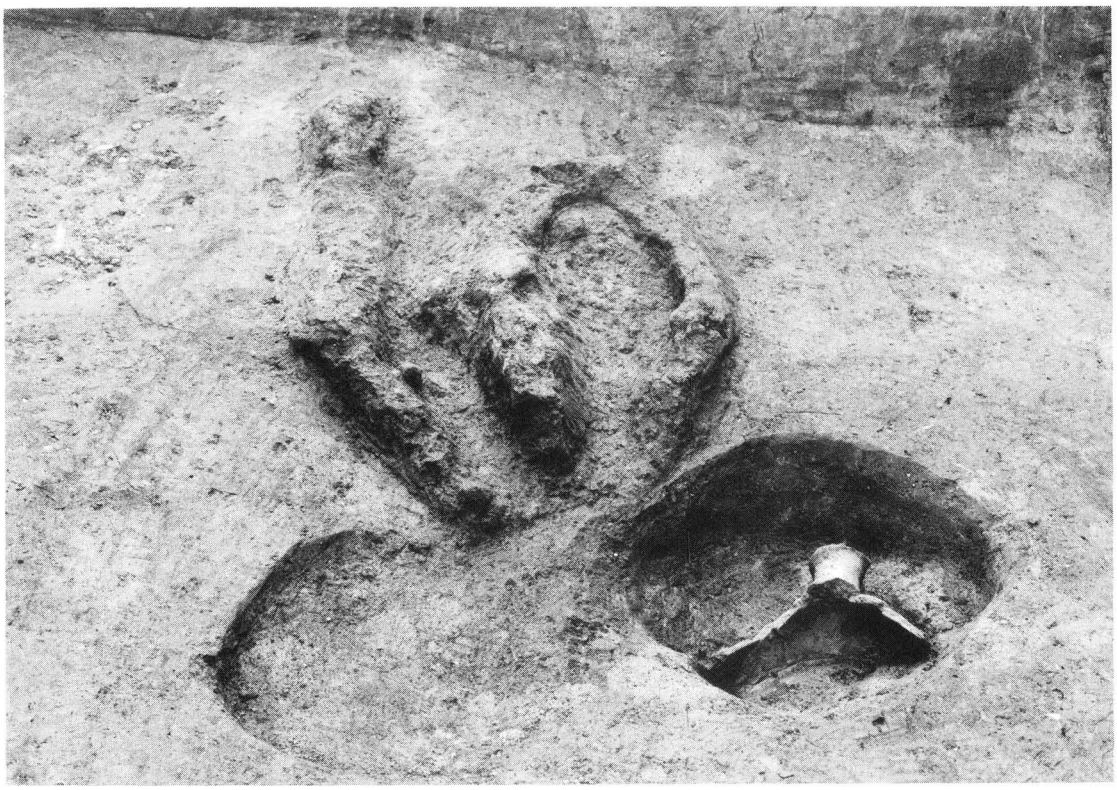


豊中遺跡第 6 地点遺構全景

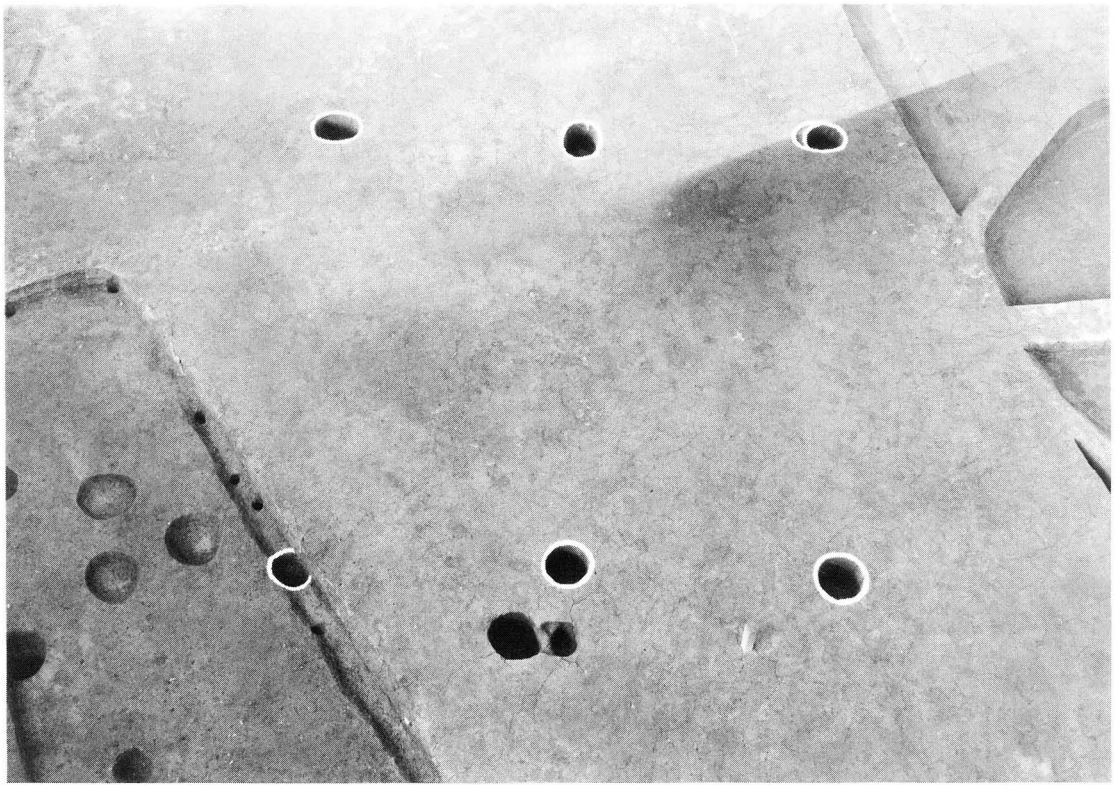


豊中遺跡第 6 地点 1 号竪穴住居址

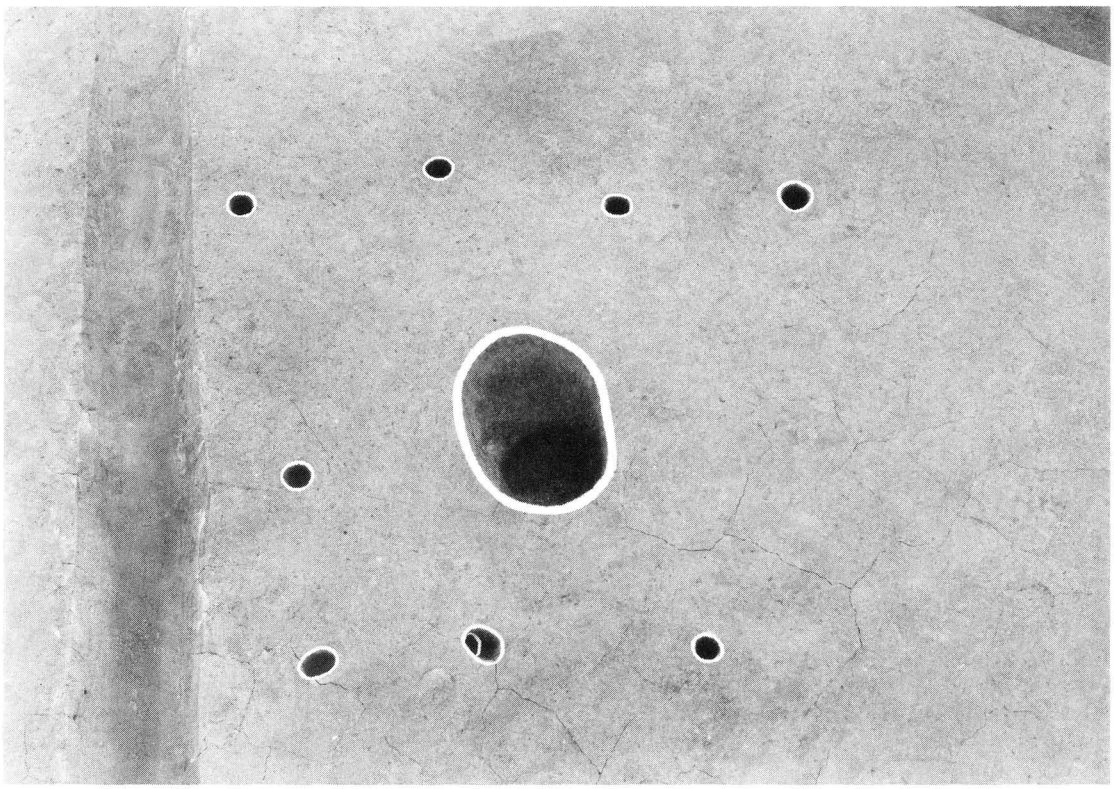
豊中遺跡第6地点2号竪穴住居址



豊中遺跡第6地点2号竪穴住居址カマド状遺構

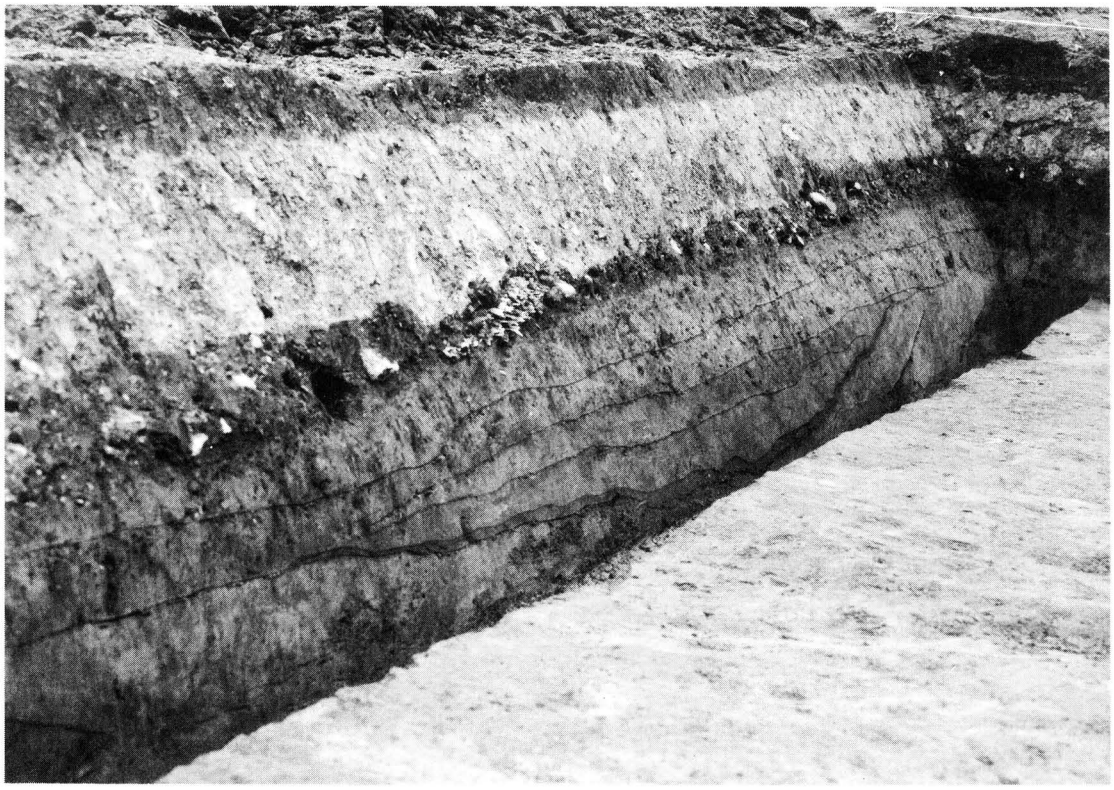


豊中遺跡第6地点掘立柱建物跡



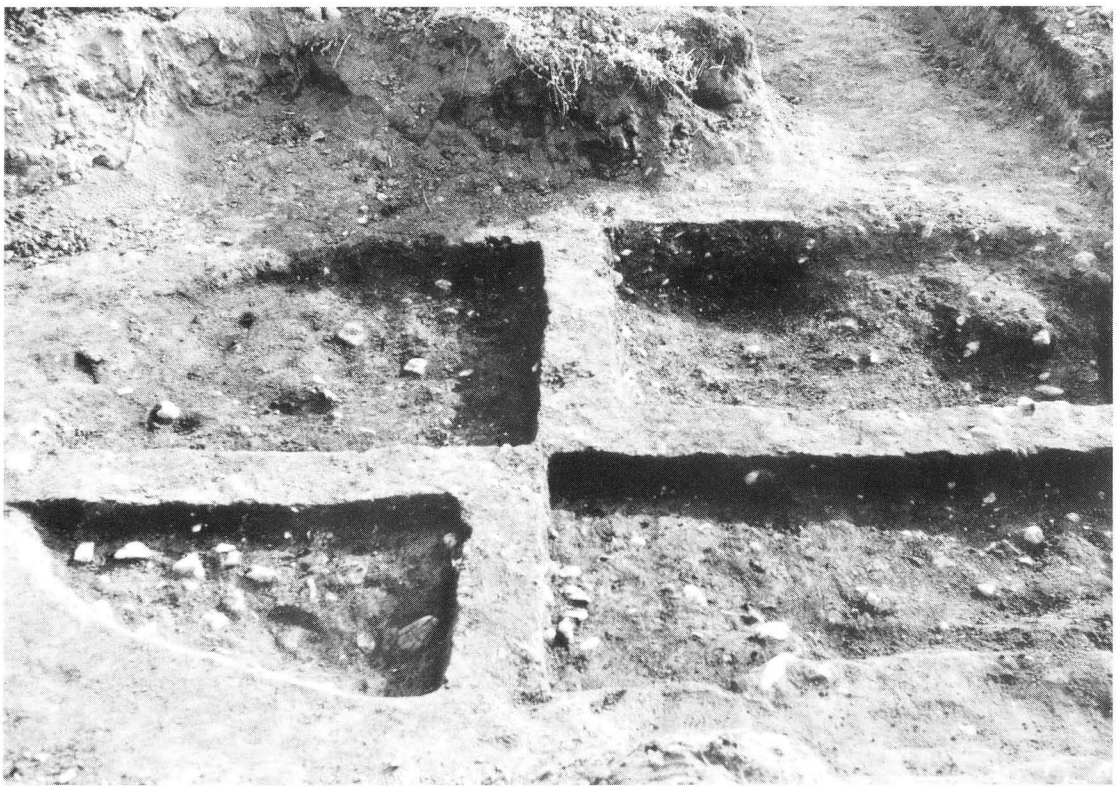
豊中遺跡第6地点ピット2

豊中遺跡第 6 地点溝 1

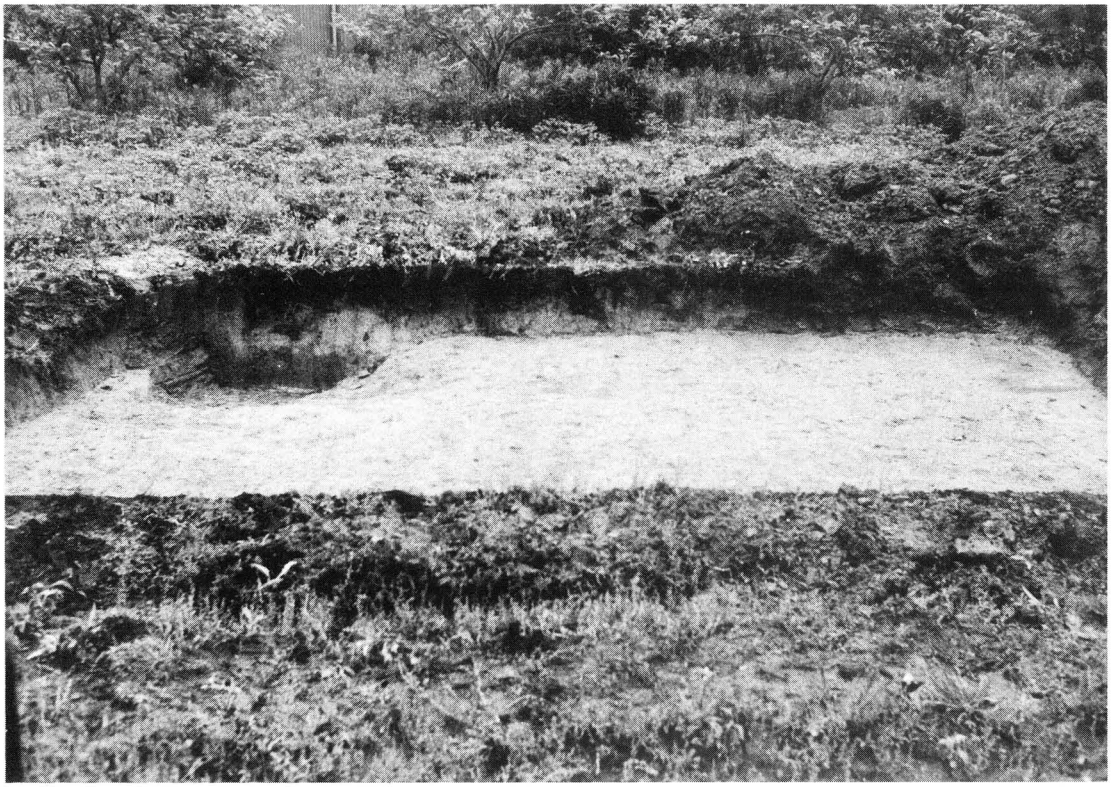


豊中遺跡第 6 地点北壁河川状遺構断面

池浦遺跡第１地点調査坑



池浦遺跡第１地点ピット



東雲遺跡第１地点調査坑

東雲遺跡第２地点調査坑

泉大津市文化財調査報告16
泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報６

１９８８年３月

発　行　泉大津市教育委員会
編　集　社　会　教　育　課
泉大津市東雲町９番12号
印　刷　和泉出版印刷株式会社
和泉市池上町460－33